楽(ら・今村)　→　*楽*(たぬし・今村いまむら、医/国学/歌)　Ｇ２６３４
羅庵主人(らあんしゅじん)　→　*無満*(むまん・藍沢あいざわ、俳人/教育)　Ｄ４２０１
来(らい・青木)　→　*貞信尼*(ていしんに・三輪みわ、歌妓/歌人)Ｂ３０３０
来(らい・大久保)　→　*来*(きたる・大久保おおくぼ、藩士/歌人)　Ｔ１６７４
頼(らい・源)　→　*頼*(たのむ/よる・源みなもと、廷臣/歌人)　Ｓ２６１９
頼(らい・棚橋/岡本)　→　*一方*(いっぽう・岡本おかもと、藩士/儒者)　Ｈ１１９４
頼(らい・森川)　→　*頼*(たのむ・森川もりかわ、楽人/国学/歌)　２７０２
雷(らい・国栖/世古)　→　*景雷*(けいらい・国栖くず/世古、漢学者)　Ｇ１８７６
賚(らい・大沢)　→　*赤城*(せきじょう・大沢おおさわ、藩儒)　Ｄ２４５９
賚(らい・田岡)　→　*凌雲*(りょううん・田岡たおか、藩士/儒者)　Ｇ４９４０

4800　**来阿**(らいあ)　？－　？　連歌;1449時述催;忍誓「広柏ひろがしわ千句」連衆
D4856　**頼阿**(らいあ;法諱)　？－1815　京の浄土僧;教安寺住職、歌人;澄月(1714-98)門
4812　**来庵**(らいあん)　？－　？　俳人;1672重徳「俳諧塵塚」立圃との両吟入
D4850　**来安**(らいあん・岩井)　？－　？　江前期京の俳人;1676西鶴「古今誹諧師手鑑」入、
[心あてに折らく連れもぞ菊の酒](手鑑/
古今;躬恒;心あてに折らばや折らむ初霜の置きまどはせる白菊の花)
4813　**莱庵**(らいあん・北山きたやま)　？－　？　詩;北山橘庵門、1788「橘庵詩鈔」跋文の一人
D4854　**来安**(らいあん・呉ご)　1822－1896*75*　肥前長崎の代々唐通事、肥後で医を修学;
長崎で開業医、扶桑教会大教正、維新後;兵庫県外務課出仕
頼安(らいあん・宮川)　→　*頼安*(よりやす・宮川みやがわ、藩士/国学)　Ｐ４７３８
懶庵(らいあん)　→　*悟心*(ごしん:道号・元明:法諱、黄檗僧)Ｄ１９０２
懶庵(らいあん;号)　→　*英璵*(永璵えいよ;法諱・玉隠、臨済僧)　１３４９
懶庵(らいあん・加倉井)　→　*砂山*(さざん・加倉井、儒/書/武術)　Ｂ２０６１
睐庵(らいあん)　→　*眠牛*(初世めんぎゅう・増田、俳人)　４３５２

4814　**頼意**(らいい;法諱、通称;護持院僧正)?-?　1375存　真言僧;護持院大僧正、
1338義良親王奥州下向に際し勅使として伊勢神宮に行く、1355(正平10)東寺一長者、
1365「南朝正平廿年点取三百首和歌;於住吉行宮」参加、
1375「南朝五百番歌合」参加/新葉14首(157/168/578/606以下)、
[住の江の松もさかゆく色見えてつらなる枝にかかる藤波](新葉集;春157、
弥生末に妙光寺内大臣花山院家賢の住の江の藤見物と出合い帰ってのち贈る歌)
頼為(らいい・吉見)　→　*頼為*(よりため・吉見よしみ/源、武将/歌人)Ｉ４７９９
頼一(らいいち・安村)　→　*頼一*(よりいち・安村やすむら、音曲家;筑紫琴)Ｉ４７４２

4815　**頼印**(らいいん;法諱)　1323－1392*70*　母;榛名座主快忠女、内大臣三条公忠の猶子、
上州群馬郡榛名山の生/1336頼仲に入室;40出家;真言僧/58権大僧都/63法印、
1368鶴丘八幡宮執行及び社家執事/78(永和4)関東護持僧/権僧正、
1381東寺長者・榛名座主、歌人:1364-5頃成立「一万首作者」に出詠、新後拾遺(583)、
[こと浦の春よりもなほかすめるや焼く塩竈のけぶりなるらん](新後拾:雑春583)
[頼印(;名)の号/通称]号;我覚院/密乗坊、通称;遍照院権僧正/内大臣僧正/中納言法印
頼胤(らいいん・葉室)　→　*頼胤*(よりたね・葉室はむろ/藤原/橋本、廷臣/記録)Ｉ４７９８
頼胤(らいいん・松平)　→　*頼胤*(よりたね・松平まつだいら、藩主/幕政)　Ｐ４７２４
頼蔭(らいいん・諏訪)　→　*頼蔭*(よりかげ・諏訪すわ、旗本/奉行)　Ｎ４７４０

4816　**雷雨**(らいう)　？－　？　江戸雑俳点者、1702松淵「冠独歩行かんむりひとりあるき」入
4817　**雷雨**(らいう;法諱、法名;観蓮社称誉念阿真相)?-1879　浄土僧:初め山城駒郷阿弥陀寺住、
のち京の一心院54世、維新当時は天台学の巨匠・戒律厳持の浄土律僧として活躍、
京の知恩院勧学所などで浄土学・天台学を講ず、「大原問答聞書」「四教儀集註刪補講録」著
来雨(らいう)　→　*眉山*(初世びざん・中山なかやま、俳人)　Ｃ３７２５

懶雲子(らいうんし;号)　→　*周噩*(しゅうがく:法諱・厳中、臨済僧)　Ｈ２１００
4818　**頼英**(らいえい;法諱)　？－　？　僧;法眼、歌人:新後拾遺645、
[芳野川いはどがし葉も色かへて花散りかかる岸の山吹](新後拾;雑春645)
頼永(らいえい・遠山)　→　*頼永*(よりなが・遠山とおやま、歌学者)　Ｊ４７３１
頼永(らいえい・有馬)　→　*頼永*(よりとお・有馬ありま、藩主/詩文)　Ｊ４７１３
頼永(らいえい・諏訪)　→　*頼永*(よりひさ・諏訪すわ/酒井、幕臣)　Ｊ４７５４
頼永(らいえい・丹波)　→　*頼永*(よりなが・丹波たんば、廷臣/医者)　Ｊ４７３３
雷英(らいえい・葛飾)　→　*北政*(ほくせい・葛飾かつしか、絵師)　Ｄ３９５３
頼易((らいえき・錦小路)　→　*頼易*(よりおさ・錦小路にしきのこうじ/丹波、廷臣)Ｉ４７４７
頼益(らいえき・細川)　→　*頼益*(よります・細川ほそかわ/源、武将/歌)　Ｊ４７７７
4819　**頼円**(らいえん;法諱、本姓;宇多源氏、俊恵男)?-? 1182存　源俊頼の孫、平安後期天台比叡山僧、
大峰修行を経験、通称;伊賀公いがのきみ、源頼季・全能・倫円の父、恵慶の従兄弟、
歌人:1182(寿永元)賀茂重保主催の曲水宴に参加、月詣集入、千載集295、
[照る月の影さえぬれば浅茅原雪の下にも虫は鳴きけり](千載;秋295/月光を雪に喩る)、
D4865　**頼円**(らいえん;法諱、勘解由小路頼資男)?-?　鎌倉期;興福寺東光院僧;少僧都良兼[1227没]附弟、
1245維摩講師/62権別当/法印/66別当法印/権僧正、歌人;楢葉集(2首)入、
[わぎもこにかさねしそでのをしければ思ひたたれぬ夏衣かな](楢葉;恋400)
D4863　**頼縁**(らいえん;法諱、為盛男?)?-　？　平安鎌倉期僧;法師、興福寺僧、
歌人;1237楢葉集入、
[なにはがた月はいるえのあしのはに残るよふかき秋のはるしも](楢葉;秋272)
4820　**頼円**(らいえん;法諱・字;宣真)?-1403　紀伊大野郷の真言学僧;快成門/秘密灌頂を受、
のち高野山学僧:釈迦南院の賢重門;大日経疏を研究、賢重門四天王(長覚・宥快・源法と)、
声明の達人、無量寿院住;没、「二教論聞書」「理趣釈聞書」著
4821　**来焉**(らいえん)　？－　？　近江小荒路の真言旨竜泉寺僧、
狂歌;1666行風「古今夷曲集」8首入
[横に車押すとも人の法のりを得ば逆縁ながらゆかん極楽](古今夷曲集;十釈教)
頼円(らいえん:法名)　→　*頼政*(よりまさ・源、武将/歌人)　４７３６
頼遠(らいえん・土岐)　→　*頼遠*(よりとお・土岐とき/源、武将/歌人)　Ｊ４７１２
礼焉子(らいえんし)　→　*元成*(げんせい・向井むかい、儒者/医/俳)　Ｅ１８２７
4822　**莱翁**(らいおう:道号・黙仙もくせん:法諱)?-?　江中期曹洞僧:頑極官慶がんごくかんけい門;法嗣、
1755相模雲林寺で義勇に出会う;1759(宝暦9)尾張春日井郡落合村の仏門寺2世、
1764摂津仏眼寺参詣;頑極官慶の牌を拝す/1777名古屋新豊院で開山官慶の年忌法会催、
「莱翁黙仙和尚語録」著
D4858　**来応**(來應らいおう・矢口やぐち、本姓;増原)1782-1858*77*　安藝広島藩士;1801(享和元)勘定方、
心学者;江戸で大島有隣うりん門、京の明倫舎で心学講師の資格を得る、
1819(文政2)広島に敬信舎を開設;広島心学の祖、林仲子(1790-1846)と結婚、
[來応(;号)の名/通称]名;直方、通称;八郎平
来翁(らいおう・増田)　→　*紫陽*(しよう・増田ますだ、藩儒/尊攘/詩)　Ｇ２２４６
頼央(らいおう・藤田)　→　*頼央*(よりなか・藤田ふじた、暦算家)　Ｊ４７２９
頼翁(らいおう・木村)　→　*黙老*(もくろう・木村、藩家老/芸能)　Ｂ４４１４
懶翁(らいおう・号)　→　*玄東*(げんとう;法諱、臨済僧/歌人)　Ｎ１８７７
籟翁(らいおう・矢田部)　→　*盛隣*(もりちか・矢田部やたべ、神職/国学)　Ｌ４４７３
賚黄(らいおう・松井)　→　*輝星*(暉星きせい・松井まつい、易占家)　Ｂ１６３６
磊翁(らいおう・沢)　→　*喬*(たかし・沢さわ/味木、藩士/書画)　Ｌ２６９６
来鷗亭(らいおうてい)　→　*磨三*(まさん・来鷗亭、俳人)　Ｉ４０８６
磊屋(らいおく・津田)　→　*典*(てん・津田つだ、国学者/歌)　Ｅ３０９０
4823　**雷音**(らいおん:道号・元博げんぱく:法諱)1656-1710*55*　山西省平陽府洪桐県の黄檗僧:
1663(8歳)本昌門、1686普陀山の朝陽洞に住/1693(元禄6)悦峰道章に招かれ渡来、
肥前長崎の興福寺住、1710「悦峰禅師語録」編、
[雷音元博の別法諱]　子厳

頼音房(らいおんぼう:僧名)→　由己(ゆうこ・大村、軍記/連歌)
4824　雷夏(らいか・満山みつやま、名;環、南昌厳悦の長男)1736-9055 対馬府中儒者:父門/1752雨森芳洲門、
芳洲没後亀井南冥門、父没後家督を弟厳定に譲渡;学業専念/1761対馬藩校小学校指南役、
のち大学の創設を建議し1788思文館創設;講師を務める、門弟に牟多隆琢ら多数、
「佩間緒言」著、
[雷夏(;号)の字/通称]字;太翀たいちゅう/太中、通称;左近/右内
懶窩(らいか)　→　丈草(じょうそう・内藤,俳人)　２１９２
懶華(らいか)　→　仏頂(ぶっちょう、臨済僧/芭蕉参禅の師)Ｄ３８３８
雷霞(らいか)　→　北斎(ほくさい・葛飾、絵師)　３９６２
磊窩(らいか・石坂)　→　白亥(はくがい・石坂、俳人)　Ｃ３６８６
4825　頼我(らいが:法諱・通称;法悟[鳳梧]院僧正)1304-7976 真言僧;1316出家/東寺宝菩提院亮禅門;
西院流を修学;事相・教相を研鑽、権僧正:東寺勧学院学頭職に就く、「血脈集」「灌頂記」著、
「雑秘要集」「二教論記」「頼我私」「理趣経曼荼羅口訣」「理趣訓読記」「心経秘鍵口訣」外著多
頼該(らいがい・松平)　→　頼該(よりかね・松平まつだいら、藩士/宗教家)Ｉ４７５４
D4862　頼覚(らいかく:法諱、)　?-　?　平安鎌倉期僧;法師、歌人;1237楢葉集入、
[東大寺東南院老若歌合に、
いかばかりつゆに契をむすぶらんきゆればきゆるのべの月かげ](楢葉;秋238)
頼覚(らいかく・松平)　→　頼覚(よりさと・松平まつだいら、藩主名代/国学)Ｐ４７２２
4826　雷嶽(らいがく・花房はなぶさ、名;正慶/正恒)1752-1844長寿93 筑前福岡藩士/儒者;藩儒島村秋江門、
1784(天明4)福岡藩東学問所の佐訓導/1796-1812藩譜編輯に従事、
「水原若宮縁起」「三箇条広義」著、
[雷嶽(;号)の字/通称]字;子斐/積善、通称;伝蔵/藤九郎
頼学(らいがく・松平)　→　頼学(よりさと・松平まつだいら、藩主/詩歌)　Ｐ４７２０
D4847　頼観(らいかん:法諱、藤原道雅男)?-?　平安後期叡山僧/歌人、伊周の孫、
1062無動寺和尚賢聖院歌合参加;左方(比叡山延暦寺塔頭無動寺で検校広算主催)、
[たちかへり見れどもあかず秋萩のむらむら咲ける花の錦は](賢聖院歌合;三番左5)
頼咸(らいかん・有馬)　→　頼咸(よりしげ・有馬ありま、藩主/砲術)　Ｐ４７２１
頼寛(らいかん・岡野/生駒)→　魯斎(ろさい・生駒いこま/岡野、藩家老/詩歌/兵学)Ｂ５２５２
頼戡(らいかん・諏訪)　→　頼戡(よりあつ・諏訪すわ/源、幕臣/歌人)　Ｈ４７５３
4827　雷巌(雷嵓らいがん:道号・広音こうおん:法諱)1699-176567 黄檗僧:伊勢法泉寺2世衝天元統門;嗣法、
のち伊勢多気郡相可村の法泉3世、1762京洛北の理即院住、「衝天統和尚塔銘」著
4828　雷巌(らいがん・青山あおやま、延光男)?-1910　常陸水戸の儒者:藩儒の父門、
1868(慶応4)「感旧編」編、「先考行状」「仰景志」著、
[雷巌(;号)の幼名/名]幼名;勇之助、名;延年/勇
雷鼾舎(らいかんしゃ)　→　風光(ふうこう・和知、俳人)　３８５８
4829　頼基(らいき:法諱、源基平男)1051-113484　小一条院敦明親王の孫、天台園城寺僧;
伯父錦織僧正行親に入室/静覚法印門/1081阿闍梨宣旨を受/権律師/権少僧都、
権大僧都/1133辞任、修法に長ず;堀河天皇の病悩・顕仁親王の誕生に加持、
1118-9白河法皇の熊野参詣の先達、晩年は光明山寺住、歌;金葉539(橘能元への返歌)、
[もろともに西へや行くと月影の隈なき峰をたづねてぞ来こし](金葉;雑539;返歌)
(贈歌;うらやまし憂き世を出でていかばかり隈なき峰の月を見るらん、
頼基が光明山に籠ると聞き贈る橘能元よしもとの歌)、
[頼基の号]　円城坊/光明山僧都/光明仙、
後三条院女御基子の弟/行尊・覚意・厳覚・源行宗の兄
4830　頼喜(らいき)　?-　?　連歌;1564景恵「石山千句」参
頼季(らいき・源)　→　頼季(よりすえ・源、仲綱男/廷臣/歌人)　Ｑ４７３２
頼基(らいき・大中臣)　→　頼基(よりもと・大中臣おおなかとみ、神職/歌)４７３７
頼基(らいき・丹波)　→　頼基(よりもと・丹波たんば、廷臣/医者)　４７４５
頼基(らいき・坊門)　→　頼基(よりもと・坊門ぼうもん/藤原、廷臣/歌)４７４６
頼基(らいき・土岐)　→　頼基(よりもと・土岐とき/源、武将/連歌)　４７４８

頼紀(らいき・松平)　→　*頼紀*(よりのり・松平/源、藩士/伝記)　Ｊ４７４５
頼起(らいき・安村)　→　*頼起*(よりおき・安村やすむら、音曲家;箏曲)Ｉ４７４６
頼起(らいき・松平)　→　*頼起*(よりおき・松平らつだいら、藩主/和学)　Ｐ４７１８
頼暉(らいき・大久保)　→　*頼暉*(よりてる・大久保おおくぼ、藩大老/歌)Ｌ４７９５
頼熙(らいき・葉室)　→　*頼熙*(よりひろ・葉室はむろ/藤原/堤、権大納言/記録)Ｊ４７６６
頼熙(らいき/よりひろ・山田)→　*復軒*(ふっけん・山田やまだ、藩士/儒者)　Ｄ３８３２
頼軌(らいき/頼儀・松平)→　*定賢*(さだよし・松平、藩主/国学/詩)　Ｋ２０２４
頼軌(らいき・藤井/上領)→　*頼軌*(よりのり・上領かみりょう/藤井、藩士/詩)Ｊ４７４７
4831　**来儀**(来義らいぎ・蕪雨舎)?－　?　江中期相模神奈川の俳人:万葉庵東寓門、
のち多少庵秋瓜(;柳居門)に入門、1779「金川文藻」著、1779吾山「翌檜」校定
頼義(らいぎ・源)　→　*頼義*(よりよし・源みなもと、伊予入道、廷臣/歌)Ｋ４７０２
頼儀(よりのり・松平)　→　*頼儀*(よりのり・松平まつだいら、藩主)　Ｐ４７２５
来吉(らいきち・池田)　→　*為夾*(ためちか/ためおさ・池田、歌人/雅文)　Ｓ２６５０
頼久(らいきゅう)すべて　→　*頼久*(よりひさ)
頼救(らいきゅう・松平)　→　*頼救*(よりすけ・松平/徳川、藩主/俳人)　Ｉ４７８１
4832　**来居**(らいきょ)　?－　?　俳人:1777江涯「仮日記」入、
[のどかさに思はぬ道をあゆむかな](仮日記;100/春のそぞろ歩き)
4833　**莱橋**(らいきょう・滋賀しが)1835－ 1895*61*　越前の儒者;閑山門/詩人、福井藩校教授、
「莱橋遺稿」
[莱橋(;号)の名/通称/別号]名;貞、通称;先民、別号;漣処
頼教(らいきょう/よりのり・藤原)→　*頭長*(あきなが・藤原、廷臣/歌人)　１０７７
頼恭(らいきょう・松平)　→　*頼恭*(よりたか・松平まつだいら、藩主/詩歌)　Ｉ４７９０
頼恭(らいきょう・真野)　→　*頼恭*(よりたか・真野まの、藩士/儒/狂歌)　Ｉ４７９１
頼喬(らいきょう・相良)　→　*頼喬*(よりたか・相良さがら、藩主/歌人)　Ｑ４７１９
頼慶(らいきょう)　→　*頼慶*(らいけい・らいきょう:法諱、天台僧/歌)４８３４
頼業(らいぎょう・清原)　→　*頼業*(よりなり・清原、廷臣/漢学;明経道)Ｊ４７３４
頼業(らいぎょう・宇都宮)→　*頼業*(よりなり・宇都宮/藤原、武将/歌)　Ｊ４７３５
頼業(らいぎょう・葉室)　→　*頼業*(よりなり・葉室はむろ/藤原/万里小路、権大納言/記録)Ｊ４７３６
D4853　**頼旭**(らいきょく・よりあきorよりてる?・山路やまぢ)?-?　江後期;歌人、
1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、
[立ち寄れば梢涼しき声すなりこやうつ蝉のころもでのもり]、
(大江戸倭歌;夏588/杜蝉)
来去子(らいきょし)　→　*東陵*(とうりょう・本田ほんだ、儒者)　Ｉ３１２９
B4874　**来禽**(らいきん)　?－　?　京俳人:淡々門、1728柳岡「万国燕」13句入
[かたぶける耳にくゐなや鍛冶が妻](万国燕15、水鶏の声を夫の鎚の音かと疑う)
頼錦(らいきん・金森)　→　*頼錦*(よりかね・金森かなもり、藩主/歌/俳)　Ｉ４７５７
来禽亭(らいきんてい)　→　*丿左*(べっさ・丸山まるやま、農業/俳人)　２７９６
来禽堂(らいきんどう)　→　*東江*(とうこう・沢田/平/源、書家/詩)　３１１０
来禽堂(らいきんどう)　→　*東洋*(とうよう・沢田、東江の孫/書家)　Ｈ３１８６
4834　**頼慶**(らいけい・らいきょう:法諱、号;別所供奉)?-? 1017存?　天台園城寺僧:威儀師?、
歌人;大江公資と連歌、勅撰2首;後拾遺(418)/金葉(649、Ⅲ641)、
[さむしろはむべ冴えけらし隠れ沼ぬの蘆間あしまの氷一重ひとへしにけり]、
(後拾遺;冬418/一重すは氷が薄く張る意/目前の氷から寝床の狭筵の寒さを納得)
D4835　**頼慶**(らいけい/頼亮らいりょう)?－　?　僧;権少僧都、
早歌作者;1296?「宴曲集;袖志之浦恋」作詩/調曲、1301「究百集;十駅」作詩
4835　**頼慶**(らいけい・下間しもつま、法諱;蓮秀、頼善2男)?-1541　代々真宗本願寺坊官、
兄頼玄と光兼実如に出仕、享禄1528-32頃一時本願寺を離れる/のち復帰、
長男光頼と共に光教(証如)に出仕、「下間刑部卿法橋消息」「下間刑部卿請文」著、
[頼慶(;通称)の別通称]源四郎/左衛門太夫/上野介/上野法眼
4836　**頼慶**(らいけい;法諱・宥賢;字)1562-1610*49*　紀州有田の真言僧:諸寺遊学の末高野山入、

蓮華三昧院住/1608遍照光院住職/08江戸城の浄土・日蓮の宗論判者、09勧学/10使僧、
1604「金剛峯寺縁起」/「高野山記」「宗法問答」「頼慶問答抄」「浄土宗与日蓮宗宗論之記」

4837 **頼景**(らいけい;法諱・専識;字、俗姓;磯野)1625-1666*42* 近江磯野真言僧:1636(12歳)飯福寺景重門、
1639総寺教寺頼重門;出家/実秀門;灌頂識位受、1663(寛文3)尾張性海寺住持(亮元を嗣)、
「大塚山性海寺来由記」著

頼景(らいけい・安達) → *頼景*(よりかげ・安達/藤原/関戸、歌人) ４７４１
頼啓(らいけい・虎岩) → *頼啓*(よりひろ・虎岩とらいわ、陪臣/国学)Ｏ４７０６
頼継(らいけい・葉室) → *頼継*(よりつぐ・葉室はむろ/藤原、廷臣) Ｊ４７０１
頼敬(らいけい・青木) → *千枝*(ちえだ・青木あおき、藩士/国学者) ２８４５
瀬継(らいけい・二見) → *清六*(せいろく・二見ふたみ/島川、藩士/神職)Ｏ２４４４
賚卿(らいけい・村岡) → *良弼*(よしすけ・村岡/平/渋谷、儒/詩歌/官僚)Ｐ４７５０
来月所(らいげつしょ) → *寿阿弥*(じゅあみ・長島、長唄/浄瑠璃作者)Ｇ２１６５

4838 **頼賢**(らいけん;法諱・尊円;字、称;意教いきょう上人/蔵人阿闍梨)1196-1273*78* 京真言僧;意教流の祖、
幼時期出家;成賢門/1223伝法灌頂/醍醐寺妙徳房創建/高野山隠遁/小田原実相院開、
鎌倉常楽寺開山、亀山天皇より法橋上人位、「灌頂日記」「秘鈔口伝」「醍醐一貫」外多数

4839 **頼験**(らいけん・らいげん;法諱)？－ ？ 1323存 鎌倉期僧;権少僧都/法印、二条派系の歌僧:
続現葉集入集、続千載集957、
[草の葉をいかなる人の結びてかとかでも露の身をばおきけん]、
(続千;釈教957/草繋比丘を)

D4851 **頼虔**(らいけん・石原いしわら) ？－ ？ 江後期国学者、伊勢詠「亭子院歌合日記」写1806刊、
飯沼慾斎著「根尾山所産草木」写;1845刊、歌;蜂屋光世「大江戸倭歌集」(1858刊)入、
[千代かけて摘めども尽きぬはたづのゐる野沢に生ふる根芹ねせりなりけり]、
(大江戸倭歌;春109)

頼兼(らいけん)すべて → *頼兼*(よりかね/よりかぬ)
頼賢(らいけん・清原) → *枝賢*(えだかた・清原きよはら、廷臣/儒者) Ｅ１３０２
頼賢(らいけん・山県) → *守雌斎*(しゅしさい・山県/吉田、藩士/儒者)Ｙ２１８６
頼賢(らいけん・松平) → *頼纘*(よりつぐ・松平まつだいら、儒/歌/神職) Ｐ４７２３

4840 **頼玄**(らいげん;法諱) ？－ ？ 僧侶:連歌作者、1356成立「菟玖波集」2句入、
[槇の葉のかけゆく水に閼伽あか汲みて](菟;釈教674/前句;法のためには争ひもなし)

4841 **頼玄**(らいげん;法諱・定識;字)1506-84*79* 能登の真言僧:出家後紀伊根来山の妙音院玄誉門、
瑜伽及び大疏釈論を修学、南都において因明を修学、1567根来の妙音院を住持、
「論議法度」「理趣経私記」著、頼玄(;法諱)の別法諱;快伝

4842 **頼元**(らいげん・牧まき、三郎右衛門男)1844-1923*80* 出羽鶴岡の教育者、父は出羽庄内藩士、
庄内藩校致道館に修学;書/詩文に長ず、維新後に家督嗣;各地で教職に携わる、
「老子古伝」校訂、
[頼元(;名)の通称/号]通称;八百治、 号;桜雲

頼元(らいげん・清原) → *頼元*(よりもと・清原きよはら、廷臣/明経道)４７４７
頼元(らいげん・細川) → *頼元*(頼基よりもと・細川ほそかわ/源、武将/歌)４７４９
頼元(らいげん・徳川/松平)→ *頼元*(よりもと・松平/徳川、藩主/歌人) Ｊ４７８４
頼言(らいげん・山科) → *頼言*(よりのぶ/よりとき・高岳たかおか、廷臣/歌)Ｊ４７３８
頼言(らいげん・源) → *頼言*(よりとき・源みなもと、廷臣/歌人) Ｊ４７１５
頼言(らいげん・山科) → *頼言*(よりとき・山科/藤原、廷臣/故実/歌)Ｊ４７１７
頼光(らいこう・源) → *頼光*(よりみつ・源みなもと、武将/歌人) Ｊ４７７９
頼光(らいこう・藤原) → *頼光*(よりみつ・藤原ふじわら、武士/早歌作者)Ｋ４７１１
頼行(らいこう・河内) → *宏行*(ひろゆき・河内/源、幕臣/歌人) Ｈ３７５９
頼広(らいこう・水野) → *頼広*(よりひろ・水野みずの、俳人) Ｊ４７６４
頼弘(らいこう・紀) → *頼弘*(よりひろ・紀/眞継、廷臣/記録) Ｊ４７６３
頼興(らいこう・金森) → *頼興*(よりおき・金森かなもり/源、幕臣) Ｉ４７４５
頼綱(らいこう・源) → *頼綱*(よりつな・源みなもと、廷臣/歌人) Ｊ４７０３
頼綱(らいこう・平) → *頼綱*(よりつな・平、幕臣/武将) Ｊ４７０４

頼綱(らいこう・馬場)　→　*頼綱*(よりつな・馬場ばば、藩士/文筆家)　Ｊ４７０５
頼康(らいこう・土岐)　→　*頼康*(よりやす・土岐とき/源、武将/城主/歌人)Ｊ４７８９
頼候(らいこう・松平)　→　*頼章*(頼候よりあき・松平まつだいら、藩士/書)Ｐ４７１７
頼衡(らいこう・三善)　→　*頼衡*(よりひら・三善みよし、南朝廷臣/歌)　Ｊ４７６１
頼孝(らいこう)すべて　→　*頼孝*(よりたか)
雷岡(らいこう)　→　*雷首*(らいしゅ・清水/下郷/平、儒者/詩)４８５４

4843　**頼豪**(らいごう;法諱・行心房;字)1282-? 1360存　鎌倉南北期真言僧:蓮華院実尊門、
中性院頼瑜門;諸教法修学、1330(元徳2)実尊を嗣ぎ蓮華院住持、
大伝法院17代学頭職に就く、1346「掌中要記」「釈論百条第十」、「真言宗要秘鈔」著、
「東草集」「御流灌頂三初後口訣」「大日経不思議疏口訣」「大日経疏開雲鈔」著
来迎庵(らいごうあん)　→　*元貞*(もとさだ・豊浦とようら、医者/歌人)　Ｃ４４５０
雷轟室(らいごうしつ;号)　→　*慧単*(えたん;法諱・千山;道号、臨済僧)Ｅ１３０４
頼光の四天王(らいこうのしてんのう);源頼光(みなもとよりみつ)の家臣の四人の伝説の武士
→　*季武*(すえたけ・卜部うらべ、950-1022)　Ｄ２３４６
→　*綱*(つな・渡辺わたなべ、953-1025)　Ｅ２９８５
→　*貞光*(さだみつ・碓井うすい、954-1021)　Ｂ２０１６
→　*金時*(公時きんとき・坂田、金太郎/?-?)　Ｅ１６３８
雷吼坊(らいこうぼう)　→　*湖十*(3世こじゅう・深川、2世養子/俳人)Ｃ１９８４
頼囧(らいこく・井上)　→　*頼囧*(よりくに・井上、国学者/歌人)　Ｉ４７６０
来五郎(らいごろう・柳沢)　→　*里之*(さとゆき・柳沢やなぎさわ、藩主/俳人)　Ｋ２０５７

4844　**頼梭**(らいさ)　?-　?　上方読本作者;1769「両空譚」;実録物
頼佐(らいさ・藤原)　→　*頼佐*(よりすけ・藤原ふじわら、廷臣/歌人)　Ｉ４７７５

4845　**頼済**(らいさい;法諱、菅原良頼男)?-1313　東寺真言僧;律師、のち高野山入;権少僧都?、
1308東寺での後宇多院御灌頂に列す;1313後宇多院高野山参詣記「後宇多院御幸記」著、
[頼済の通称]　朽木
鬻斎(らいさい)　→　*馬琴*(ばきん・曲亭きょくてい、読本作者)　３６０７
来三郎(らいさぶろう・成瀬)→　*石痴*(せきち・成瀬なるせ/横瀬、彫刻家)　Ｋ２４３８

4846　**頼算**(らいさん;法諱)　?-　?　平安後期僧侶/法師/歌人、連歌、金葉集712、
[あらうと見れど黒き鳥かな](金葉;補遺歌712/鵜の水に浮かべるを見て)、
(荒鵜と洗うを掛る/読人しらずの付句;さもこそはすみの江ならめよとともに)
頼纘(らいさん・松平)　→　*頼纘*(よりつぐ・松平まつだいら、儒/歌/神職)　Ｐ４７２３

4801　**来山**(らいざん・小西こにし、通称;伊右衛門、六左衛門男)1654-1716*63*　大坂淡路町の薬種商、
1662(9歳)父没、書/俳諧:1660(7歳)由平よしひら門/のち宗因門、1671(18歳)立机宗匠、
1690頃渡辺橋辺に転居、晩年1713今宮に閑居、黄檗僧南岳悦山和尚に参禅;剃髪、
鬼貫と親交、談林を脱し蕉門に近い、平易な言葉による[ただごとの誹諧]主唱、
1678西鶴「物種集」初出、1681「大阪八五十韵」編、81賀子「山海集」82春林「難波色紙」入、
1692「俳諧三物」1701「鳥おどし」06「泊宮奉納梶葉」編、「今宮草」「続今宮草」「津の玉柏」著、
「俳諧十家類題集」「俳諧五子稿」編、追善「木葉古満このはごま」「遠千鳥」「湛翁卅回忌」外多数、
[白魚しらうおやさながら動く水の色](続今宮草/初案;下五[水の魂たま]きさらぎ入)、
[来山(;号)の通称/別号]通称;伊右衛門、
別号;満平みつひら(;初号)/十万堂/湛翁/湛々翁/未来居士/宗無居士、法号;尺道法
十万堂は3男一来が継承→　十万堂(2世じゅうまんどう、一来、留三郎)Ｉ２１３０

D4842　**頼山**(らいざん)　?-　?　江前期江戸俳人;1691不角「二葉之松」入

4847　**来山**(らいざん・巣見すみ、名;握固)1753-1821*69*　尾張名古屋の絵師:丹羽謝庵(榭庵しゃあん)門、
中年に至り画事に志す、のち尾張知多郡養父に住、「福善斎(謝庵)画譜」著、
[来山(;号)の字/別号]字;赤子、別号;無垢月居むくげっきょ/劣斎/石坡
来山(らいざん・村井)　→　*正純*(まさずみ・村井むらい、儒者/教育)　Ｄ４００６
萊山(らいざん・柴田)　→　*千町*(ちまち・柴田しばた、神職/歌人)　Ｍ２８６８
雷山(らいざん・望月)　→　*震*(しん・望月もちづき、医者/和学/歌)　Ｖ２２３４
頼山(らいざん・香西)　→　*隆清*(たかきよ・香西こうざい/かさい、藩家老/僧)Ｌ２６７８

4848 **頼子**(らいし)　？－　？　南朝の掌侍/歌人:新葉集274/880
[あはれてふならひにそへて身を秋のゆふべは袖に露ぞひまなき](新葉;秋274)
4849 **雷枝**(らいし・為田ためだ)　？－　？　江前期伊勢山田の俳人:1684自邸に芭蕉宿泊;
句の応酬をす(稿本野晒紀行入)、「伊勢斐杉いせあやすぎ」編、1685斯波一有「あけ鴉」入、
[宿まいらせむ西行ならば秋の暮](野晒紀行/付句芭蕉;はせをと答ふ風の破笠やれがさ)
[竹の笠露は池塘の橋朽ちて](あけ鴉;三吟[鼈眠堂・一有・雷枝]の三句目、
前句;[琵琶を袋す楼上の月]一有)
[雷枝(;号)の通称/別号]通称;孫八郎、別号;闘雀庵/弄之軒
4850 **来之**(らいし・早川はやかわ)　？－ 1795　大阪生/京の小川今出川上ル町住の俳人:
京の松木竿秋門、「春興」編/1789-91「除元集」編/92-95「春興集」編、「燈の親」著、
1775嵐山「猿利口」跋文執筆、1772几董「其雪影」1句入/83「五車反古」1句入、
[海棠かいだうの又寝の夢かかへり花](其雪影;417)
[来之(;号)の別号]春鷗舎/四明窓
4851 **来志**(らいし)　？－　？　俳;1777江涯「仮日記」1句入、
[静かなる木々の梢や朧月](仮日記;62)
4852 **耒耜**(らいし・中村なかむら、名;貞明さだあき)1758-1846*89*　河内豊浦郡豊浦村の庄屋(里正)、
歌;岩崎美隆・村田春海門/画;浦上春琴・僧愛石門/俳諧:二柳じりゅう門、
暗くらがり峠に芭蕉句碑[きくの香塚]建立、1800「菊の香」06「常盤木」07「柁多妣宮紗」編、
1807「松象紀行」著/07「芭蕉像完成記念句集」08「俳諧菊けんろく」10「菊苗集」編、
1812「新十家発句集」六轡ろくひと共編/15「柳くやう」編、「伊古万風俗」「をとし文」外著多数、
[耒耜(;号)の通称/別号]通称;八右衛門、
別号;四端/松廼屋/松廼翁/俳諧堂/二斗庵/鳳尾館

頼子(らいし、葉室頼任女)→ *冷泉*(れいぜい・花園院はなぞのいんの、典侍/歌) ５１４５
頼子(らいし、藤原惟方女)→ *惟方女*(これかたのむすめ・藤原、藤原宗頼室)Ｏ１９１９
頼子(らいし・足利)　→ *鶴王*(たづおう・頼子、尊氏女/夢中歌)　２７８２
頼氏(らいし・藤原)　→ *頼氏*(よりうじ・藤原/一条、廷臣/歌人)　Ｉ４７４３
頼氏(らいし・尾藤)　→ *頼氏*(よりうじ・尾藤びとう/藤原、武将/歌人)Ｉ４７４４
頼之(らいし・細川)　→ *頼之*(よりゆき・細川ほそかわ/源、武将/幕政/歌)Ｊ４７９２
頼之(らいし・武雄)　→ *逍遥*(しょうよう・武雄たけお、儒者)　Ｂ２２８６
頼之(らいし・野間)　→ *頼之*(よりゆき・野間のま、陪臣/歌人)　Ｏ４７４７
頼之(らいし・鈴木)　→ *頼之*(よりゆき・鈴木すずき、和算家)　Ｋ４７０１
頼之(らいし/よりゆき・武嶋)→ *優々斎*(ゆうゆうさい・武嶋たけしま、医者)　Ｄ４６９７
頼之(らいし・伏島)　→ *頼之*(よりゆき・伏島ふせじま、藩士/歌人)　Ｏ４７９１
頼旨(らいし・土岐)　→ *頼旨*(よりむね・土岐とき、幕臣/対外交渉)Ｊ４７８２
頼資(らいし・源)　→ *頼資*(よりすけ・源、廷臣/歌人)　Ｆ４７４６
頼資(らいし・藤原)　→ *頼資*(よりすけ・藤原/勘解由小路/四辻、権中納言/歌)Ｉ４７７７
頼資(らいし・太田)　→ *頼資*(よりすけ・太田おおた、吏員/地誌家)　Ｉ４７８０
雷子(らいし:俳名)　→ *三五郎*(2世さんごろう・嵐、歌舞伎役者)　Ｍ２０２２

D4843 **来爾**(らいじ・野木本のぎもと、正月庵)?-?　江戸俳人;乾什門/乾什座点者、
1754竹翁「誹諧童の的」点句入

頼時(らいじ・戸次)　→ *頼時*(よりとき・戸次べっき/藤原、武将/歌)Ｊ４７１４
頼時(らいじ/頼峠らいし・金森)→ *頼時*(頼峠よりとき・金森かなもり/源、藩主)Ｊ４７１６
頼次(らいじ/よりつぐ・稲津)→ *次郎兵衛*(じろべえ・稲津いなづ、武芸者)　Ｎ２２１７
雷次(らいじ・並木)　→ *宗治*(宗次そうじ・高柳たかやなぎ、歌舞伎作者)Ｈ２５６２
懶室(らいしつ)　→ *円伊*(えんい・仲方、臨済僧)　１３８７
頼実(らいじつ)　すべて　→ *頼実*(よりざね)

4853 **耒首**(らいしゅ・夏炉庵)1753 －　？　加賀小松の小吏,巷談/文筆,1817「寝覚の螢」著
4854 **雷首**(らいしゅ・清水しみず、下郷雪房男/本姓;平)1755-1836*82* 清水は祖先の姓、尾張鳴海の人、
儒者:叔父下郷学海・市川鶴鳴門/江戸の細井平洲・紫野栗山門、伊勢神戸藩儒臣:
放言で藩追放、沖安海・日野資愛と交流、京で開塾/詩文・俳諧を嗜む、1823「蜑煙焦余集」、

［雷首(;号)の名/字/通称/別号］名;長孺、字;仲和/中和/子正、
通称;鍋吉/正助/平八郎/平八、別号;雷岡/彩川外史/貉翁
4855 **雷首**(らいしゅ・亀井かめい、三苫みとま正義男)1789-1852*64* 母;亀井聴因外孫の女、筑前の医者、
儒:亀井昭陽門/昭陽女の小琴しょうきんの婿、医業の傍ら儒を講ず、「雷首山人詩文稿」著、
［雷首(;号)の名/字/通称/別号］名;源/復、字;応竜、通称;源吾、別号;雷首山人
雷首(らいしゅ・猿子) → *惟常*(これつね・猿子ましこ、藩士/詩/園芸)Ｏ１９５５
頼寿(らいじゅ・葉室) → *頼寿*(よりひさ・葉室はむろ/藤原、廷臣/記録)Ｊ４７５３
4856 **雷洲**(らいしゅう:道号・惟黙いもく:法諱、号;空華道人、俗姓;竹森)1691-1757*67* 因幡気多郡蔵内村生、
幼少時両親と死別、1699(9歳)因幡譲伝寺の黙旨門;出家、曹洞僧:無得良悟・益堂雲甫門、
肥前高伝寺の大光寂照門;嗣法、1729(享保14)石見浄土寺住持/駿河林叟院/加賀天徳院住、
1757(宝暦7)尾張黄竜寺2世;同地に没、1756「大光照禅師語録」編、「雷洲惟黙禅師語録」著
4857 **雷洲**(らいしゅう:道号・道亨どうこう:法諱、俗姓;石河)1641-78*38* 京の富裕な商家の生、
1655(15歳)隠元禅師の説法を聴き発心出家/黄檗僧:拙道道澂門/のち高泉性澂門、
師に常随し師の行業を助ける、師の開山招聘された伏見仏国寺造営中に病没、
「喜山遊覧集」、「黄檗高泉禅師語録」「洗雲集」編/1672「法苑略集」77「有馬温泉記」編
4858 **雷洲**(らいしゅう・安田やすだ/初姓;中村)?-? 江後期江戸の幕臣;与力/四谷大木戸に住、
絵師:葛飾北斎門、のち司馬江漢・亜欧堂田善門;蘭画・銅版画を修得、
風景画・歴史画・地図を遺す、1831「輿地全図」、「東海道五十三駅図」画/「地球度割図解」著、
［雷洲(;号)の名/字/通称/別号］名;尚義、字;信甫しんすけ、通称;定吉/茂平、
別号;文華軒/馬城
頼秀(らいしゅう・丹波) → *頼秀*(よりひで・丹波たんば、廷臣/医者) Ｊ４７５６
莱洲(らいしゅう;法諱) → *流海*(りゅうかい;法諱、真宗本願寺派) Ｄ４９１８
莱州(らいしゅう・小野) → *素秋*(そしゅう・小野おの、庄屋/俳人) Ｄ２５８２
D4834 **頼重**(らいじゅう・法印) ? - ? 薩摩の真言僧;1365頃琉球への渡来僧、
察度王の時代1368(正平23)波上山なみのうえざん護国寺を創建(;琉球国由来記入)
頼重(らいじゅう・大江) → *頼重*(よりしげ・大江おおえ/長井、幕臣/歌)Ｉ４７７０
頼重(らいじゅう・細川) → *頼重*(よりしげ・細川ほそかわ/源、武将/連歌)Ｉ４７７２
頼重(らいじゅう・松平) → *頼重*(よりしげ・松平、藩主/茶・歌人) Ｉ４７７３
頼重(らいじゅう・葉室) → *頼重*(よりあつ・葉室はむろ、廷臣/記録) Ｉ４７３７
雷首山人(らいしゅさんじん) → *惟常*(これつね・猿子ましこ、藩士/詩/園芸)Ｏ１９５５
雷首山人(らいしゅさんじん) → *雷首*(らいしゅ・亀井/三苫みとま、医者/儒)４８５５
4859 **頼舜**(らいしゅん:法諱) ? - ? 天台宗園城寺の僧;
1240定家に「治承物語(平家)」書写に関する書状;6巻本平家の存在
4860 **頼舜**(らいしゅん:法諱、本姓;藤原、法印頼全男)?-? 1315存 藤原頼資の猶子、天台叡山僧;
法印/僧正、
歌人;1315(正和4)京極為兼主催春日宝前「詠法華経和歌」に参加、
勅撰4首;新後撰(1155)玉葉(2644/2771)続千載(1138)、
［契りおきし心この葉にあらねども秋風吹けば色かはりけり］(新後撰;恋1155)
4861 **頼俊**(らいしゅん:法諱) ? - ? 南北期京の真言東寺の僧、社僧;
1324鶴岡八幡宮御殿司職/1379社家執事職/1380執行職/二位法印、歌:新後拾遺614、
［相坂の関は閉ざしもなかりけり往来ゆきくの人を花にまかせて］(新後拾;雑春614)、
［頼俊(;法諱)の号］花光坊/大通院
頼俊(らいしゅん・源) → *頼俊*(よりとし・源、武将/廷臣/歌) Ｊ４７１９
頼俊(らいしゅん・土岐) → *頼稔*(よりとし・土岐とき、藩主/歌人) Ｊ４７２０
頼春(らいしゅん・細川) → *頼春*(よりはる・細川ほそかわ/源、武将/歌) Ｊ４７４９
D4836 **頼順**(らいじゅん) ? - ? 鎌倉期の僧/1303法眼、早歌作者;
1301「究百集;君子父子道」作詞
4862 **頼淳**(らいじゅん;法諱) ? - ? 鎌倉期真言僧:頼瑜門;付法の弟子、
頼瑜相承の血脈として紀伊根来山学頭の本流を称す、智山・豊山両派の祖とされる、
1301「遍智院御入壇記」/11「醍醐寺阿弥陀院灌頂記」「応長元年醍醐阿弥陀灌頂記」

4863 **頼順**(らいじゅん・徳川とくがわ/本姓;源/家名;松平、水戸藩主宗堯男)1727-7448 1747将軍吉宗に謁、
従四下/侍従/大蔵大輔、1764上総介/69飛騨守、詩:「楽山詩集」著、
[頼順(;名)の幼名/初名/号]幼名;軽麻呂/主税ちから、初名;翰鄰、号;楽山、諡号;貞、
法号;清空院

頼順(らいじゅん;字) → *日重*(にちじゅう;法諱・一如院、日蓮僧) C３３１６
頼淳(らいじゅん・徳川) → *治貞*(はるさだ・徳川とくがわ、藩主/文筆家)G３６３４
頼女(らいじょ→たのむのむすめ・源)→ *頼女*(たのむのむすめ・源、歌人) G２６５１
頼恕(らいじょ・松平) → *頼恕*(よりひろ・松平、藩主/史書編纂) J４７６８
頼如(らいじょ;字) → *頼如*(らいにょ;法諱・大竜、真言僧) ４８８９
来助(らいじょ・岩田) → *夫山*(ふざん・岩田いわた、書家) C３８３２

4864 **来章**(らいしょう・中島なかじま/本姓;源、並河源章男)1796-1871*76* 近江の絵師;初め渡辺南岳門、
のち円山応瑞門;円山四条派として一家を成す、1838中島に改姓(養子?)、中島有章の父、
安政の御所造営の障壁画制作に参加、花鳥画;特に鯉と鶉が得意、平安四名家の1、
「游鯉図」「武陵桃源図」「三国志武将図屏風」「四季耕作図屏風」画など、
[来章(;号)の字/通称/別号]字:子慶、通称;宇次郎、別号:鵁江しゅうこう/春分斎/神通堂

来章(らいしょう・鷲尾) → *南渓*(なんけい・鷲尾わしの/わしお、儒者) I３２８４
来章(らいしょう・萱野) → *銭塘*(せんとう・萱野かやの、藩士/儒者/詩)M２４９９
頼章(らいしょう・仁木) → *頼章*(よりあき・仁木にっき/源、武将/連歌) I４７３２
頼章(らいしょう・松平) → *頼章*(頼候よりあき・松平まつだいら、藩士/書) P４７１７
頼章(らいしょう・小里) → *頼章*(よりあき・小里おり、藩士/測量・兵学) I４７３３
頼尚(らいしょう・錦小路) → *頼尚*(よりひさ・錦小路にしきのこうじ/丹波、廷臣) P４７１２
頼尚(らいしょう→よりなお・諏訪)→*頼蔭*(よりかげ・諏訪すわ、旗本/奉行) N４７４０
頼昌(らいしょう・土岐) → *朝昌*(ともまさ・土岐とき、幕臣/奉行) T３１８１
頼勝(らいしょう・金剛) → *頼勝*(よりかつ・金剛こんごう、能役者) I４７５１
頼僮(らいしょう・有馬) → *頼僮*(よりゆき・有馬ありま、藩主/和算家) J４７９３

4865 **頼杖**(らいじょう・奥田おくだ、名;在中、広島藩士奥田善助男)1792-1849*58* 備後三次郡日下村の心学者、
心学;矢口来応門/のち京の上河淇水門/心学教宣のため各地を巡る、
1830頃江戸参宮舎前で講説/のち安藝広島の歓心舎舎主、広島藩より終生5人扶持を受、
1839「心学道の話」41「礎志」、「心学道如是我聞」著、
[頼杖(;号)の通称] 寿太/寿太郎

頼乗(らいじょう;字) → *印融*(いんゆう;法諱、真言僧) D１１２９
頼乗(らいじょう;法名) → *隆蔭*(たかかげ・油小路あぶらのこうじ、廷臣/日記) C２６５６
来笑庵(らいしょうあん) → *岱貝*(たいばい・高橋、俳人) C２６０５
来椒堂(らいしょうどう) → *仙鼠*(せんそ・吉川/野田、鶏鼠男/俳人)G２４２６

4866 **頼心**(らいしん;法諱) ? - ? 1355存 真言僧:1303紀伊根来山代伝法院学頭頼瑜門、
三宝院流の印可を受、「遍口鈔」「梵字一目鈔」著

4867 **頼申**(らいしん;法諱・宗佐;字)?- ? 江戸期越前真言宗滝谷寺の住僧、
18歳の時美濃実相院宗印より瑜伽法を受/美濃松山寺の宗珍より顕密の法を受、
美濃実相院を継嗣、「観心発源頌」著

来信(らいしん・内藤) → *存守*(ありもり・内藤ないとう、神職/国学) F１０９０
来信(らいしん・狩野) → *渓雲*(けいうん・狩野かのう、絵師) F１８２６
頼心(らいしん;字) → *性盛*(しょうせい/しょうじょう;法諱、真言僧) K２２２５
頼信(らいしん・源) → *頼信*(よりのぶ・源みなもと、武将) J４７３７
頼眞(らいしん・守矢) → *頼眞*(よりまさ・守矢もりや、神職) J４７７４
頼真(らいしん・内藤) → *頼由*(よりゆき・内藤ないとう/藤原/永井、藩主)K４７４０
頼親(らいしん・葉室) → *頼親*(よりちか・葉室はむろ/藤原、権大納言) J４７００
頼慎(らいしん・松平) → *頼慎*(よりよし・松平、藩主/文筆家) K４７０３
雷震(らいしん) → *海音*(かいおん;法諱、真宗僧) I１５４５
雷震(らいしん) → *北斎*(ほくさい・葛飾、絵師/葛飾派祖) ３９６２

4868 **頼尋**(らいじん;法諱、藤原邦恒男)?-? 平安後期叡山僧/歌人;

1062無動寺和尚賢聖院歌合参加;右方(比叡山延暦寺塔頭無動寺で検校広算主催)、
[秋風のまづ吹く方はくさぐさの花もまさりてほころびにけり](賢聖院歌合;一番右2)
礼心院(らいしんいん)　→　*頼紀*(よりのり・松平/源、藩士/伝記)　Ｊ４７４５
雷酔(らいすい・酒乱斎)　→　*暁斎*(ぎょうさい・河鍋かわなべ、絵師)　Ｎ１６８５
頼数(らいすう・東)　→　*頼数*(縁数よりかず・東とう、常縁男/歌人)Ｉ４７４８

4869 **来助**(来輔らいすけ・松屋まつや/津打)?-?　大阪の歌舞伎作者;並木宗輔門、
1731岩井半四郎座に津打来助名で番付作者/33松屋と改姓/1738(元文3)立作者;
1751まで上方諸座;並木永輔・丈輔・為永千蝶らと多数合作;時代物・世話物に長ず、
対立する人物を描き特に日陰の人の方に焦点を当てる手法、浄瑠璃・長歌の作詞、
1735「島原小蝶葯紋日しまばらこちょうなたねのもんび」(安田蛙文らと合作)/1738「伊勢海道銭掛松」、
1741「源氏六十帖」42「熊野御前平紋日ゆやごぜんたいらのもんび」/43「菊水由来染」(以上永輔と合作)、
1745「昔形むかしこもん吉岡染」(並木丈輔と合作)/46「二月堂暁鐘」(中田五八と合作)外著多数、
兄;松島兵太郎(;役者/作者名;松田百花)・泉川千之助(;役者/作者名;金島快輔)、
息子;中山(松屋)門十郎・初世中山文七・2世中山新九郎(2世松屋来助/初世中山来助)、
[松屋来助(;号)の別号]津打つうつ来助/松屋久右衛門

4870 **来助**(初世らいすけ・中山なかやま、初世松屋来助3男)1738-83*46*　歌舞伎役者(屋号;松屋);
初世中山新九郎門、1756松屋来助2世を襲名/57中山に改姓/1782中山新九郎2世を襲名、
[初世中山来助(;号)の別号/俳名] 2世松屋来助/2世中山新九郎、俳名;舎柳/一蝶

D4848 **来助**(らいすけ・中村)　?-　?　江戸歌舞伎作者;初世桜田治助の番付作者、
1784「大商蛭子島」81「四天王宿直着綿」(治助の番付)など
来助(初世らいすけ・嵐/伊沢)→　*文七*(2世ぶんしち・中山、歌舞伎役者)Ｆ３８６３
来助(らいすけ・鄭てい)　→　*敏斎*(びんさい:号・鄭、通事/語学教育)　Ｈ３７８２
来介(らいすけ・花岡)　→　*直弘*(なおひろ・花岡はなおか、国学/歌人)　Ｏ３２３８
頼助(賚助らいすけ・田崎)→　*草雲*(そううん・田崎たざき、藩士/絵師)　２５５９
瀬介(らいすけ・有吉)　→　*蔵器*(ぞうき・有吉ありよし、儒者/教育)　２５９７

4871 **頼勢**(らいせい;法諱・仲音;字)1576-1648*73*　安房館山の真言僧:1589(14歳)眞野寺頼円門、
のち智積院祐宜門、徳川家康に認められ安房清澄寺中興1世となる、法印、
醍醐寺光台院亮済門、1623賢隆に請われ磐城薬王寺を継嗣;上総神野寺源瑜に譲渡、
磐城平吉祥院に退隠、尊性法親王より権僧正を追贈、「引導能印鈔」/1625「舎利講式私」著

C4844 **頼成**(らいせい)　?-　?　江前期備後三原の僧/俳人;貞門系、
1655令徳「崑山土塵集」/79宗臣「詞林金玉集」入

D4838 **来青**(らいせい・山田やまだ)1775- 1825*51*　安藝広島の俳人;方乎・松宇らと交遊、
刷物「其二戔」、雲窓は双子の弟、
[鼻四つをつきあわせけり初時雨](其二戔の発句;成宇・荷雄・停雲・尚泊の4人が付ける)
弟　→　*雲窓*(うんそう・山田恒久、詩/俳人)　Ｄ１２９０
来青(らいせい;号)　→　*義亮*(ぎりょう;法諱、絵師/天台僧)　Ｕ１６１１
来青(らいせい・小浦)　→　*広名*(ひろな・小浦こうら、藩士/国学/歌)　Ｊ３７５２
頼成(らいせい・源)　→　*頼成*(よりしげ/よりなり・源みなもと、廷臣/歌)　Ｋ４７３４
頼成(らいせい・中原)　→　*頼成*(よりしげ/よりなり・中原、廷臣/歌人)　Ｉ４７６９
頼成(らいせい・上杉)　→　*頼成*(よりしげ・上杉/藤原、武将/歌人)　Ｉ４７７１
頼盛(らいせい・平)　→　*頼盛*(よりもり・平たいら、武将/権大納言)　Ｊ４７８５
頼正(らいせい・井上)　→　*頼正*(よりまさ・井上いのうえ/源、医者)　Ｊ４７７６
頼世(らいせい・土岐)　→　*頼世*(よりよ・土岐・池田/源、武将)　Ｑ４７３３
頼清(らいせい・藤原)　→　*頼清*(よりきよ・藤原ふじわら、廷臣/歌人)　Ｉ４７５８
頼清(らいせい・田中)　→　*重好*(しげよし・田中たなか、郷学;教育者)　Ｔ２１１５
雷西(らいせい)　→　*三平*(さんぺい・美玉みたま、高橋、尊攘派)　Ｍ２０７４
来青軒(らいせいけん・岡)　→　*長洲*(ちょうしゅう・岡おか、藩儒/詩文)　Ｉ２８７１

4872 **雷石**(らいせき・安田やすだ、早川広海男)1804-83*80*　石牙(医者)の孫、甲斐八日市場の医者、法橋、
産科医;京の賀川子徳門、本道及び産科で有名、俳諧:梅室門、能書家、物外の父、
父広海の三回忌追善集;「古気務師露こけむしろ」編、「明治俳諧五十鈴川集」著、

［雷石（;号）の名/通称/別号］名;広沖、通称;竹助/多膳/多善、別号;檎谷/甘棠/黄楊門
瀬石（らいせき・中村）　→　*義芳*（よしふさ・中村なかむら、国学者）　Ｏ４７２３
磊石（らいせき・加藤）　→　*磯足*（いそたり・加藤、国学者/歌）　Ｂ１１０９
萊石（らいせき・山口/加藤）→　*桃隣*（5世とうりん・山口/加藤、俳人）　Ｉ３１３８
絡石廼家（らいせきのや→ったのや）→　*磐根*（いわね・阿部・阿閉あべ、国学者）　Ｉ１１４３
来雪（らいせつ・山口）　→　*素堂*（初世そどう・山口、俳人/茶人）　２５２６
頼説（らいせつ・松平）　→　*頼説*（よりひさ・松平まつだいら、藩主/蹴鞠）　Ｋ４７５６
来雪庵（初世らいせつあん）→　*素堂*（初世そどう・山口、俳人/茶人）　２５２６
来雪庵（3世らいせつあん）→　*素堂*（3世そどう・佐々木ささき、俳人）　Ｋ２５１７
頼説女（らいせつのむすめ・松平）→*頼説女*（よりひさのむすけ・松平、藩主の娘/歌）Ｋ４７５６
4873　**頼暹**（らいせん）　？－　？　連歌;1464?盛長「熊野千句」参加
4875　**来川**（らいせん・足立あだち、俳人倫里りんり男/無倫孫）?-1736　江戸俳人;江戸座傍流、1727「種瓢」
1734「夢物語」「金台録」編、「賦仙何誹諧之連歌」著、寸長（四大家流の祖）の師
［来川（;号）の別号］　万界夫ばんかいふ/古鈴/水軒/東浩郭/東浩堤
4876　**雷川**（らいせん・葛飾かつしか）？－　？　文化1804-18頃絵師:葛飾北斎門:「狂歌国尽」画
来川（らいせん）　→　*移竹*（いちく・田河、俳人）　Ｂ１１１７
磊川（らいせんん）　→　*茂喬*（しげたか・市野いちの、和算家）　Ｒ２１２４
懶仙（らいせん・杉原）　→　*半水*（はんすい・杉原すぎはら、儒者）　Ｉ３６１２
瀬泉（らいせん・磯谷）　→　*直好*（なおよし・磯谷いそがや、官人/国学）　Ｌ３２１８
頼宣（らいせん/よりのぶ・明智）→　*玄宣*（げんせん;法号、武士/連歌）　Ｃ１８５４
頼宣（らいせん・徳川）　→　*頼宣*（よりのぶ・徳川/源/松平、初代紀州藩主）Ｊ４７３９
頼善（らいぜん・藤懸）　→　*頼善*（よりよし・藤懸ふじかけ、藩士/手記）　Ｋ４７０４
来川庵（らいせんあん）　→　*移竹*（いちく・田河、俳人）　Ｂ１１１７
来川庵（らいせんあん）　→　*由至*（ゆうし・小川、移竹門俳人）　Ｃ４６１１
来鮮堂（らいせんどう）　→　*竜義*（りゅうぎ・河井かわい、俳人）　Ｄ４９３２
頼宗（らいそう・藤原）　→　*頼宗*（よりむね・藤原、堀河右大臣/歌人）Ｊ４７８１
雷叟（らいそう・藤）　→　*夕室*（せきしつ・藤とう、顕彰書執筆）　Ｋ２４１１
懶叟（らいそう・東海、「尾陽戯場事始」漢文序）→　*忠兵衛*（ちゅうべえ・伊勢屋/西村）Ｇ２８８４
4877　**頼増**（らいぞう;法諱・宝樹房;号）?-?　1320存　鎌倉期;天台宗比叡山西塔宝樹房住僧、
1320?「宗要宝樹坊」、「維摩疏見聞」著
4878　**来三**（らいぞう・坂東ばんどう）？－　？　江中期江戸の歌舞伎作者/1781-82森田座3枚目作者、
1783-88江戸の諸座で近並門輔・中村重助・初世桜田治助らの創作に協力、
1782（天明2）「時花雪高館」83「初暦鬧曾我」84「曙草峰天女嫁入」88「傾城吾嬬鑑」など番付
D4832　**雷蔵**（3世らいぞう・市川いちかわ、市川升蔵、狂名;通小紋息人かよいこもんのいきんど）?-?　歌舞伎役者;
5世市川団十郎門、狂歌;堺丁連
瀬蔵（らいぞう・島川）　→　*成一*（なりかず・島川しまかわ、国学/神職）　Ｎ３２３３
頼則（らいそく・能勢）　→　*頼則*（よりのり・能勢のせ/源、武将/連歌）　Ｊ４７４４
頼則（らいそく・岩崎）　→　*頼則*（よりのり・岩崎いわさき、歌人）　Ｋ４７７５
4879　**頼尊**（らいそん;法諱・披雲房;号）998-1064*67*　天台園城寺僧:権少僧都、
「胎披雲房記」「頼尊抄」「金剛頂経偈釈」「山王秘訣」著
4880　**頼尊**（らいそん;法諱・静光房;号、藤原実房男）1025-91*67*　京の真言僧:山城池上寺の平救門;出家、
顕光二教を修学/1061仁和寺観音院の性信門;伝法灌頂を受、
のち池上寺（我覚寺）に浄光院を建立;住、1082律師、通称;池上律師、
「中院流許可口決」「中院流私口訣」「明算流口訣大事」著、
4881　**来太**（らいた・前川まえかわ）？－　？　江中期大坂高麗橋一丁目の書肆、
戯作:1786「籠屋孝子行状聞書」87「当世粋の源」、「籠屋孝子美名録」著、
前川善兵衛と同一か? →　*善兵衛*（ぜんべえ・前川・伊丹屋、書肆）Ｎ２４１０
頼泰（らいたい）すべて　→　*頼泰*（よりやす）
雷沢（らいたく）　→　*月儁*（月仙げっせん;号・玄瑞、浄土僧/絵師）Ｂ１８１１
D4841　**頼智**（らいち;法諱）？－　？　大和箸尾の不動院僧/歌;1666行風「古今夷曲集」5首入

［誰をかも仕手脇にせん高砂の松囃子する友あまたなり］(古今夷曲集;一春歌)
(本歌「誰をかも知る人にせむ高砂の松も昔の友ならなくに」古今集;藤原興風)
頼致(らいち→よりよし・松平)→*宗直*(むねなお・徳川とくがわ/松平、藩主/歌)Ｅ４２０３
4882 **礼智阿**(らいちあ;法諱、堀河中将師隆男)1253-1325*73* 母;日野大納言の女、
1269(17歳)伯父天台園城寺尊慶門;尊覚を称す/のち時宗僧:俊聖一向(一向上人)門、
礼智阿と改名、師没後近江蓮華寺に住;二代上人となる、「二祖礼智阿上人消息」、
［礼智阿の初法諱/幼名/通称］初法諱;尊覚(;天台僧)、幼名;梅千代/梅若丸、
通称;二祖礼智阿上人/一向上人
D4864 **頼忠**(らいちゅう;法諱、) ？－ ？ 平安鎌倉期僧;法印、歌人;1237楢葉集入、
［孝経の身体髪膚は父母にうけたりといへる文をよみ侍りける、
この身をもおやのためにはすててましかたみに残すすがたならずは］(楢葉;雑902)
4883 **頼仲**(らいちゅう;法諱・宝蓮院、仁木太郎二郎師義男)1266-1355長寿*90* 真言宗東寺の僧;頼助門、
大僧正親玄門;灌頂を受/大僧正、1336鶴岡八幡宮19代別当に就任;1355迄留任、
歌人、勅撰4首;新千載(842)新拾遺(1832)新後拾遺(1300/1482)、
［いつかげにながきねぶりの夢覚めてこれぞまことのうつつと思はん］(新千;釈教842)、
［頼仲の号］ 少納言法印/宝蓮院
頼忠(らいちゅう・藤原) → *頼忠*(よりただ・藤原、関白太政大臣/歌)Ｉ４７９５
頼忠(らいちゅう・土岐) → *頼世*(よりよ・土岐・池田/源、武将) Ｑ４７３３
頼中(らいちゅう・知久) → *頼中*(よりなか・知久ちく、旗本/領主/歌) Ｎ４７９１
頼中(らいちゅう・須藤) → *頼中*(よりなか・須藤すどう、藩士/歌人) Ｎ４７３９
頼仲(らいちゅう・土岐) → *頼仲*(よりなか・土岐とき/源、武将/歌人) Ｊ４７２７
雷柱子(らいちゅうし) → *其角*(きかく・榎本、俳人) １６０５
4884 **頼超**(らいちょう;法諱) ？－ ？ 平安末期奈良東大寺の華厳学僧:
三論の教義に註釈;1184東大寺喜多院で擱筆、「玄疏問答」著
頼長(らいちょう)すべて → *頼長*(よりなが)
頼澄(らいちょう・坂上) → *頼澄*(よりずみ・坂上さかのうえ、武家/歌人) Ｉ４７８３
頼直(らいちょく・土岐) → *頼直*(よりなお・土岐とき/源、廷臣/歌人) Ｑ４７３１
頼直(らいちょく・細川) → *頼直*(よりなお・細川ほそかわ、郷士/暦算家) Ｊ４７２５
頼直(らいちょく・成田) → *頼直*(よりなお・成田なりた、藩士/藩史編) Ｊ４７２６
頼直(らいちょく・桜井) → *頼直*(よりなお・桜井さくらい、尊攘家) Ｎ４７２０
羅一郎(らいちろう・倉橋/前野)→ *鬼武*(おにたけ・感和亭、戯作者) １４２３
頼通(らいつう・藤原) → *頼通*(よりみち・藤原、宇治関白/歌人) ４７３９
磊庭(らいてい・川村) → *碩布*(せきふ・川村、豪商/名主/俳人) ２４１１
頼貞(らいてい・土岐) → *頼貞*(よりさだ・土岐とき/源、武将/城主/歌人)Ｉ４７６２
頼貞(らいてい・松平) → *頼貞*(よりさだ・松平まつだいら、藩主/武術) Ｉ４７６４
頼定(らいてい・冷泉) → *頼定*(よりさだ・冷泉れいぜい/藤原、権中納言)Ｉ４７６３
頼定(らいてい・井上) → *頼定*(よりさだ・井上いのうえ、神職/歌人) Ｌ４７３６
雷斗(らいと・柳川) → *重信*(初世しげのぶ・柳川やながわ、絵師) Ｃ２１７４
雷斗(2世らいと) → *北岱*(ほくたい・葛飾かつしか/森川、絵師) Ｄ３９７０
頼冬(らいとう・鷹司) → *頼冬*(よりふゆ・鷹司、連歌) Ｊ４７７３
頼藤(らいとう・葉室) → *頼藤*(よりふじ・葉室はむろ/藤原、権大納言/日記)Ｊ４７７１
4885 **雷堂**(らいどう) ？－ ？ 俳人;蓼太門、1763耳得「芙蓉文集」俳文入
4886 **籟洞**(らいどう・八木やぎ、名;千之、与一右衛門長男)1801-71*71* 信濃上田藩士/儒者;山田維則門、
1813藩校明倫館入/14肝煎、藩学教授手伝/句読師/文学校会読頭取、1836家督継嗣、
兵学;越後流修学/長沼流;清水赤城門/肥後の扶桑古流を修学、
1843西洋砲術;江川太郎左衛門(坦庵)門、三河田原藩で高島秋帆流砲術を修学、
1845上田藩に大砲鋳造、1860武芸頭;長州征討には軍師で活躍、
戊辰戦争時には藩論を勤王に転換させた、「西洋流砲術打方主義」著、
［籟洞(;号)の幼名/通称］幼名;金蔵、通称;剛助/与一右衛門
4887 **磊堂**(らいどう・江邨えむら、名;徹、田中元勝2男)1818-77*60* 江村宗本の養嗣子;代々熊本藩侍医の家、

医者;養父門/熊本藩侍医を継嗣/医学監となる、1847(弘化4)「医風私議」著、
[磊堂(;号)の字/通称/別号]字;叔達、通称;万春、
別号;三石堂/松契/昆文/槭園せきえん/遯斎とんさい/六六生

4888 **来道**(らいどう・沾窓せんそう) ? - ? 江中期俳人:1786「俳諧平河」編
頼道(らいどう・芝) → *頼道*(よりみち・芝しば/井上、国学/歌) Ｎ４７３０
雷堂(らいどう) → *百里*(ひゃくり・高野、俳人) Ｅ３７８３
雷堂(らいどう) → *麻父*(まふ、別号;雷堂、俳人) Ｋ４００８
雷堂道人(らいどうどうじん) → *徳義*(とくぎ;法諱・慧陳えちん;字、真宗僧)Ｋ３１５７
頼悳(らいとく・万年) → *頼徳*(頼悳よりのり・万年まんねん/藤原、幕臣)Ｋ４７９８
頼徳(らいとく・相良) → *頼徳*(よりのり・相良さがら、藩主/狂歌) Ｊ４７４６
頼徳(らいとく・松平) → *忠和*(ただとも・松平、藩主/天文暦学) Ｑ２６１６
頼徳(らいとく・上領) → *頼軌*(よりのり・上領かみりょう/藤井、藩士/詩) Ｊ４７４７
頼徳(らいとく・松平) → *頼徳*(よりのり・松平まつだいら、藩主/歌) Ｋ４７５９
頼徳(らいとく・沢田) → *頼徳*(よりのり・沢田さわだ、神職/国学) Ｎ４７２４
頼徳(らいとく・寺内) → *頼徳*(よりのり・寺内てらうち、農業/歌人) Ｎ４７９６
頼徳(らいとく・錦小路) → *頼徳*(よりのり・錦小路にしきのこうじ/丹波/唐橋、廷臣/尊攘)Ｏ４７３９
頼篤(らいとく・諏訪) → *頼篤*(よりあつ・諏訪すわ、幕臣) Ｉ４７３８

4889 **頼如**(らいにょ;法諱・大竜;字、俗姓;野村)1801-62*62* 安房長狭郡広場村の真言僧:出家、
京智積院に修学;安房に帰り宝珠院住、幕命で1853(嘉永6)江戸芝愛宕眞福寺住、
1856(安政3)智積院38世能化、62辞職退隠、「五悔九方便私記」著

D4849 **頼仁**(頼任らいにん;法諱、仁和寺法印頼舜男)?-? 平安後期;仁和寺僧/法師/法眼、頼弁・頼乗の父、
歌;1155頃後葉ごよう集入、
[しのぶれば苦しかりけりあをつづらこひする名をもたちぬべきかな]、
(後葉集;恋322)

4890 **頼仁**(らいにん;法諱) ? - 1564 戦国期真言僧;幼時に出家;紀伊根来山で修行、
要請され尾張名古屋真言宗宝生院(眞福寺)20世:及誉の跡継承;衰微の寺運挽回に尽力、
織田信長より大須村5百石の知行を受ける、
「両部愚童記」「求聞持腰袋鈔」「十八道覚袋鈔」著

4891 **頼任**(らいにん;法諱) ? - ? 戦国安桃期真言僧;尾張名古屋宝生院(眞福寺)住、
1577「見胎愚童記」「九会次第」著
頼任(らいにん・安陪) → *頼任*(よりとう・安陪/安倍あべ、藩士/剣術家) Ｊ４７１１
頼仁親王(らいにんしんのう) → *頼仁親王*(よりひとしんのう・冷泉宮、流罪) Ｊ４７５７
頼寧(らいねい・内藤) → *頼寧*(よりやす/よりさと・内藤ないとう、藩主) Ｊ４７９１
頼稔(らいねん・土岐) → *頼稔*(よりとし・土岐とき、藩主/歌人) Ｊ４７２０
頼範(らいはん)訓はすべて→ *頼範*(よりのり)

4892 **瀬浜**(らいひん・石金いしがね/修姓;石、名;宣明)1721-58*38* 岩代信夫郡瀬上の農業、好学の士、
儒:江戸の大内熊耳門、江戸芝三田に開塾、高祖宣常は武田晴信家臣で弓の名手、
「修辞緒言」「嘉隆文体」「韓館応酬録」「石召南尺牘せきしょうなんせきとく」著、「瀬浜遺草」
[瀬浜(;号)の字/通称/別号]字;子諠、通称;多仲、別号;召南

4893 **雷夫**(2世らいふ) ? - ? 京の俳人;几董門、高子舎を継承、
1776几董「続明烏」5句入、師几董25年忌集「鐘の声」編、1783維駒「五車反古」1句入、
[町ありく鹿の背高し朧月](続明烏;中50／奈良に泊りて)
雷夫(らいふ・速水/紅屋)→ *几圭*(きけい・高井、商家/俳人) １６１２
雷夫(らいふ) → *几董*(きとう・高井、几圭男/俳人) １６２３
雷普(らいふ・桂川) → *甫周*(ほしゅう・桂川かつらがわ/4世、蘭医) Ｅ３９２２
頼溥(らいふ・松平) → *頼紀*(よりのり・松平/源、藩士/伝記) Ｊ４７４５
懶夫(らいふ・磯野/宮沢)→ *欽斎*(きんさい・宮沢みやざわ、儒者) Ｉ１６９９
頼武(らいぶ・吉見) → *頼武*(よりたけ・吉見よしみ/源、武将/歌人) Ｉ４７９２
頼武(らいぶ・今田) → *頼武*(よりたけ・今田いまだ、藩士/執政) Ｉ４７９４
頼武(らいぶ・井上) → *頼武*(よりたけ・井上いのうえ、神職/歌人) Ｌ４７３７

頼武(らいぶ・諏訪)　→　*頼武*(よりたけ・諏訪すわ、神職/国学)　Ｎ４７４１
雷風庵(らいふうあん)　→　*蓮谷*(れんこく・板倉いたくら、俳人)　Ｂ５１０５
4894　**来風山人**(らいふうさんじん)　？－　？　江戸の噺家:
1775「一のもり」序/76「鳥の町」序、源内と関係?
頼平(らいへい/よりへい・棚橋/岡本)→　*一方*(いっぽう・岡本、藩士/儒者)　Ｈ１１９４
頼兵衛(らいへえ/よりへえ・棚橋/岡本)→*一方*(いっぽう・岡本、藩士/儒者)Ｈ１１９４
来甫(らいほ・東条)　→　*文京*(ぶんきょう・花笠はながさ、歌舞伎作者/戯作)Ｆ３８０２
頼保(らいほ・藤原)　→　*頼保*(よりやす・藤原ふじわら、廷臣/歌人)　Ｊ４７８６
頼輔(らいほ・藤原)　→　*頼輔*(よりすけ・藤原、飛鳥井・難波家祖/歌人)Ｉ４７７６
頼圃(らいほ・金子/橘)　→　*杜俊*(杜駿もりとし・金子かねこ/橘たちばな、国学者)Ｆ４４９６
頼母(らいぼ)　すべて →　*頼母*(たのも)
4895　**頼宝**(らいほう;法諱)　1279 － 1330*52*　真言宗東寺初代学頭/宝荘厳院1世、
1309鎌倉佐々目谷の房において我宝[1239-1317]の秘蔵記講伝の席に列す、
1318-20高野山一心院谷金光院に住、25後醍醐天皇御願の仁王般若会に出仕、
1327東寺講堂修正会に出仕、東寺の三宝(頼宝・杲宝ごうほう・賢宝)と称される、
「妙伝抄」「教眼」「肝要口説」「真俗雑記」「宗旨義」「真言本母集」「密教宗旨」「十住聞記」、
1317「釈論問答」18「体大東聞記」30「悉曇綱要鈔」「般若心経秘鍵東聞記」著/外著多数
[頼宝の別法諱/通称]後法諱;紹清?、通称;介ノ法印
頼方(らいほう・万年)　→　*頼方*(よりかた・万年まんねん、軍記作者)　Ｉ４７４９
頼方(らいほう・青木)　→　*千枝*(ちえだ・青木あおき、藩士/国学者)　２８４５
頼方(らいほう・小森)　→　*頼方*(よりかた・小森こもり/丹波、廷臣/医者)Ｉ４７５０
頼方(らいほう・安木田)　→　*頼方*(よりかた・安木田やすきだ/安田、和漢学/歌)Ｐ４７７７
頼宝(らいほう・諏訪)　→　*頼宝*(よりやす・諏訪すわ、幕臣/詩人)　Ｊ４７９０
頼豊(らいほう・土岐)　→　*頼豊*(よりとよ・土岐とき/源/今峯、武将/歌人)Ｊ４７２３
頼峰(らいほう・太田)　→　*頼峰*(よりみね・太田おおた、歌人)　Ｑ４７２６
頼房(らいぼう・徳川)　→　*頼房*(よりふさ・徳川/源/松平、初代水戸藩主)Ｊ４７６９
頼房(らいぼう・肥田)　→　*頼房*(よりふさ・肥田ひだ、幕臣/記録)　Ｊ４７７０
頼望(らいぼう・丹波)　→　*頼望*(よりもち・丹波たんば、廷臣/医者)　Ｊ４７８３
来鳳館(らいほうかん)　→　*左雄*(さゆう・鍋島なべしま、家老)　Ｎ２０４３
来鳳軒(らいほうけん;号)　→　*桂州*(けいしゅう;道号・道倫;法諱、臨済僧)１８６５
来鳳楼(らいほうろう)　→　*為親*(ためちか・中川なかがわ、歌人)　Ｙ２６５２
4896　**来丸**(らいまる)　？－　？　江中期俳人;1730午寂「太郎河」歌仙入
頼茂(らいも・よりしげ?・土岐)→　*頼旨*(よりむね・土岐とき、幕臣/対外交渉)Ｊ４７８２
頼門(らいもん・妻木)　→　*頼門*(よりかど・妻木つまき/源、幕臣/歌)　Ｋ４７６９
雷門楼(らいもんろう)　→　*友吉*(ともよし・伊藤いとう/伴、藩士/歌人)Ｕ３１１０
来也堂(らいやどう)　→　*実山*(じつざん・立花たちばな、藩士/学芸)　Ｅ２１９１
4897　**頼瑜**(らいゆ;法諱・俊音;字、土生川はぶかわ源四郎男)1226-1304*79*　紀伊那賀郡山崎村の豪家の生、
真言僧;弥勒院玄心門;出家/高野山大伝法院に修学、
さらに東大寺・興福寺で三論・華厳・瑜伽・唯識を修学、1261醍醐寺報恩院に住;著作に専念、
1266高野山大伝法院の学頭職に就任/80高野山中性院で実勝より第三重の印可を受、
中性院流を創始/1288(弘安11)大伝法院・密厳院を高野山から紀伊根来山に移す、
1256「釈論開解鈔」61「十八道口決」62「薄雙紙口決」77「阿弥陀口決」81「阿字秘釈」、
1287「釈論愚草」95-98「秘蔵宝鑰愚草」1300「法華開題愚草」、「妙抄記」「結網集」「香薬」、
「十巻章愚艸」「阿弥陀口決」「諸尊通用表白集」「発恵鈔」「野道鈔」外著多数、
[頼瑜の別法諱/通称]初法諱;豪信、通称;甲斐阿闍梨/甲斐法印　、没後に僧正を追贈
頼由(らいゆう・内藤)　→　*頼由*(よりゆき・内藤ないとう/藤原/永井、藩主)Ｋ４７４０
頼邑(らいゆう・桑折)　→　*頼邑*(よりむら・桑折こおり、藩家老/歌人)　Ｑ４７２５
頼有(らいゆう・細川)　→　*頼有*(よりあり・細川ほそかわ/源、武将/守護/歌)Ｑ４７４２
頼裕(らいゆう・成田)　→　*頼裕*(よりひろ・成田なりた、藩士/文筆家)　Ｊ４７６７
頼裕(らいゆう・木下)　→　*頼裕*(よりひろ・木下きのした、商家/国学)　Ｍ４７３６

頼雄(らいゆう・松平)　→　*頼雄*(よりかつ・松平まつだいら、藩主/歌人)　Ｑ４７１６
来悠(らいゆう・小林)　→　*茂大*(しげひろ・小林こばやし、国学者/歌)　Ｏ２１３９
4898　**頼誉**(らいよ;法諱・定厳じょうごん;字、通称;小池法印)1459-1531*73*　室町戦国期僧;
初め南都・比叡山で顕密を修学/のち真言僧;紀伊根来寺十輪院道瑜門;事相・教相を修学、根来寺化主となる:妙音院を創建、道瑜と共に両能化と称される、
「行法要集」「吽字義聞書」「声字義聞書」「理趣釈聞書」「理趣経私記」「論義私記」外著多数
頼要(らいよう・葉室)　→　*頼要*(よりとし・葉室はむろ/藤原/坊城、権大納言/記録)Ｊ４７２１
頼容(らいよう・中山)　→　*信守*(のぶもり・中山なかやま/松平、家老)　Ｇ３５６９
頼庸(らいよう・錦小路)　→　*頼庸*(よりつね・錦小路にしきのこうじ/丹波/小森、廷臣/医)Ｊ４７０９
頼庸(らいよう・諏訪)　→　*頼庸*(よりつね・諏訪すわ、儒者)　Ｊ４７１０
頼庸(らいよう・土岐)　→　*頼庸*(よりつね・土岐とき、幕臣;高家/歌)　Ｈ４７４１
頼庸(らいよう・牛島)　→　*盛庸*(もりつね・牛島うしじま、和算家)　Ｆ４４８０
頼庸(らいよう・田中)　→　*頼庸*(よりつね・田中たなか、藩士/神職)　Ｎ４７６６
来葉女(らいようじょ)　→　*貞信尼*(ていしんに・三輪みわ、歌妓/歌人)Ｂ３０３０
4899　**来々**(らいらい・河合かわい、別号;湖貫/五湖庵)1727-80*54*　大阪生/京の祇園新地末吉町住の俳人、俳諧:牛湖門/のち普求門、「俳諧志賀の余花」著
来々(らいらい・浄勝寺)　→　*順藝*(じゅんげい;法諱、真宗大谷派僧/歌)Ｊ２１４６
磊々軒(らいらいけん・家里)→　*松嶋*(しょうとう・家里いえさと/近藤、儒者/尊攘)Ｒ２２５７
磊々山人(らいらいさんじん)　→　*櫟堂*(れきどう・飯淵いいぶち、藩士/詩人)　５１８２
来々禅子(らいらいぜんし:号)→　*梵僊*(ぼんせん:法諱・竺仙;道号、臨済僧)Ｆ３９５３
磊落居士(らいらくこじ)　→　*雲泉*(うんせん・釧くしろ、絵師)　Ｄ１２８７
頼理(らいり・錦小路)　→　*頼理*(よりただ・錦小路にしきのこうじ/丹波、廷臣/医)Ｉ４７９６
頼隆(らいりゅう・相良)　→　*頼喬*(よりたか・相良さがら、藩主/歌人)　Ｑ４７１９
頼隆(らいりゅう・藤原)　→　*頼隆*(よりたか・藤原ふじわら、廷臣)　Ｉ４７８５
頼隆(らいりゅう・吉見)　→　*頼隆*(よりたか・吉見/源、武将/歌人)　Ｉ４７８６
頼隆(らいりゅう・蜂屋)　→　*頼隆*(よりたか・蜂屋はちや/源/羽柴、武将/歌・連歌)Ｉ４７８８
D4860　**頼梁**(らいりょう・号、)　？－　？　江前期;歌人/1682河瀬菅雄[麓の塵]2首入、河瀬家の人か?
[もらさじよ涙の雨はしげくともついの晴間を末にたのみて](麓の塵;恋497)
頼亮(らいりょう)　→　*頼慶*(らいけい、僧/早歌作者)　Ｄ４８３５
頼亮(らいりょう・松田/平)→　*頼亮*(よりあき・松田まつだ/平、幕臣/歌人)Ｋ４７３０
頼亮(らいりょう・松平)　→　*頼亮*(よりあきら・松平、藩主/藩政改革)　Ｉ４７３５
頼亮(らいりょう/よりすけ・高成田)→*琴台*(きんだい・高成田たかなりた、藩士/経学)Ｒ１６３７
頼連(らいれん/よりつら・明智あけち)→　*玄宣*(げんせん;法号、武士/連歌)　Ｃ１８５４
4811　**雷和**(らいわ)　？－　？　江前期俳人;1693不角「一息」「二息」入、
[手枕たまくらを頬杖にする起き仕度じたく](一息/前句;逢ふ夜に憎や鶏の宵鳴)
B4800　**羅院**(らいん・中井なかい)1709 － 1779*71*　京の松屋町通一条下町の俳人:山口羅人門、故あって京を追放;壱岐に住、郡吏の手厚い待遇;壱岐に俳諧を広める/1766赦免;帰京、1768(明和5)点者となる、1778(安永7)「十分一」編、
[羅院(;号)の別号]　蛭牙斎しつがさい/方円堂
蘿隠(らいん;漢詩号)　→　*也有*(やゆう・横井、藩士/俳人/詩歌)　４５１７
B4801　**羅雲**(らうん)　？－　？　俳人;1772几董「其雪影」2句入、
[蓮もまだ浮世をわたる水の上](其雪影;283/極楽の蓮も現実にはまだ浮き世にある)
羅云院(らうんいん;号)　→　*明覚*(みょうがく;法諱、真宗僧/歌人)　Ｋ４１６２
蘿園(らえん)　→　*吉言*(よしとき・大友、神職/国学/医者)　Ｅ４７８８
螺翁(らおう・杉村)　→　*健*(けん・杉村すぎむら、文筆家/年譜)　Ｈ１８４７
B4802　**蘿音**(らおん)　？－　？　俳人/娓吏びりと親交/1773几董「明烏」入:
[五加木うこぎ垣隣に酒を買はせけり](あけ烏:180/うこぎの若葉のお返しに酒が来た)
蘿厓(らがい・橘)　→　*壽庵*(じゅあん・橘たちばな、儒者/詩人)　Ｗ２１４９

楽(らく・今村)　→　*楽*(たぬし・今村いまむら、医/国学/歌)　Ｇ２６３４
楽(らく・武藤)　→　*楽阿*(らくあ・法師、歌/連歌)　Ｂ４８０３
楽(らく・大森)　→　*子陽*(しよう・大森おおもり、儒者/詩人)　Ｑ２２６２
楽(らく・長崎)　→　*亀洞*(きどう・長崎ながさき、医者/詩人)　Ｌ１６６１

B4803 **楽阿**(らくあ;法諱、俗姓;武藤むとう楽)?-?　能登の社僧;法師/能登吉田神社領の代官職、
歌人/連歌:二条良基邸・四辻善成邸の歌会に参加、自邸月次会を主催、菟玖波1句入、
[山水の流れは松に木がくれて](菟;雑1372/前句;見るほどもなき月の影かな)
薀賢(武藤為用)との関係は?→*薀賢*(うんけん;法諱・楽阿;号、僧/歌人)Ｂ１２１１
楽庵(らくあん・佐々)　→　*泉翁*(せんおう・佐々ささ/小篠、藩士/儒者)Ｅ２４９６
楽庵(らくあん・鈴木)　→　*重矩*(しげのり・鈴木すずき、国学/歌人)　Ｚ２１１７
楽庵(らくあん・渡辺)　→　*為常*(ためつね・渡辺わたなべ、商家/俳人)　２７４１
楽庵((らくあん・今井)　→　*成忠*(しげただ・今井いまい、代官/国学者)　Ｎ２１４３
落安舎(らくあんしゃ)　→　*西国*(さいこく・中村、俳人)　２０７６

B4804 **落英**(らくえい)　?-?　大阪の俳人;之道門、1690之道「江鮭子あめこ」6句入、
[秋風や山田を落る水の音](あめ子;七吟歌仙の発句/稲刈前の田の水抜きの音)
楽易道人(らくえきどうじん)　→　*冠山*(かんざん・小笠原おがさわら、藩士/儒)　Ｈ１５６４
楽園(らくえん)　→　*永年*(えいねん・白瀬しらせ、医者)　Ｄ１３２９
楽園(らくえん・生田)　→　*珍満*(うずまろ・生田いくた/井上、藩士/歌)Ｅ１２５０
楽園(らくえん・河野)　→　*通重*(みちしげ・河野こうの/越智、庄屋/歌)Ｊ４１０９
楽園逸民(らくえんいつみん)　→　*述斎*(じゅっさい・林/松平、幕府儒官)　Ｉ２１９４
楽円樹院(らくえんじゅいん)　→　*前豊*(さきとよ・近衛/広幡/源、内大臣/画)Ｇ２０３９

B4805 **楽翁**(らくおう;道号・正吉しょうきつ;法諱)1531-1611*81*　曹洞僧;信濃佐久郡貞祥寺開山の節香徳忠門、
節香の嗣法/or松山竜鶴の法嗣、1563(永禄6)佐久貞祥寺4世、
1578信濃高井郡泉竜寺初世に迎えられる、「貞祥寺開山歴代略伝」著

B4806 **楽応**(らくおう)　?-?　越後三条の俳人;1690言水「新撰都曲」2句入、
[嵯峨の蟻京みる花の枝折哉](都曲;上229/花をみちしるべに京見物)
楽翁(らくおう・松平)　→　*定信*(さだのぶ・松平、藩主/寛政改革)　２０２２
楽翁(らくおう・股野)　→　*玉川*(ぎょくせん・股野またの、藩士/儒/詩)　Ｉ１６８６
楽翁(らくおう・赤塚)　→　*之重*(ゆきしげ・赤塚あかつか/財、神職/歌)　Ｇ４６４８
貉翁(らくおう・清水)　→　*雷首*(らいしゅ・清水/下郷/平、儒者/詩)４８５４
楽王(らくおう・日柳)　→　*燕石*(えんせき・日柳くさなぎ、詩人/勤王派)Ｂ１３８１

B4807 **楽峨**(らくが・梅暮里うめぼり、釣亭)?-?　人情本作者;2世梅暮里谷峨門、
1858「春色連理の梅」五編校正
楽我(楽賀らくが・三笑亭)→　*正蔵*(しょうぞう・林屋はやしや、噺家/合巻作者)２２６４
楽我(らくが・赤坐)　→　*正直*(まさなお・赤坐あかざ、藩士)　Ｎ４００４

B4808 **楽艾**(らくがい・山本やまもと、名;維専)1780-1839*60*　越前福井の儒者;韻鏡学に通ず、
教育者;門弟多数、「詩経音註」著、
[楽艾(;号)の字/通称/法号]字;甫良、通称;次右衛門、法号;釈西入
洛下隠士(らくかいんし)　→　*謙斎*(けんさい・加藤かとう、医者/詩文)　Ｂ１８８２
洛下隠士(らくかいんし)　→　*洛下隠士*(らっかいんし、軍記作者、謙斎と同一説あり)Ｂ４８４６
落霞窓(2世らくかそう)　→　*鳥酔*(ちょうすい・白井、俳人)　２８２４
楽亀斎(らくきさい)　→　*三休子*(さんきゅうし・梅花軒、上坂/中沢、藩士/随筆)Ｍ２００２
楽義斎(らくぎさい・人見)　→　*直養*(なおやす・人見ひとみ、医者)　Ｃ３２７８
楽義斎(らくぎさい・森田)　→　*義章*(よしあき・森田もりた、医者)　Ｂ４７９６
楽吉(らくきち・田中)　→　*左入*(さにゅう・田中たなか、楽焼6世)　Ｋ２０６４
洛橋陳人(らくきょうちじん)　→　*京伝*(きょうでん・山東、画/戯作者)　１６３７
輅九郎(らくくろう・森田)　→　*道成*(みちなり・森田もりた/湯口、大庄屋/歌)Ｋ４１８２
楽群書屋(らくぐんしょおく)　→　*琴橋*(きんきょう・香川かがわ、儒者)　Ｑ１６８０
楽卿(らくけい・溝口)　→　*直諒*(なおあき・溝口、藩主/文筆)　３２５９
楽卿(らくけい・勝)　→　*賢友*(かたとも・勝かつ/源、藩士/歌人)　Ｕ１５２７

落月庵(らくげつあん)　→　*西吟*(さいぎん・水田、俳人)　２０７１
落月堂(らくげつどう)　→　*操巵*(そうし・落月堂、浮世草子作家)　Ｂ２５６５
B4810 **楽軒**(らくけん・貝原かいばら、名;義質よしかた、藩医貝原寛斎4男)1625-1702*78*　筑前福岡藩儒/浦奉行、
1689致仕;家督を息子恥軒に譲渡、筑紫三宅村に隠居、「浦庁条令」編、
「農業全書付録」「貝原義質教訓書」「瀛津宮之御事略書」著、恥軒(恥軒)ちけんの父/益軒の兄、
[楽軒(;号)の字/通称/別号]字;子実、通称;善太夫、別号;日休
楽軒(らくけん;法名)　→　*良適*(りょうてき・林はやし、幕府医官)　Ｊ４９０２
楽軒(らくけん・佐々)　→　*泉翁*(せんおう・佐々ささ、儒者)　Ｅ２４９６
楽軒(らくけん・岡)　→　*俊直*(としなお・岡おか/藤原、神職/歌人)　Ｕ３１５７
楽軒(らくけん・沢崎)　→　*実備*(さねなが・さねとも・沢崎、藩士/史家)　Ｌ２０１４
楽軒(らくけん・佐々)　→　*泉翁*(せんおう・佐々ささ/小篠、藩士/儒者)Ｅ２４９６
B4811 **落梧**(らくご・安川やすかわ、通称;助右衛門/屋号;万屋よろづや)1652-91*40*　美濃岐阜の呉服商万屋、
俳人;芭蕉門、1688師を稲葉山亭に招待、遺稿「瓜畠集」編[;支考「笈日記」所収]、
1691江水「元禄百人一句」入、
[能因が車おりけむ門の松](百人一句;65;
能因が歌人伊勢の旧宅前で車を降りた(;袋草子)のは門松飾を見たからか)
B4812 **楽郊**(らくこう・中川なかがわ、名;延良、四郎治の長男)1795-1862*68*　対馬藩士;1811出仕/納戸掛、
1830頃江戸に赴く/1842以酊庵使として朝鮮に赴く、漢学;吉村蕃門、
致仕後は読書・執筆に専念;多くの史料・聞書を収集、1859「鶏肋編」「楽郊紀聞」著、
[楽郊(;号)の通称/法号]通称;良/四郎五郎、法号;観古院
楽国生(らくこくせい)　→　*庫山*(こざん・村田むらた、儒者/書)　Ｇ１９６１
B4813 **楽斎**(らくさい・田辺たなべ、野中匡広男)1754-1822*69*　陸前仙台の儒者、句読;大森清好門、
儒;田辺晋斎・損斎門/京に遊学;久米訂斎・宇井黙斎門;経史を修学、
江戸で渋井太室・関松窓門、帰藩後田辺損斎の支族となる、仙台藩儒;伊達斉宗の侍読、
1780(安永9)仙台藩校養賢堂学頭に就任、「四書筆解」「五経筆解」「楽斎文集」「砕玉集」著、
「近思録筆解」「大学筆解」「中庸筆解」「中洲文集」「堂室録」「謾録」/1814「鉛摘録」外著多数、
[楽斎(;号)の名/字/通称/別号]名;匡勅、字;子順、通称;三郎助、別号;中洲
D4840 **楽斎**(らくさい・平松ひらまつ、名;正慤、河野通賢男/平松正明養嗣子)1792-1852*61*　伊勢の儒者;
儒;猪飼敬所門、1818津藩主藤堂高兌侍講;小姓頭/19藩校有造館創設尽力、
1819家督継嗣;用人・郡奉行・督学参謀、文教政策、民政家;天保飢饉に救荒尽力、
神明流刀術/梵語/詩文に通ず、「軍中日記」編、「食草便覧」「救荒雑記」著、「雲渓雑話」編、
「落穂集」「梵香記」「楽斎詩文稿」「至楽窩詩稿」著、松浦武四郎の師、
[楽斎の字/通称/別号]字;子愿、通称;健之助/喜蔵、別号;至楽窩/寛栗堂、法号:文篤院
楽斎(らくさい・市河)　→　*米庵*(べいあん・市河、儒者/詩/書家)　２７００
楽斎(らくさい・山内)　→　*豊城*(とよき・山内やまうち、書家/歌人)　Ｒ３１１２
楽斎(らくさい・益谷)　→　*末寿*(すえほぎ・益谷/荒木田/菊屋、神職/国学)Ｂ２３４３
楽斎(らくさい・松平)　→　*頼学*(よりさと・松平まつだいら、藩主/詩歌)　Ｐ４７２０
楽斎(らくさい・芳賀)　→　*猶昌*(なおまさ・芳賀はが、国学者)　Ｏ３２２７
楽斎(らくさい・吉田)　→　*宣秋*(のぶあき・吉田よしだ、商家/歌人)　Ｋ３５３５
楽斎(らくさい・小林)　→　*竹阿*(ちくあ・小林、俳人)　Ｃ２８４５
楽斎(らくさい・島)　→　*義勇*(よしたけ・島しま、藩士/蝦夷開拓)　Ｅ４７２０
楽哉(らくさい)　→　*行乗*(ぎょうじょう;法諱・観輪、黄檗僧)　Ｏ１６０６
楽哉(らくさい;号)　→　*清珠*(せいじゅ;法諱、真宗本願寺派僧)　Ｉ２４５９
楽哉(らくさい・沢崎)　→　*実備*(さねなが・さねとも・沢崎、藩士/史家)　Ｌ２０１４
楽斎山寿(らくさいさんじゅ)　→　*玉粒*(ぎょくりゅう・晋米斎、合巻/狂歌)　Ｄ１６１２
B4814 **楽山**(らくざん)　？－　？　雑俳点者、1705良弘「宝の市」入
B4815 **楽山**(らくざん・築山つきやま)　？－1837　伊賀上野の商家/絵師;岡田米山門、
一時一家を成すも世間との交流を好まず文人墨客とのみ交遊、詩文・篆刻を嗜む、
晩年は高旗山麓に隠棲、1805「芥子園画伝」訳、「鼓堂印篆」著、
[楽山(;号)の名/通称/別号]名;穣/玄厚、通称;平野屋忠右衛門/平楽山、

別号;米園/平穣/平彦/竹塢/紫藤山人

B4816 **楽山**(らくざん・奥田おくだ、名;盛香、九左衛門3男)1777-1860*84* 備中高梁藩士/儒者;中井履軒門、詩;菅茶山門、藩校有終館の学頭、1835「群仙楼記」、「莫過詩亭集」「備中話」「柳絮略記」著、[楽山(;号)の通称/別号]通称;蕉蔵/貞蔵/貞介、別号;蕉窓/莫過詩亭/五愛楼

B4817 **楽山**(楽三らくざん・井口いぐち、字;望之)?-? 江後期和泉岸和田藩医、本草家、1849「本草綱目啓蒙図譜」編、「本草啓蒙補遺」「本草綱目筆記」著

B4818 **楽山**(らくざん・有本ありもと、名;応寅/通称;兵庫)?-? 江後期紀伊の人/和歌山藩士、歌学:本居内遠門、1849(嘉永2)「晩唐律詩選」編

B4819 **楽山**(らくざん・馬場ばば、藩士天野周成2男)1803-68*66* 磐城双葉郡幾世橋の馬場家の女婿、磐城中村藩士/儒者:藩儒海東**駒斎**門、殖産興業を藩主に献言/子弟教育に尽力、能書家、「楽山詩文集」著/「楽山遺訓」、[楽山(;号)の名/通称/法号]名;周時、通称;弥右衛門、法号;仁挙道光楽山居士

B4820 **楽山**(らくざん・本間ほんま、土門兵助2男)1812-72*61* 羽前田川郡野興屋村儒者/初め医;重田又玄門、儒:出羽庄内藩校致道館に修学、菱津村の素封家本間治右衛門の養子、1840庄内藩が越後長岡転封に際し地主須藤親愛と共に転封中止を老中に上訴;聞き届く、菱津と西目に学校を開設、「本間楽山詩稿」「楽山文集」著、[楽山(;号)の名/通称/別号]名;全延/延菱、通称;治右衛門、別号;智庵/叔慶

楽山(らくざん・松平) → *直政*(なおまさ・松平、藩主/歌人) Ｃ３２３６
楽山(らくざん・徳川) → *頼順*(らいじゅん・徳川/源/松平、幕臣/詩) ４８６３
楽山(らくざん・伊達) → *村候*(むらとき・伊達だて、藩主/改革/歌) Ｄ４２１７
楽山(らくざん・伊達) → *慶邦*(よしくに・伊達、藩主/歌人) Ｄ４７２５
楽山(らくざん・文思恭院)→ *政熙*(まさひろ・鷹司/藤原、関白/歌人) Ｇ４０９５
楽山(らくざん・下郷) → *亀洞*(きどう・千代倉/下郷しもさと、詩/俳) Ｂ１６５７
楽山(らくざん・宮重) → *本因坊元丈*(ほんいんぼうげんじょう、棋士) Ｅ３９９３
楽山(らくざん・田中) → *雅楽郎*(うたろう・田中、医者) Ｄ１２０５
楽山(らくざん・渡辺) → *英綱*(ひでつな・渡辺わたなべ、和算家) Ｄ３７２５
楽山(らくざん・安中) → *亨意*(こうい・安田、医者/歌人) Ｈ１９３０
楽山(らくざん・板倉) → *勝彪*(かつたけ・板倉いたくら、藩士/武芸者) Ｎ１５５０
楽山(らくざん・内藤) → *閑斎*(かんさい・内藤ないとう、儒者) Ｈ１５６１
楽山(らくざん・成瀬) → *当職*(まさもと・成瀬なるせ、藩士/詩人) Ｈ４０９５
楽山(らくざん・谷) → *文晁*(ぶんちょう・谷たに、絵師) Ｇ３８２４
楽山(らくざん・鵜沼) → *国靖*(くにやす・鵜沼うぬま、藩家老/詩人) Ｄ１７３０
楽山(らくざん・喜多村) → *香城*(こうじょう・喜多村、幕府医官) Ｆ１９１２
楽山(らくざん・多賀谷) → *安貞*(やすさだ・多賀谷たがや、医者/幕臣) Ｂ４５４４
楽山(らくざん・高戸) → *安貞*(やすさだ・高戸たかと/守屋、醸造/歌) Ｂ４５４５
楽山(らくざん・新山) → *忠*(ちゅう・新山にいやま、藩士/儒者/詩人) Ｆ２８７１
楽山(らくざん・伊達) → *慶邦*(よしくに・伊達だて、藩主/歌人) Ｄ４７２５
楽山(らくざん・池田) → *茂政*(もちまさ・池田/徳川/松平、藩主) Ｂ４４６９
楽山(らくざん・渡辺) → *重名*(しげな・渡辺わたなべ、神職/国学者) Ｃ２１５８
楽山(らくざん・氷室) → *泰長*(やすなが・氷室ひむろ/千秋、神職/歌) Ｇ４５４６
楽山(らくざん・木俣) → *守易*(もりやす・木俣きまた/橘、藩老/楽焼) Ｊ４４７９
楽山(らくざん・前野) → *良沢*(りょうたく・前野まえの/谷口、蘭学/医) Ｉ４９８１
楽山(らくざん・一万田) → *如水*(じょすい・一万田いちまんだ、医者、漢学) Ｍ２２６２
楽山(らくざん・西田) → *楽山*(ぎょうざん;法諱、融通念仏僧) Ｖ１６６１
楽山(らくざん・柏木) → *是心軒*(4世・一斎いっちょう、医者/華道家) Ｋ２４６３
楽山(らくざん・万年) → *櫟山*(れきざん・万年まんねん、医者) ５１７７
洛山(らくざん;字) → *慈隆*(じりゅう;法諱、天台僧/藩政参加) Ｕ２２８９
楽山庵(らくざんあん) → *亨意*(こうい・安田、医者/歌人) Ｈ１９３０
洛山逸民(らくざんいつみん) → *蘭斎*(らんさい・金こん、漢学;老荘) Ｃ４８１３
楽山院(らくざんいん) → *梁洲*(りょうしゅう・鎌田かまた、儒官/家老) Ｈ４９８７

楽山園(らくざんえん)　→　*元啓*(もとひろ・石松いしまつ、儒者/歌)　Ｅ４４１５
楽山観(らくざんかん)　→　*拾翠*(しゅうすい、俳人?-1759)　Ｈ２１７３
落山軒(らくざんけん)　→　*雅重*(まさしげ・岩井いわい、和算家/教育)　Ｃ４０７９
楽山子(らくさんし・谷口)　→　*重以*(じゅうい・谷口、俳人)　Ｇ２１８０
楽山樵夫(らくざんしょうふ)　→　*春水*(初世しゅんすい・為永、人情本作者)２１６１
楽山人(らくさんじん)　→　*馬笑*(ばしょう・楽亭、滑稽本)　Ｅ３６５５
楽山人(らくさんじん・内藤)→　*閑斎*(かんさい・内藤ないとう、儒者)　Ｈ１５６１
楽山亭(らくざんてい)　→　*常雄*(つねお・鈴木すずき、国学/歌人)　Ｆ２９４０
楽山堂(らくさんどう)　→　*甫三*(甫参ほさん・森田もりた、医者/詩)　Ｅ３９１６
楽山堂(らくさんどう)　→　*廷高*(ていこう・宮崎、医/詩文)　３０７０
楽山堂(らくさんどう)　→　*摩斎*(まさい・金本かなもと、儒者/詩)　Ｂ４０２４
楽山道人(らくさんどうじん)　→　*蠅翁*(ようおう・松井/平、医者/国学者)　４７６７
楽山二幸楼(らくざんにこうろう)→　*重名*(しげな・渡辺わたなべ、神職/国学者)Ｃ２１５８
楽山楼(らくざんろう)　→　*峨山*(がざん・井上いのうえ、藩士/儒者)　Ｈ１５４７
楽志(らくし・依田)　→　*源太左衛門*(げんたざえもん・依田よだ、幕臣/儒者)Ｋ１８９８
楽只(らくし・松平)　→　*定通室*(さだみちのしつ・松平まつだいら、田安斉匡女/歌)Ｎ２０３１
楽只(らくし・上原)　→　*定賀*(さだよし・上原うえはら、代官/書詩歌)Ｎ２０９３
楽只(らくし・魚住)　→　*明誠*(あきのぶ・魚住うおずみ、藩士/国学)　Ｈ１０１１
楽只庵(らくしあん)　→　*良然*(りょうねん;法諱、曹洞僧)　Ｌ４９５８
楽只院(らくしいん;法号)　→　*隆徳*(たかのり・九鬼くき、藩主/歌)　Ｕ２６１５
楽只園(らくしえん)　→　*竜庵*(りゅうあん・中村なかむら、医者)　Ｃ４９７０
楽只館(らくしかん)　→　*白翁*(白鷗はくおう・平沢ひらさわ、卜占家)　Ｃ３６７６
楽只菅公(らくしかんこう)　→　*長親*(ながちか・清岡きよおか/五条、廷臣/学者)Ｅ３２２８
楽只軒(らくしけん)　→　*貞起*(さだおき・萩原はぎわら、商家/歌人)　Ｆ２０２４
楽只軒(らくしけん)　→　*清泉*(せいせん・上林かんばやし/金森、茶師)　Ｊ２４０９
楽只斎(らくしさい)　→　*宗二*(そうに/そうじ・松尾まつお、茶人)　Ｉ２５６４
落柿舎(らくししゃ)　→　*去来*(きょらい・向井、俳人)　１６５４
落柿舎(2世らくししゃ)　→　*重厚*(じゅうこう・井上・菅原、僧/俳人)　Ｈ２１３７
落柿舎(らくししゃ)　→　*石外*(せきがい、紀/中野、俳人)　Ｄ２４３８
落柿舎(らくししゃ)　→　*雪簫*(せっしょう・落柿舎、俳人)　Ｌ２４０９
楽只仙(らくしせん)　→　*仲和*(なかかず・岩神いわがみ、俳人)　Ｄ３２３７
楽只大和尚(らくしだいおしょう)→　*斉宣*(なりのぶ・島津しまづ、藩主/詩歌)　Ｈ３２９４
落日庵(らくじつあん)　→　*蕪村*(ぶそん・与謝・谷口、俳人/絵師)　３８１１
楽只亭(らくしてい)　→　*長喬*(ながたか・小西こにし/井沢、歌人)　Ｍ３２０８
楽只堂(らくしどう)　→　*吉保*(よしやす・柳沢/源/松平、藩主/歌)Ｈ４７７５
楽只堂主人(らくしどうしゅじん)→　*治宝*(はるとみ・徳川、藩主/雅楽)　Ｇ３６６０

B4821 **楽樹**(らくじゅ;法諱・翫月がんげつ;字)1783-1841*59* 江後期真言僧;武蔵羽生領文珠院開基霊麟和尚門、律師/のち文珠院5世となる、「執事式目」著
楽寿院(らくじゅいん;諡号)→　*慈範*(じはん;道号・観昭、真宗木辺派僧)Ｖ２１４８
楽寿園(らくじゅえん)　→　*秀穎*(ひでかい・河村かわむら、藩士/国学者)Ｃ３７８９
楽寿館(らくじゅかん)　→　*秀穎*(ひでかい・河村かわむら、藩士/国学者)Ｃ３７８９
楽春院(らくしゅんいん)　→　*元堅*(もとかた・多紀たき/丹波、幕府奥医)Ｃ４４３６

B4822 **楽所**(らくしょ・山本やまもと、名;惟孝これたか、宗伯男)1764-1841*78* 紀伊和歌山藩士/藩儒、
1807藩校学習館督学、
「紀伊続風土記」「徳川淵源記」の編纂参画/幕命で「貞観政要」の校訂、画を嗜む、禄250石、
南岡「所聞録」に記事入、1833「孝経集伝」「周易変占論」/39「論語補解」、「王覇論」「偽書説」、
「尚古奇観」「新定三礼図考」「山本惟孝上紀伊公論学校書稿」著、
[楽所(;号)の字/通称/別号]字;元礼、通称;源吾/源五郎、別号;吹颺すいよう
楽処(らくしょ・魚住)　→　*明誠*(あきのぶ・魚住うおずみ、藩士/国学)　Ｈ１０１１

D4852 **楽女**(らくじょ・武谷たけたに/旧姓;井岡、名;雪子)1832-72*41*　徳島藩士武谷栄国ひでくにの妻、

義母;武谷(井岡)機女はたじょ、義母・夫と共に歌人、江戸住、
1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入(義母・夫と共に入集)、
[鶯の年の内より声すれば春の初音に何を聞かまし](大江戸倭歌;冬1362/歳暮鶯)
楽如(らくじょ・難波) → *周政*(かねまさ・難波なんば、陪臣/歌人) Ｖ１５２９
楽笙軒鷰愡(らくしょうけんえんそう)→ *鷰愡*(えんそう・楽笙軒、俳人) Ｆ１３１６
楽真院(らくしんいん・多紀)→ *元堅*(もとかた・多紀たき/丹波、幕府奥医)Ｃ４４３６
B4823 洛西隠士(らくせいいんし:姓名不詳)?-? 京の俳人;雑俳
1705「役者舞台笠」編;[1695書肆「花笠」の姉妹篇]
B4838 楽水(らくすい) ? - ? 江前期俳人;1691不角「若みどり」入、
[鉢入れずさらば通れと云ひもせず](若みどり/托鉢僧は迷いながら待つ)
B4824 楽酔(らくすい) ? - ? 但馬竹田の俳人;1691江水「元禄百人一句」目録入
B4825 落水(らくすい) ? - ? 京の俳人;「臍の緒」編
B4826 楽水(らくすい・黄花亭こうかてい)?- ?1849存 尾張の戯作者、「当世奇遊伝」
D4855 楽水(らくすい・高橋たかはし、旧姓;宮原)1809-93*85* 長門阿武郡松本沼田ヶ原の生/萩の高原家の養子、
萩藩士/儒者;詩文に長ず、私塾開設/歌を詠む、
[老の波よるべたのしき御代に逢ひて君の恵の身にあまりつゝ](萩の歌人)入)、
[楽水(;号)の名/通称]名;魯ろ、通称;与右衛門
楽水(らくすい・清河/齋藤)→ *八郎*(はちろう・清河/清川、教育/尊攘) Ｆ３６０１
楽水(らくすい・森/道体) → *氏継*(うじつぐ・森/道体どうたい、和算家) Ｃ１２４７
楽水(らくすい・伊東) → *見龍*(けんりゅう・伊東いとう、藩医者) Ｍ１８８１
楽水(らくすい・萩原) → *正巳*(まさみ・萩原はぎわら、書家/歌) Ｈ４０３５
楽水(らくすい・宮崎) → *通泰*(みちやす・宮崎/栗原、医者/歌) Ｃ４１７５
楽水(らくすい・越智) → *通清*(みちきよ・越智おち、里正/歌人) Ｉ４１３０
楽水(らくすい・村井) → *則民*(のりたみ・村井むらい、儒/藩学教授) Ｋ３５１２
楽水(らくすい・永友) → *司*(つかさ・永友ながとも、神職/国学) Ｇ２９１０
楽水(らくすい・松浦) → *詮*(あきら・松浦まつうら、藩主/書/茶人) Ｉ１０４４
楽水堂(らくすいどう) → *順義*(ゆきよし・沼田、医/国学/歌) ４６２７
楽輔(らくすけ・夢中) → *夢中楽輔*(ゆめなかのらくすけ、狂歌) Ｇ４６１２
雒澨(らくぜい) → *亀泉*(きせん・集証、臨済僧) Ｆ１６１０
洛西隠士(らくせいいんし) → *拾水*(しゅうすい・下河辺しもこうべ/藤原、絵師)Ｈ２１７４
絡石舎(らくせきしゃ→つたのや)→ *伴雄*(ともお・長沢、藩士/故実/国学/歌)Ｐ３１２３
楽是幽居(らくぜゆうきょ) → *梅逸*(ばいいつ・山本やまもと、絵師) ３６５３
楽是幽居(らくぜゆうきょ) → *梅堂*(ばいどう・浅野、幕臣/和学) Ｂ３６９２
楽善(らくぜん・天沼/伊藤)→ *恒庵*(こうあん・天沼あまぬま/伊藤、儒/書) Ｅ１９８５
楽善(らくぜん・川口) → *西洲*(さいじゅう・川口かわぐち、儒者/詩人) Ｇ２０７３
楽善[堂](らくぜん[どう]) → *斉清*(なりきよ・黒田、藩主/本草学) Ｈ３２２７
楽前(らくぜん・村田) → *春門*(はるかど・村田/宮崎、国学/歌) ３６３１
楽泉軒(らくせんけん) → *為広*(ためひろ・冷泉れいぜい、廷臣/歌人) ２６７４
楽叟(らくそう・島地) → *保定*(やすさだ・島地しまじ、藩士/歌人) Ｆ４５９９
楽大(らくだい・宮原、楽太)→ *竜山*(りゅうざん・宮原みやはら、藩儒) Ｅ４９１９
楽痴(らくち・松本) → *良順*(りょうじゅん・松本まつもと/佐藤、蘭医)Ｉ４９０２
楽地堂(らくちどう) → *景周*(かげちか・富田とだ、儒者) Ｅ１５９６
楽亭(らくてい・萩原) → *嵩嶽*(すうがく・萩原はぎわら、儒者/講説) ２３９７
楽亭(らくてい・高水) → *眞井*(まない・高水たかみず/斎部、神職/歌)Ｑ４０７３
楽亭西馬(らくていさいば・西宮源六)→ *西馬*(さいば・楽亭、書肆/戯作) Ｈ２００３
楽亭山寿(らくていさんじゅ) → *玉粒*(ぎょくりゅう・晋米斎、合巻/狂歌) Ｄ１６１２
楽亭主人(らくていしゅじん) → *西馬*(さいば・楽亭らくてい、書肆/戯作者) Ｈ２００３
楽亭馬笑(らくていばしょう) →*馬笑*(ばしょう・楽亭、浄瑠璃語/戯作) Ｅ３６５５
楽天(らくてん・丹蔵) → *光業*(みつなり・丹蔵たんぞう/杉原、神職/国学) Ｊ４１７３
楽天翁(らくてんおう) → *政和*(まさとも・美甘みかも、神職/国学) Ｓ４０９０

楽天斎(らくてんさい)　→　*諶*(まこと・岡部おかべ/平山、国史/博学)　Ｏ４０５８
楽道(らくどう・山田)　→　*直温*(なおはる・山田、儒者)　Ｃ３２１６
楽道(らくどう・長井)　→　*琳策*(りんさく・長井ながい、藩医/本草家)　Ｋ４９３３
楽堂(らくどう)　→　*利義*(としとも・南部なんぶ、藩主)　Ｎ３１０６
楽堂(らくどう・江田)　→　*霞村*(霞邨かそん・江田えだ、儒者/詩)　Ｍ１５８５
楽堂(らくどう・藤)　→　*珍彦*(うずひこ・藤とう/藤原/鍋島、神職)　Ｅ１２７９
洛東閑人(らくとうかんじん)　→　*蕪村*(ぶそん・与謝・谷口、俳人/絵師)　３８１１
洛東隠士(らくとうのいんし)　→　*雲庵*(うんあん、軍記作者)　Ｂ１２５５
洛東野暮天(らくとうのやぼてん)→*野暮天*(やぼてん・洛東らくとう、噺本作者)　Ｅ４５０５
駱之助(駱之輔らくのすけ・河原)→*翠城*(すいじょう・河原/村上、儒者/詩)２３６７
楽波(らくは・村瀬)　→　*克貞*(かつさだ・村瀬むらせ、藩士/国学/歌)Ｖ１５９５
落梅舎(らくばいしゃ)　→　*方忠*(まさただ・岸本きしもと、歌人)　Ｐ４０２６
落梅舎麦甫(らくばいしゃむぎすけ)→*正晴*(まさはる・田中たなか、国学者/歌人)Ｑ４０５８
楽美(らくび/なりよし・田中)→　*金峰*(きんぽう・田中たなか、、詩人)　Ｉ１６２７
楽文(らくぶん・市島)　→　*岱海*(たいかい・市島いちじま、医/儒/詩文)　Ｊ２６４２
楽平(らくへい・吉川よしかわ)→　*楽平*(よしひら・吉川よしかわ、国学者)　Ｋ４７２１
楽平斎(らくへいさい・近藤)→　*弘方*(ひろかた・近藤こんどう、商家/歌人)　Ｊ３７６０
楽甫(らくほ・服部)　→　*盛徳*(もりのり・服部はっとり、国学)　Ｌ４４０３
楽圃(らくほ・飯室)　→　*昌栩*(まさのぶ・飯室いいむろ、本草家/博物)Ｆ４０８４
楽芳庵(らくほうあん)　→　*安々*(やすさだ・矢倉やぐら、商家/歌人)　Ｇ４５９２
楽忘居主人(らくぼうきょしゅじん)→　*阮甫*(げんぽ・箕作みつくり、蘭学者/幕臣)Ｄ１８０３
楽木(らくぼく)　→　*直方*(なおかた・今枝、家老/国学/詩)　３２８８
楽木叟(らくぼくそう:号)　→　*茂叔*(もしゅく:道号・集樹:法諱、臨済僧)Ｂ４４２４
B4827 **楽丸**(らくまる・城戸きど)　？－　？　咄本;1773「御伽噺」著
楽丸(らくまる・翁家[翁坊])→　*都蝶*(とちょう・石野、落語家)　Ｏ３１３９
D4844 **洛酉**(らくゆう)　？－　？　京俳人;1729隆志「俳諧草結」2句入
楽友(らくゆう・中里)　→　*楽友*(よしとも・中里なかざと、商家/歌人)　Ｏ４７１７
D4859 **楽誉**(らくよ;法諱)　1708 － 1769*62*　信濃伊那郡の浄土宗阿弥陀寺住職、
歌人;依田正純(梅山)門
落葉庵(らくようあん)　→　*石牙*(せきが・安田/早川、医/俳人)　Ｄ２４３６
洛陽隠士(らくよういんし)　→　*元閑*(げんかん・遠藤えんどう、医者/茶人)　Ｂ１８４５
洛陽隠士(らくよういんし)　→　*江流*(こうりゅう・洛陽隠士、文筆家)　Ｌ１９５６
B4828 **落葉軒**(らくようけん)　？－　？　江戸の俳人;雑俳、
1707「手鼓てづづみ」編(残月庵跋/笠附3百句収集)
洛陽山人(らくようさんじん)　→　*元隣*(げんりん・山岡、俳人/仮名草子)　Ｄ１８２７
洛陽山人(らくようさんじん)　→　*応挙*(おうきょ・円山/藤原・源、絵師)　１４４６
落葉庵(らくようあん)　→　*石牙*(せきが・安田/早川、医者/俳人)　Ｄ２４３６
落葉堂(らくようどう)　→　*是誰*(これたれ・ぜすい・池田いけだ、俳人)　Ｅ１９２９
洛陽東山逸民(らくようとうざんいつみん)→*掃雲軒*(そうううんけん・安藤、兵法家)Ｇ２５１３
洛陽誹士鏨庶(らくようはいしざんしょ)→*鏨庶*(ざんしょ、洛陽誹士、雑俳点者)Ｅ２０３８
D4837 **楽々**(らくらく・岩室いわむろ、通称;喜右衛門5代、4代喜右衛門[子饒]男)?-1806　安藝広島の醸造家、
広島の綿会所銀元役/1764(宝暦14)父没;新町組大年寄:父を継嗣、
新町組は城下中心部30町村/1772(安永元)中通組(城下中心部13町)大年寄を兼帯、
1789(寛政元)永年勤続褒賞/松宇しょうう(6代喜右衛門)大年寄後見/1797(寛政9)隠居、
俳人;風律13忌追善句、来青刷物「其二戔」に未完歌仙の付句入、
[楽々(;号)の名/別号]名;秀実/弥八郎、別号;停雲/睡翁/子華/左々斉/雲堂、屋号;室屋
楽々庵(らくらくあん)　→　*道甘*(どうかん・高野瀬たかのせ、俳人)　Ｃ３１３６
楽々庵(らくらくあん)　→　*隆彦*(たかひこ・李家りのいえ/河内山、侍医/歌)２７２５
楽々軒(らくらくけん)　→　*規綱*(のりつな・渡辺、家老/茶/陶芸)　Ｆ３５０９
楽々斎(らくらくさい)　→　*忠寛*(ただひろ・本多ほんだ、藩主)　Ｑ２６７２

楽々斎(らくらくさい)　→　*茂美*(しげよし・五島ごとう、商家/国学)　Ｏ２１４４
楽々斎(らくらくさい)　→　*軌鎮*(のりしず・土川つちかわ、役人/国学)　Ｊ３５１８
楽林軒(らくりんけん)　→　*有俊*(ありとし・綾小路あやのこうじ、廷臣/郢曲)Ｃ１０３２
楽楽老人(らくらくろうじん)　→　*十竹*(じっちく・中村なかむら、藩士/書画)　Ｕ２１９３
楽蓮社(らくれんしゃ)　→　*鈴応*(れいおう;法諱・武川、浄土僧/俳人)Ｂ５１５５

B4829 **楽浪**(らくろう・長沢ながさわ、粋庵2男)1699-1779*81*　東海の弟、1706(8歳)痘で失明、儒;兄門、
伊藤仁斎門、下野宇都宮藩儒、1719兄と共に朝鮮通信使と詩を唱和、
藩主戸田忠真・忠余・忠盈・忠寛に出仕、1725「王道内篇」、「詩文篇」「論語俗解」「経史」著
[楽浪(;号)の幼名/名/字/通称/別号]幼名;岩太郎、名;主/達、字;行賤、
通称;順平、別号;不尤所/不尤斎ふゆうさい/万大甫・万太甫
楽浪(らくろう・鈴木)　→　*重胤*(しげたね・鈴木/穂積/源、国学/歌)２１１２
楽浪屋(らくろうおく→さざなみのや)→　*親覧*(ちかみ・佐々木、藩士/国学/歌)Ｂ２８８５

B4895 **蘿渓**(らけい;号、姓;松、名;思明、古周男)?-?　江中期駿河の書家、稲川「思旧漫録」記事入、
母;濤松;父母共に書家、藤益道(伊藤華岡1709-76)門、40歳余で没
羅渓(らけい;号)　→　*慈本*(じほん;法諱・泰初;字、天台僧/詩)Ｖ２１７７
螺渓(らけい;号)　→　*唯浄*(ゆいじょう;法諱、真宗本願寺派僧)４６３７

D4857 **蘿月**(らげつ・松井まつい、通称;益庵)1772-1838*67*　江戸の医者/国学者

B4830 **羅月**(らげつ・渡辺わたなべ、名;嘉楽、嘉林男)1778-1838*61*　岩城安達郡の生/二本松藩士、
詩人/能書家/俳人、松崎慊堂こうどう・安井息軒と交流、二本松俳諧発展に尽力、
延命寺の住職を務める、「共楽集」「羅月小稿」著、
[羅月(;号)の通称]　荻右衛門おぎえもん

B4809 **羅月**(らげつ・野田のだ)　?-　?　絵師;挿画制作、
1812茅渟ちぬ平魚「太万廼佐志玖之たまのさしぐし」画
1829芝屋(司馬)芝叟「玉掻頭」(茅渟ちぬ平魚増補)の画
羅月(蘿月らげつ・尾崎)　→　*雅嘉*(まさよし・尾崎、医/国学/歌人)　４０２４
蘿月(らげつ;号)　→　*敬彦*(きょうげん;法諱・実幢じっとう、天台僧)Ｎ１６６５
蘿月庵(らげつあん)　→　*雅嘉*(まさよし・尾崎、医/国学/歌人)　４０２４
蘿月窟主人(らげつくつしゅじん)→*容斎*(ようさい・藤田ふじた、儒/教育者/詩)Ｂ４７００
羅月亭点花(らげつていてんか)→　*武太夫*(ぶだゆう・岸本きしもと、幕臣・代官)Ｄ３８１８
蘿月堂(らげつどう)　→　*許六*(きょろく・森川、俳/詩/画人)　１６５５
羅月堂(らげつどう)　→　*信意*(のぶのり・馬場、軍記作者)　Ｃ３５７１

B4832 **羅江**(羅口らこう・中嶋なかじま/本姓;源)1720-85*66*　京の俳人:羅人門、公務で京・江戸間往来、
蛭牙斎を継嗣/師の俳書出版に貢献、「嘉例草」編/1784「不遅のうら葉」編、
[羅江(;号)の別号]別号;射堂/蛭牙斎しつがさい/再応主/雲隅窩/雲隅翁/花鳥翁/鳥車園、
一万鳥車/一万翁/鶴立舎、法号;持浄院宗味日妙
蘿紅(らこう・上田)　→　*碧水*(へきすい・上田うえだ、儒者/教育)　２７９０
螺蛤老人(らごうろうじん)　→　*天桂*(てんけい・伝尊、曹洞僧)

B4833 **蘿谷**(らこく・山田やまだ)　?-　?　儒者;1744「補注李滄溟りそうめい先生文選」刊

B4834 **蘿斎**(らさい、姓名不詳)　?-　?　俳人;1845(弘化2)「校正七部集」校編;
1732頃柳居「俳諧七部集」編/74子周(安永3)編・以後種々刊行されたものを校訂
囉斎(らさい)　→　*百丸*(ひゃくまる・森本、俳人)　３７１２

4802 **羅山**(らざん・林はやし、林信時の長男)1583-1657*75*　京四条新町生の儒者;伯父林吉勝の養子、
1595(13歳)京の建仁寺入;古澗慈稽・英甫永雄門/出家せず朱子学に開眼;
1604藤原星窩門/1605徳川家康に謁・07将軍秀忠に謁/駿府で家康に出仕;幕府儒官の祖、
秀忠・家光・家綱に侍講を歴仕;幕藩体制・封建道徳の基礎を築くに貢献、外交文書作成・
朝鮮通信使との応接・日光山への供奉・諸法度・儀礼の起草など政策に深く関与、
古書旧記の蒐集;「寛永諸家系図伝」「本朝編年録」等の編纂を指揮、1629民部卿法印となる、
上野忍岡に宅地を受/学問所・文庫の建設経営;1632名古屋藩主徳川義直より聖堂を贈与、
1645病で公務を息子鵞峰に譲渡、経学・諸子百家・史書・地誌・兵学・本草・詩歌に通ず、
「本朝通鑑」「羅山詩文集」「寸鉄録」「寛永私記」「和漢法制」/1653「四書集註抄」外著多数、

[羅山(;号)の幼名/名/字/通称/別号]幼名;菊松丸、名;信勝のぶかつ/忠、字;子信、通称;又三郎、
別号;浮山/羅浮/羅洞/四維山長/胡蝶洞/瓢巷/梅村/夕顔巷/尊経堂/麝眠/雲母渓、
剃髪号;道春、諡号;文敏
妻;荒川宗意女の亀、東舟の兄、鵞峰・読耕斎の父

B4835 **羅山**(らざん・田中、探花亭)?- ? 江中期大阪絵本・咄本作者、長堀・餝屋町などに住、
1750「絵本千賀浦」/51刊「軽口浮瓢箪」57刊「絵本和歌緑」、「絵本千代春」、
探花亭主人と同一? → *探花亭主人*(たんかていしゅじん、洒落本「百花評林」作者)Ｉ２６０３

B4836 **羅山**(らざん・民村たみむら、別号;浅茅庵)?-? 江後期大阪雑俳点者、
文化文政1804-30頃雑俳の指導的活動、風俳六家仙の1(折句六玉川入)、
1816「あしべの鶴」17「ちから瘻こぶ」22「冠附塵手水ちりちょうず」23「折句今様調」編、
1826「冠附化粧紙」34「冠附浪華みやげ」「那尓浪なにわ土産初編」編

B4837 **羅山**(らざん;道号・元磨げんま;法諱、諡号;大綱正宗禅師)1815-67*53* 遠州臨済僧:幼時広厳寺に出家、
諸師参禅/のち肥後見生寺蘇山玄喬門;法嗣、1844筑前梅林寺住持/59京妙心寺住持、
1866(慶応2)退隠、「大綱正宗禅師語録」著

蘿山(らざん・林) → *道栄*(どうえい・林はやし、唐通事/書) Ｂ３１３５
螺子(らし) → *其角*(きかく・榎本/宝井、医/儒/俳人) １６０５
螺舎(らしゃ) → *其角*(きかく・榎本/宝井、医/儒/俳人) １６０５
羅雀庵(らじゃくあん) → *義材*(よしき・難波なんば、医者/詩歌人) Ｄ４７０６
羅惹院僧正(らじゃくいんのそうじょう)→*隆明*(りゅうみょう;法諱、天台大僧正/歌)Ｆ４９７２
羅洲(らしゅう・松井) → *輝星*(暉星きせい・松井まつい、易占家) Ｂ１６３６

B4839 **羅城**(らじょう・恵階えかい;法諱)1734-1807*74* 美濃岐阜円竜寺の生;真宗僧、
尾張名古屋駿河町の光蓮寺是澄の女婿、のち寺を継承;光蓮寺20世、
俳人:暁台門;俳諧活動開始、師没後は士朗門、歌;武者小路家入門/連歌;木曾正義門、
茶道;久田宗参門/香道;蜂谷貞重門、1796紫暁と長崎行脚、1793「更科紀行」97「松の硯」編、
1768暁台「秋の日」(六吟歌仙[諸秋十字廬じゅうしろ月次満興]に6句入;発句は暁台きょうたい)、
1774美角「ゑぼし桶」1句入、
[誰妻のこもりし家ぞ冬紅葉](ゑぼし桶;74)、
[羅城(;号)の字/別号/法号]字;鳳陽、別号;寂尊/百厓ひゃくがい/円珠庵/新樹堂/虎足庵、
通称;鳳恵忠階 法号;寂静院

羅城(らじょう・巽) → *遜斎*(そんさい・巽たつみ、儒者) Ｆ２５４３

B4840 **螺女散人**(らじょさんじん) ?- ? 江中期明和頃[1764-72]上方巷談を収録;
「つれづれ飛日記」編/「談笈だんきゅう抜萃」著

B4841 **羅人**(らじん・山口やまぐち)1699- 1752*54* 近江守山出身/京東洞院で書肆(柊屋ひいらぎや甚四郎)経営、
禁中御厩寮に関与、俳人:淡々門/1727独立を図り師に反発;30和解、師に反し貞徳風主唱、
1729隆志「俳諧草結」入、1737「一日方向嘉定蒲簀」/40「蛭牙斎しっがさい献唫けんぎん百韻」、
1742「誹諧伝」、48羅人判高点句集「ひろはとり」(貞至・風状ら編/御射山翁発句入)、
1751「誹諧太郎百句」「発句集」編、撰集「貞徳百回忌」編(;没後1753波光刊)、「花紅葉」編、
「誹諧次郎百首」「誹諧独吟百句」「誹諧明心集」「誹諧九十九集」、羅口/波光の師、
[草も木も人の声ある野分のわきかな](1763嘯山「俳諧古選」入/台風下の恐怖と不安)、
[羅人(;号)の通称/別号]通称;柊屋ひいらぎや甚四郎じんしろう、
別号;御射山みさやま翁/初世老桂窩ろうけいか/蛭牙斎しっがさい、法号;芳樹観宗茂居士
羅人の門弟; 羅院・羅江・波光など

螺睡翁(らすいおう) → *童竜*(どうりゅう;法諱・臥雲;道号、曹洞僧)Ｉ３１２６

B4842 **羅青**(らせい) ?- ? 伊勢俳人/雑俳;1692菊子「咲やこの花」前句付入
蘿生(らせい・星野) → *久樹*(ひさき・星野ほしの/藤原、藩士/歌人)Ｉ３７７６

B4843 **羅川**(らせん;号・姓名;山本文蔵)?-? 大坂貝屋町の俳人;蘆陰舎大魯門、
1773几董「明烏」1句/76「続明烏」2句/76樗良「月の夜」1句/83維駒「五車反古」1句入、
[白髪しらがにもならで戻るや鉾ほこの児ちご](あけ烏;222/祇園祭の児役を務め無事終えた)

B4844 **螺窓**(らそう・穂積ほづみ/深川、名;義親)?-1849 江後期江戸御徒町の俳人;6世湖十門、
其角座点者、1848沾山せんざん7世「俳諧觸はいかいけい」28点句入(鼠肝名)、永機[1823-1904]の父、

俳諧注釈書「俳諧みみな草」著(:1881息子永機により刊行;追福遺墨集)、
[螺窓(;号)の別号]鼠肝/老鼠肝/宝晋斎3世/其角堂6世
蘿窓(らそう・石橋)　→　*知空*(ちくう・石橋いしばし、国学/歌/出家)Ｍ２８０４
蘿窓主人(らそうしゅじん)　→　*雅直*(まさなお・木全きまた、商人/歌人)　Ｆ４０００
B4845 **羅蝶**(らちょう・栗田くりた、名;とら)?-?　松山酒造業廉屋の生;
樗堂(ちょどう[1749-1814]、栗田家入婿)の妻、俳人、夫に先に没
羅釣翁(らちょうおう)　→　*孝範*(たかのり・木戸、歌人)　Ｄ２６４５
辣庵(らつあん・巌村)　→　*南里*(なんり・巌村いわむら、儒者)　Ｊ３２６２
B4846 **洛下隠士**(らっかいんし)　?-　?　軍記作者;1716「鎌倉実記」著、
医者謙斎と同一説あり→ *謙斎*(けんさい・加藤[1669-1724])　Ｂ１８８２
洛下儒隠(らっかせついん)　→　*敬所*(けいしょ・猪飼いかい、儒者)　１８７３
落霞窓(らっかそう)　→　*柳居*(りゅうきょ・佐久間、麦阿、俳人)　Ｄ４９３３
落霞窓(2世らっかそう)　→　*鳥酔*(ちょうすい・白井、俳人)　２８２４
洛下陳人(らっかちんじん)　→　*房常*(ふさつね・速水/藤原、官人/故実家)Ｃ３８１８
洛下童(らっかどう)　→　*言水*(ごんすい・池西、俳人)　１９５４
B4847 **辣堂**(らつどう・篠沢しのざわ、良智の長男)?-1869　岩代二本松藩士/儒者:堀江惺斎門、篠沢久敬の孫、
和漢の経史に通ず、外出に赤い杖を携行;赤杖先生と称される、
「在五中将」「梶原景時論」「皇朝詠史百絶」「作楽花十律」著、
[辣堂(;号)の通称/別号/法号]通称;文輔、初号;梅園、法号;輝光院
B4848 **蘿亭**(らてい・竹田たけだ、名;定澄、春庵の長男)1694-1769*76* 儒(家学):父門/1725父継嗣;福岡藩儒、
1759致仕/1762藩主黒田継高の弟重政没により遺児の侍講として招聘;厚遇、
「新鶯集序」「盆石記」、1761「高屋天満宮記」著、
[蘿亭(;号)の字/通称/別号]字;取映、通称;貞之進、別号;新庵
B4849 **蘿道**(らどう・永田ながた、名;維馨)1756-1826*71*　伊勢安濃津の俳人:宗雨門/のち坐秋門、
七絃琴;藩士杉浦梅嶽門、1786(天明6)同門俳人林下の追善集「ゆきのつゑ」編、
[蘿道(;号)の字/通称/別号]字;子蘭、通称;千蔵/九兵衛、別号;点々斎/梅那ばいな
羅洞(らどう・林)　→　*羅山*(らざん・林はやし、幕府儒官祖;幕政)４８０２
羅堂(らどう・石田)　→　*五芳*(ごほう・石田いしだ、俳人)　Ｎ１９６４
B4850 **蘿父**(羅父らふ・神谷かみや、名;行伝)1736-80*45*　伊勢山田の俳人:樗良門、書・篆刻に長ず、
書画・古器を愛玩、1777「無涯庵旦暮帳」編、1773几董「明烏」1句/76樗良「月の夜」1句入、
[花戻り油断して見ぬうしろかな](月の夜;124/うしろには夕映えの桜が見えたはず)、
[蘿父(;号)の通称/別号]通称;一郎/四郎兵衛、別号;無涯庵/無涯堂
B4831 **羅浮**(らふ)　?-　?　江中期俳人、
1774美角「ゑぼし桶」1句/77江涯「仮日記」1句入、
[ましら男や菫すみれを畑はたに打ちかへし](仮日記;89)
羅浮(らふ・林)　→　*羅山*(らざん・林はやし、幕府儒官祖;幕政)４８０２
羅浮窓(らふそう)　→　*一之*(いっし・須田、医者/俳人)　Ｈ１１２３
B4851 **羅文**(らぶん・滝沢/本姓;源、滝沢[松沢]興義の長男)1759-98*40* 母;吉尾門右衛門女、馬琴の兄、
江戸深川の俳人:吾山門/1778旗本戸田下総守忠諏に出仕;85致仕、
のち旗本山口和泉守直良に出仕;要人となり直良の大坂城代引渡役就任により大阪随従、
1797「夢見艸」編、「両吟十歌仙」「師竹庵随筆」「師竹庵聞書」「続罔両談草稿」著、
[羅文(;号)の幼名/名/通称/別号]幼名;松沢左馬太郎、名;興旨、
通称;佐太郎/直次郎/台右衛門/大右衛門、別号;可楼/東岡舎
羅摩園主(らまえんしゅ)　→　*重恭*(しげたか・川崎、国学者)　Ｒ２１２３
羅門回(らもんかい)　→　*月尋*(げつじん・藤岡ふじおか、俳/歌/浮世草子)Ｂ１８０８
B4852 **蘿来**(ららい・時雨菴しぐれあん)?-1771(明和8/*30歳未満没*)　播磨竜野の俳人;青蘿門、
芭蕉の「初時雨の図」を所持、「反古塚の図」「四季発句遺稿」(春103・夏42・秋30・冬32);
以上を収集し1772追悼集「秋しぐれ」雨人編;樗良・雨人・蓼太ら俳人多数の追善句も入集
囉々哩(ららり)　→　*鬼貫*(おにつら・上島うえじま、俳人)　１４２４
羅綾堂(らりょうどう)　→　*五蘭*(ごらん・一亭、戯作者)　Ｎ１９８８

B4853 **蘭**(らん・羽山はやま、蘭子らんこ、羽山百竹軒の妻)?-?　江前期元禄1688-1704頃遠州の歌人、
「細江草」編(:夫の集録した当代詠歌を分類増補/大串元喜の序)、
夫の羽山百竹軒については不詳
[うちよする細江の波の清ければひろふ玉藻に光こそあれ](細江草;自序)

嵐(らん)	→	*嵐*(あらし、俳人)	Ｅ１０４８
嵐(らん・印南)	→	*博文*(ひろふみ・印南いんなみ、神職/教育)	Ｉ３７５６
瀾(らん・富永)	→	*滄浪*(そうろう・富永とみなが、儒者)	Ｄ２５２４
鸞(らん・山本)	→	*日下*(にっか・山本、儒者)	Ｄ３３７４
鸞(らん・谷)	→	*麋山*(びざん・谷たに、儒者/詩人)	３７０６
鸞(らん・大竹/岳)	→	*武陽*(ぶよう・大竹/岳、漢学/講説)	Ｅ３８５１
纜(らん・伴)	→	*常志*(つねゆき・伴ばん、廷臣)	Ｅ２９１７
蘭阿(らんあ・中臣[富]屋)	→	*正蔭*(おおかげ・中臣、歌人/狂歌)	Ｃ１４７５

B4854 **蘭阿坊**(らんあぼう;号、武山;法諱)1791-1854*64*　石見益田の医光寺住職/俳人:月下吟社の5世、
益田俳壇の中心、1843「道の春」編/52(嘉永5)「齢の華」編、
[蘭阿坊の別号]　百華崛

B4855 **嬾庵**(らんあん;道号・大淳だいじゅん;法諱、号;蘆雪)?-1781　曹洞僧:1736(元文元)圭立法璞[大梅]門、
1737信州竜泉院12世、信州光徳寺15世、1766能登総持寺輪住、「嬾菴大淳和尚詩集」著、
1766「総寺十六詠」、「蘆雪禅師語録」「蘆雪幻稿」著、1781「明菴禅師年譜」著、外編著多数、

懶安(らんあん;号)	→	*妙安*(みょうあん;法諱・惟高;道号、臨済僧/詩)	Ｇ４１０６
懶庵(らんあん・杉本)	→	*祐憲*(すけのり・杉本/平、儒詩/歌人)	Ｇ２３９４
嵐意(らんい;字)	→	*了清*(りょうせい;法諱・中川、真言僧/歌)	Ｍ４９４１
蘭陰堂(らんいんどう)	→	*元道*(げんどう・星野ほしの、藩士/医者)	Ｌ１８８７
蘭隠立(らんいんりつ)	→	*雪山*(せつざん・北島きたじま、書家/儒者)	Ｅ２４３７
懶雲(らんうん)	→	*玄昌*(げんしょう;法諱・文之、臨済僧/詩)	Ｃ１８１７
嬾雲(らんうん・中沢)	→	*鴻洲*(こうしゅう・中沢なかざわ、詩人/心学)	Ｊ１９５１
嬾雲僑居(らんうんきょうきょ)	→	*鴻洲*(こうしゅう・中沢なかざわ、詩人/心学)	Ｊ１９５１
嬾雲子(らんうんし)	→	*慧梵*(えぼん;法諱・竺源、臨済僧/歌)	１３８５
蘭栄(らんえい・山本)	→	*若麟*(じゃくりん・山本/河村、絵師)	Ｇ２１４１
蘭英斎(らんえいさい・浅山)	→	*蘆国*(あしくに・浅山,絵師)	Ｃ１０２８
蘭英斎(らんえいさい・吉田)	→	*洞谷*(とうこく・吉田よしだ、絵師)	Ｖ３１５５

B4856 **蘭畹**(らんえん・伊藤いとう、名;懐祖、梅宇3男)1727-88*62*　霞台の弟/家学(儒;古義学)を受ける、
叔父伊藤竹里門、兄霞台の跡を継承;備後福山藩の藩儒、「蘭畹遺稿」、
[蘭畹(;号)の字/別号]字;修佐、別号;図南、諡号;彰常先生

B4857 **蘭園**(らんえん・鈴木すずき/本姓;源、名;竜/字;子雲)1741-90*50*　京の医者/詩・音曲:琴に長ず、
音律の研究、1813「津呂辨説」、「琴学啓蒙」「津呂新書筆記」「津呂新書辨解」「素霊類聚」著、
「長沙用薬法」著

B4858 **蘭畹**(らんえん・樋口ひぐち、名;世禎、道堅2男)1753-1818*66*　周防岩国藩士1769小姓/銃卒長/納戸、
用人、樋口喜之の婿養子、1814萩府の館司、護岸・新田開発に功績/1817致仕、
「節倹録」(没後刊)/「節倹略」「理水路」著、
[蘭畹(;号)の字/通称/別号]字;祥卿、通称;祥左衛門、別号;滄浪軒、
法号;滄浪軒釈白鷗乗順居士

B4859 **蘭園**(蘭畹らんえん・増島ますじま/本姓;平/修姓;増、信道[灃水れいすい]男)1769-1839*71*　母;宮川政庸女、
江戸の生/儒(家学)を修学/程朱学;古賀精里門/1790昌丙黌に修学、幕臣;大御番、
儒官;1807昌平黌出役/1812家督継嗣;14御儒者/教授、経書研究、本草学;田村西湖門、
1787「仏法僧考」1805随筆「寯燕偶記けいえんぐうき」/1820「鴆志」22「小学纂説」、「易学啓蒙翼図」
「読易小言」「読左筆記」「贋書考」「燕窩考」「左伝質考」「櫧陰漫抄」「蘭園叢書」外著多数
[蘭園(;号)の名/字/通称/別号]名;信行/固、字;孟鞏、通称;金之丞、
別号;櫧陰しょいん/石原愚者/不俗庵主人/雲柯

B4860 **蘭畹**(らんえん・横山よこやま)1805-1863*59*　加賀金沢藩士横山政孝(1789-1836)の後妻、
1815先妻蘭蝶(詩人)没後に結婚/詩人:夫政孝に指導を受け生涯8百首に及ぶ、

江戸勤務の夫との唱和多し、画を嗜む、植物への関心深い、
1834「続香集」、「御庭牒」「芝草僊園聯吟」著、
[蘭畹(;号)の名/別号]名;栄、別号;静好閣、法号;松貞院

B4861 **藍園**(らんえん・堀口ほりぐち、枡蔵の長男)1818-91*74* 上州渋川の染物業;父継嗣/儒者:高橋蘭斎門、
歌;木暮賢樹門/詩;僧竹渓門、大沼枕山・蒲生精庵と交流、
関西で貫名海屋・橋本香坡と交流、帰郷後;子弟教育、維新時上野前橋藩鎮撫所総長に抜擢、
維新後;郷学教授/学区取締掛、のち金蘭吟社を設立;子弟教育、印刻を嗜む、
「源長卿集」「藍園詩鈔」著、
[藍園(;号)の幼名/名/字/通称/別号]幼名;藤吉、名;貞歙さだはる、字;長卿、
通称;五郎平/五郎兵衛、別号;蓼翁/嗜辛斎/野飯翁/菜田楼主人

B4862 **蘭畹**(らんえん・野中のなか、名;準/字;処平、重俊男)1831-88*58* 豊後大分郡戸次の儒者:帆足万里門、
1869臼杵の学館教授.のち大蔵省に出仕;大蔵権少書記官、「海防浅説」「楽耕園記」著

蘭園(らんえん・水野) → *忠邦*(ただくに・水野、天保改革/詩歌) Ｆ２６０５
蘭園(らんえん・杉田) → *恭卿*(きょうけい・杉田すぎた、蘭学者) Ｎ１６６２
蘭畹(らんえん・北島) → *雪山*(せつざん・北島きたじま、書家/儒者) Ｅ２４３７
蘭畹(らんえん・毛利) → *斉熙*(なりひろ・毛利、藩主/俗謡作) Ｉ３２０７
蘭畹(らんえん・大庭) → *松風*(しょうふう大庭おおば、商人/紀行文) Ｌ２２５０
蘭畹(らんえん・佐竹) → *重威*(しげのり・佐竹さたけ/中原、書博士/歌)Ｏ２１５３
藍園(らんえん・源/嶋) → *雅修*(がしゅう・源;本姓/嶋しま、絵師) Ｌ１５８５
藍園(らんえん・宮村) → *定満*(さだみつ・宮村みやむら、商家/国学者)Ｐ２０５４
蘭園主人(らんえんしゅじん;号)→ *成章*(なりあきら・富士谷、国学/歌) ３２２７
蘭翁(らんおう・佐藤) → *泰然*(たいぜん・佐藤さとう、蘭医者) Ｋ２６４８
蘭屋(らんおく・小石) → *中蔵*(ちゅうぞう・小石こいし、医者) Ｇ２８５９

B4863 **巒化**(らんか・高木たかぎ)1800 - 1880*81* 美濃の俳人:美濃派獅子門以哉系13世、
1850(嘉永3)「松の婦多見」編、
[巒化(;号)の別号]春秋庵/柿本舎/四海仙

懶窩(らんか) → *丈草*(じょうそう・内藤、俳人) ２２２５
蘭化(らんか・前野) → *良沢*(りょうたく・前野まえの/谷口、蘭学/医)Ｉ４９８１
蘭窩(らんか・吉田) → *竹嶺*(ちくれい・吉田、医/儒/歌人) Ｄ２８９６
蘭窩(らんか・河合) → *道臣*(ひろおみ・河合、家老/殖産/詩歌) Ｆ３７６１

B4864 **蘭雅**(らんが・林はやし/本姓;賀茂、名;有孚)1821-69*49* 京絵師/塔之壇桜木丁に住、「九重のはる」著、
[蘭雅(;号)の字/通称]字;之吉、通称;己之助/八左衛門

嵐臥(らんが) → *烏西*(うせゐうせい、俳人) Ｃ１２９２
蘭雅(らんが・山田) → *嘉猷*(えみち・山田、国学/歌人) Ｅ１３２７

C4839 **嵐海**(らんかい) ? - ? 江中期安藝広島蕉門系俳人;
1705支考「三日歌仙」06涼兎「潮とろみ」入

B4865 **嵐外**(らんがい・辻つじ/山本)1771-1845*75* 越前敦賀の呉服商、一鼠の甥、俳人:京の闌更門、
尾張の士朗門、士朗の勧めで1796-7頃甲斐の可都里門、商売を止め甲斐落合住;俳諧教授、
信濃諏訪でも教授、晩年は甲府柳町の六庵に住;超俗的風流三昧の生活、「嵐外発句集」著、
門弟;嵐外十哲ほか多数、甲斐の山八先生と称される、
[嵐外(;号)の名/通称/別号]名;政輔、通称;利三郎、
別号;五六/六庵/南無庵/北亭/椰野屋やしのや、法号;嵐外日哉居士

B4866 **藍涯**(らんがい・大島おおしま、贄川しせん男)1794-1853*60* 加賀金沢の儒者;昌平黌に修学;1822帰郷、
金沢藩校明倫堂助教、藩主前田斉泰の命で「四書匯参」「監本四書」「欽定四経」校刻に尽力、
1837「学校私考」50「入学生礼節条目」、「柴垣文草」著、大槻磐渓・山下直温なおはると３詩友、
[藍涯(;号)の名/字/通称/別号]名;桃年、字;景実、通称;清太、別号;柴垣/催詩楼

B4867 **蘭崖**(らんがい・堀ほり、医者養祐坊男)1796-1859*64* 加賀金沢藩士/書家、1817(文化14)金沢藩右筆、
詩・画を嗜む、佐藤衡斎・山納藍山の師、「蘭崖詩稿」、1853「風咏遊草」著、
[蘭崖(;号)の名/字/通称]名;雅、字;清雅、通称;文平

藍街(らんがい・太田) → *紫水*(しすい・太田おおた/源、医者) Ｔ２１９３

蘭豈南(らんがいなん)　→　*海僊*(かいせん・小田おだ、絵師)　Ｉ１５８５
蘭化翁(らんかおう)　→　*常牧*(じょうぼく・つねまき・半田/繁田/伴田、俳人)Ｂ２２６２
B4868 **蘭角**(らんかく)　？－　？　俳人、「御傘ごさん提要」;(貞徳「俳諧御傘」抜粋)
鸞岳(らんがく・松平)　→　*頼紀*(よりのり・松平/源、藩士/伝記)　Ｊ４７４５
蘭花軒(らんかけん)　→　*秀政*(ひでまさ・吉野よしの、神職/地誌)　Ｄ３７８１
蘭下照(らんかしょう)　→　*蘭下照*(あららぎのしたてる、狂歌)　Ｇ１０２５
B4869 **籃果亭拾栗**(らんかていじゅうりつ、姓;鴻池こうのいけ)?-? 大坂の豪商の一族、狂歌作者:栗柯亭木端門、
同門の富豪仙果亭嘉栗と競う、狂歌を旦那芸で通す;狂歌本を上梓せず住吉神社へ寄進、
1778「狂歌二見磯」編/85「組題草むすび」著、「狂歌百羽根掻」「狂歌百千鳥」著、
[籃果亭拾栗(;号)の通称] 長右衛門/十右衛門
爛柯堂(らんかどう)　→　*元美*(げんび・林はやし、棋士)　Ｍ１８１７
蘭化堂(らんかどう)　→　*常牧*(じょうぼく・半田/繁田/伴田、俳人)Ｂ２２６２
B4870 **蘭関**(らんかん)　？－　？　俳人、1697其角「末若葉うらわかば」独吟歌仙入
乱竿(らんかん・中村)　→　*風篁*(ふうこう・中村/藤原、俳人)　３８６１
藍関(らんかん・富永)　→　*謙斎*(けんさい・富永仲基なかもと、思想家)　Ｅ１８８３
欄干坊(らんかんぼう)　→　*南澗*(なんかん・佐藤、絵師)　Ｉ３２８１
B4871 **蘭妃**(らんき)　？－　？　近江の俳人;1691江水「元禄百人一句」目録入
蘭稀(らんき・山内)　→　*豊雍*(とよちか・山内やまのうち、藩主/歌)　Ｒ３１２６
B4872 **嵐牛**(らんぎゅう・伊藤いとう、名;**豊蔭**とよかげ)1798-1876*79* 遠江小笠郡山口の鍛冶職、
国学;1727(文政10)石川依平門/歌・国学を修学;語法・仮名遣に精通、
俳人:卓池門、1860「四時行」編/61「およひこし」編、
[嵐牛(;号)の通称/別号]通称;清左衛門、別号;柿園/白竜子/白童子/城国亭/
B4873 **懶牛**(らんぎゅう;道号・希融きゆう;法諱)?-1337　元の台州の臨済僧:1329明極楚俊に随行渡来、
渡来後も師の明極の常随;「明極みんき和尚語録」編纂、「滄海余波」編
欄牛(らんぎゅう;初法諱)　→　*道顕*(どうけん:法諱・隠之、曹洞僧)　Ｄ３１５６
藍渠(らんきょ・梶原)　→　*景惇*(かげあつ・梶原、商家/和漢学)　Ｂ１５８１
懶漁(らんぎょ・向井)　→　*元成*(げんせい・向井むかい、儒者/医/俳)　Ｅ１８２７
B4875 **藍橋**(らんきょう)　？－　？　大阪の俳人;1691賀子「蓮実」3句入、
[名月や歌の中山なかやま清閑寺せいかんじ](蓮実;328、
清水寺奥の歌中山[山号]清閑寺は月の名所;謡曲[田村]・[融]入)
B4876 **蘭峡**(らんきょう・小原おはら/本姓;源)1797-1854*58*　紀伊和歌山藩士/医学・本草;祖父桃洞門、
国学;本居大平門/漢学;山本楽所門、藩命を受け祖父の本草の業を完成させ遺稿整理をす、
1814「採薬巡覧記」著/1833・50「桃洞遺筆」編、38「金剛山採薬記」著・「採薬録」編、
「南紀土産考」「春七草考」「金石年表」「本草綱目啓蒙拾遺」著/外編著多数、
[蘭峡(;号)の名/通称/法号]名;**良直**よしなお、通称;八三郎、法号;自鏡院
鸞鏡子(らんきょうし)　→　*重慶*(じゅうけい・湯浅/西村、儒者)　Ｘ２１０５
B4877 **蘭嵎**(らんぐう・伊藤いとう、仁斎5男)1694-1778*85* 1705(12歳)父と死別;長兄東涯の訓育を受、
儒者;1731(享保16)紀伊和歌山藩儒、1736兄東涯没;古義堂を預る/兄の遺著を編刊、
甥東所を訓育、経学は訓詁を重んじ本文批評に長ず、書画を嗜む、
1717「明詩大観前編」編/32-33「金銀解支簿」35「書反正」46「大学是正」50「詩経古言」、
1772「詩古言」、「読礼記」「春秋聖旨」「蘭嵎詩稿類」「蘭嵎書画集」「蘭嵎自作自書詩」、
「蘭嵎書翰集」「蘭嵎文稿類」「蘭臭編」著、「蘭嵎先生書」書、外著多数、
[蘭嵎(;号)の名/字/別号]名;長堅、字;才蔵、別号;応曌おうてん/六有斎/抱膝斎、
諡号;紹明先生
蘭嵎(らんぐう・佐々木)　→　*中沢*(仲沢ちゅうたく・佐々木、蘭医者)　Ｇ２８６２
蘭薫斎(らんくんさい)　→　*法願*(ほうがん:法諱・智仙、真言律僧)　３９３６
B4878 **蘭薫亭薫**(らんくんていかおる、姓;間庭まにわ、間庭一郎左衛門義甫の長男)1790-1870*81* 信濃松代藩士、
父を継嗣、狂歌;石川雅望門、松代狂歌壇の中心亭存在、江戸で蜀山人(南畝)と交流、
十返舎一九・曲亭馬琴と交流、1824松代祇園祭に作った[ちよぼくれ]が藩主の怒に触る、
中国地方・尾張名古屋・江戸を放浪/1841赦免帰国、能書家、

1820「まさきのつな」24「佐久良鯛二編」編、
[蘭薫亭薫(;号)の名/字/通称/別号]名;義信/義祐、字;仲桓/子平、通称;平右衛門、
別号;伸垣/平安堂/金魚逸人/支那廼舎/酔夢翁/城東逸人、法号;蘭薫義裕居士
B4879 蘭渓(らんけい;道号・宗瑛そうえい;法諱)1570-1658*89* 近江臨済僧;天叔宗眼門;法嗣、
1608大徳寺152世、1635禅師号を受、「蘭渓和尚香録」、「大規綱宗禅師語録」著、
[蘭渓宗瑛の号] 忘茗子ぼうちょうし、大規綱宗禅師
B4880 蘭桂(らんけい・松村まつむら、別号;泉郎)?-? 江中期大阪の俳人;天神橋筋住/鍛冶屋町筋長堀住、
前句付点業:笠付が多い、来山・才麿・伴自・海音らとならび点業、1723「菊の砌」編、
1709「三国市」評入、「大福寿覚帳」評入、1716-36「富士の高根」段々付入/18波天「万石船」入
B4881 鸞渓(らんけい・中村なかむら、名;徳勝、藩医中村友松男)1712-90*79* 近江大溝藩の儒者;安原霖寰門、
1729師と共に上京;伊藤東涯の古義堂入門、1739招聘され大溝藩儒;世子分部光実の傅、
1785文芸奉行/藩校修身堂創設;その教官、「鸞渓詩文集」、
[鸞渓(;号)の字/通称/別号]字;士建/子建、通称;弥作、別号;孳々斎しじさい、諡号;慎徳府君
B4882 藍渓(らんけい・広津ひろつ、弘道男)1709-94*86* 筑後上妻郡福島村の農家の生、
儒者;筑後久留米藩儒合原窓南門/のち師の江戸出府に随行;服部南郭門、
1728(20歳)福島組大庄屋松延家の推挙で惣代とし組会所勤務、天明1781-89頃徒士に登用、
藩士子弟教育に参加/1785講席の開設に尽力/中小姓に昇進/修道館(講席の改称)の講師、
馬田柳浪の父、「論語問」「読書論」/1784「豊公逸事録」著、
[藍渓(;号)の名/字/通称]名;弘恒/省、字;有修、通称;善蔵
B4883 蘭渓(らんけい・久方ひさかた、名;定明/通称;忠衛門)1721-85*65* 常陸水戸藩士;1744進士、松岡の郡宰、
「久方蘭渓見聞録」「舟田流軍覚書」/1762「松岡郡鑑」著
B4884 蘭渓(らんけい・白木しらき、名;因宗/字;元陵)?-1784 讃岐丸亀藩儒:藩儒三田蘭室門;経史を修学、
1769「詩山伐木編」著
B4885 蘭渓(らんけい・内海うつみ、名;道永)1739-1819*81* 筑前の薬屋:本草研究;薬園を開設、
1800薬園を藩の官園とし薬園掛として3人扶持を得る、
「本草正画譜」「本草手びき」「本草いろは」「要秘録」著、
[蘭渓(;号)の通称/屋号]通称;仁右衛門/善兵衛、屋号;鞍屋
D4833 蘭桂(らんけい;道号・正香しょうこう;法諱)1743-1823*81* 京の黄檗僧;
1750(8歳)京釜座二条北の医徳堂の湛江衍原門;出家/1766嗣法、
1774(安永3)京釜座の医徳堂3世/書家、「光明真言功徳鈔」著/「湛江和尚語録」編、
[蘭桂正香の初名/号]初道号;隻箭/了渓/蘭渓、初法諱;如直、号;松坡
B4886 蘭渓(らんけい・三宅みやけ/初姓;善ぜん)?-? 江戸中期摂津西宮の儒者/大坂南本町三丁目住、
講説業/詩人、1774(安永3)「草訣百韻国字解」著、
[蘭渓(;号)の名/字]名;尚雅、字;公美/春卿
B4887 蘭渓(らんけい・西島にしじま/旧姓;下条)1780-1852*73* 江戸の儒者:林述斎・西島柳谷門/柳谷の養子、
芝西久保で子弟教育、詩学に通ず/能書、1801「己巳春吟」編/07「西嶋柳谷蘭渓自筆書」著、
1810「尚書考」28「坤斎日抄」44「読孟叢鈔」47「慎夏漫筆」「晏子春秋考」、
「孜々斎筆記」「孜々斎詩話」「孜々斎吟稿」「弊箒詩話」「蘭渓先生詩集」著/外編著多数、
[蘭渓(;号)の名/字/通称/別号]名;長孫、字;元齢、通称;良佐、別号;坤斎/孜々斎ししさい、
法号;広誉勤憲蘭渓居士、諡号;勤憲先生
B4888 蘭渓(らんけい・西門にしかど、蘭庵男/蘭斎の孫)1786-1845*60* 越前勝山藩主小笠原家侍医、
歌人;清水浜臣門、1832「三世随筆」編/32「菱実紀聞」40「万葉草木考」45「西門家訓百首」著、
「西門蘭渓詠史五十首」著、歌;1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、
[きさすらも妹がかみにはひかるるを思ふおもひや綱となりけん]、
(大江戸倭歌:恋1592、きさ;象の古名/女の髪の毛には大象もつながる;諺)、
[蘭渓(;号)の名/別号]名;嘉猷よしのり、別号;丿乀主人へつぽつしゅじん
B4889 蘭渓(らんけい・重田しげた、名;正為/字;玄恭/玄泰)?-? 天保嘉永1830-54頃江戸神田白壁町住、
儒者/医者、画も嗜む、1850(嘉永3)「論語略解」54「四書略解」著
B4890 蘭渓(らんけい・伊藤いとう、名;重遠、東峯男)1845-72早世*28* 儒(家学):父門、東所の孫、
1860「随得雑録」、「古義堂席上記」「随得手録」「史記備忘」「清嘯軒詩抄」著、

「丙寅桂秋念三日古義堂席詩」編、
[蘭渓(;号)の字/別号]字;亀之助、別号;清嘯軒
蘭渓(らんけい;道号、大覚禅師)→*道隆*(どうりゅう;法諱・蘭渓・臨済僧)３１２８
蘭渓(らんけい・河村)　→　*若芝*(じゃくし・河村かわむら、絵師/工芸)　Ｇ２１１５
蘭渓(らんけい・富小路)　→　*貞直*(さだなお・富小路/藤原/伏原、廷臣/歌)Ｃ２０１４
蘭渓(らんけい;道号)　→　*蘭桂*(らんけい;道号・正香しょうこう;法諱、黄檗僧)Ｄ４８３３
蘭渓(らんけい;号))　→　*慈珉*(じみん;法諱、僧/歌人)　Ｏ２１７２
蘭渓(らんけい・上代)　→　*敏政*(としまさ・上代かみしろ、歌人)　Ｕ３１８１
蘭谿(らんけい・松平)　→　*宗矩*(むねのり・松平まつだいら、藩主/学問)　Ｃ４２２２
蘭蕙(らんけい・南みなみ)　→　*篤老*(とくろう・飯田、医/俳人)　Ｌ３１６２
蘭桂(らんけい・渡辺)　→　*直*(なおし・渡辺、藩国老/歌)　Ｂ３２２６
蘭馨(らんけい・吉田)　→　*長淑*(ちょうしゅく・吉田/馬場、成徳/蘭医)Ｆ２８９６
蘭卿(らんけい・佐羽)　→　*淡斎*(たんさい・佐羽さば、商家/詩人)　Ｉ２６１６
藍渓(らんけい・多紀)　→　*元徳*(もとのり・多紀たき/丹波、幕臣/奥医)Ｄ４４８３
巒渓(らんけい;法名)　→　*公城*(きんむら・徳大寺、廷臣/記録)　Ｒ１６８６
鑾渓(らんけい・筒井)　→　*政憲*(まさのり・筒井/久世、幕臣/海防)　Ｇ４０１０
鸞卿(らんけい・内山)　→　*眞弓*(まゆみ・内山うちやま、歌人)　４０３３
藍渓釣徒(らんけいちょうと)　→　*竹田*(ちくでん・田能村、儒/絵師/詩人)　Ｄ２８５４
B4891 **蘭渓亭泉**(らんけいていいずみ、姓;田中)?-?　信州松代藩士の家の生、
信州更級郡稲荷山の田中家の養子、狂歌:石川雅望門、1818頃判者、蘭薫亭社中、
1820「狂歌」編/26「新撰水薦集」著、
[蘭渓亭泉(;号)の名/字/通称/別号]名;泉、字;雅古、通称;米屋太右衛門、別号;半斎
蘭慶堂(らんけいどう)　→　*直武*(なおたけ・小田野おだの、絵師)　Ｂ３２５２
B4892 **蘭月**(闌月らんげつ)　?-?　越後新潟の俳人;1690言水「新撰都曲」3句入、
1691似船「勢多長橋」入/91賀子「蓮実」1句入、1692常牧「冬ごもり」湖主との両吟歌仙入、
[春日野かすがのは大仏若きことしかな](蓮実;138、
大仏の釿始は1688[貞享5]年-開眼は1692[元禄5]年/1691年は未完成;完成予測の句か)
B4893 **蘭軒**(らんけん・伊沢いさわ、信階の長男)1777-1829*53*　江戸医者;父門/儒;泉豊洲門;経学修学、詩人、
父の跡継嗣;備後福山藩医、1806長崎奉行曲淵景路に随い長崎遊学/07江戸に帰る、
菅茶山と交遊、「簡斎文集」「簡斎随筆」「簡斎漫録」「簡斎要方」「春山路」「葌斎詩集」、
「医方干支」「青嚢括要」「蘭軒医談」「蘭軒文草」「市隠詩集」「長崎紀行」外著多/「蘭軒遺稿」、
[蘭軒(;号)の名/字/通称/別号]名;力信/信恬のぶさだ、字;君悌/憺甫、通称;辞安、
別号;簡斎/蕑斎/葌斎かんさい/都梁/笑僊/藐姑射山人はこやさんじん/酌源堂/三養堂/芳桜書院、
法号;芳桜軒、妻;飯田休庵女
息子;榛軒/常三郎/柏軒
蘭軒(らんけん・木梨)　→　*玄貞*(げんてい・木梨きなし、藩士/医者)　Ｌ１８５３
懶囝子(らんけんし;号)　→　*円位*(えんい;法諱・仲方、臨済僧)　１３８７
B4894 **嵐虎**(らんこ)　?-?　俳人;1691「猿蓑」入、
[春雨や屋根の小草をぐさに花咲きぬ](猿蓑;巻四)
B4896 **巒古**(らんこ・高木たかぎ、百花坊/百茶坊/細竹廬、名;重助)?-?　江中期;美濃政田の庄屋、
俳人:美濃派6世道統大野傘狂門、傘狂の命で2度(1782・86)筑紫の旅;美濃派拡大に尽力、
2度目筑紫の旅は長門滞在の菊舎尼と同行、
1782「桜のゆるし」86「月のたひ寐」編、「旅のゆるし」著
B4897 **蘭袴**(らんこ)　?-?　俳人,
1797(寛政9)撰集「妖怪百物語」編(野逸跋/妖怪を詠込んだ編者独吟歌仙以下四季分類)
蘭古(らんこ・外山翁/岡本)→　*ばく*(・松田、雑俳/洒本/浄作)
蘭子(らんこ・羽山)　→　*蘭*(らん・羽山はやま、歌人/私撰集編)　Ｂ４８５３
蘭子(らんこ)　→　*蘭子*(らんし、俳人)　Ｃ４８３７
B4898 **蘭皐**(らんこう・木下きのした/本姓;豊臣/修姓;木)1681-1752*72*　尾張漢学者;岡島冠山門:華音を修学、
江戸で荻生徂徠門、1700尾張藩に出仕;御歩行・賄頭・奥番/1751幕奉行/祭酒、釈奠を復興、

「虎渓記」「玉壺吟草」「壺中放吟」「往還日記」「呉下旧聞」「星軺余轟せいようよごう」著、
1720「客館璀粲さいさん集」編/38「難波土産」編、39「玉壺詩稿」/42「厚覧草拾遺」著、
「蘭皐遺文」、山県周南・太宰春台と徂徠同門、希元の父、
[蘭皐(;号)の名/字/通称/別号]名;実聞/達夫、字;公達/希声、通称;喜蔵/宇左衛門、
別号;玉壺山人

B4899 **蘭皐**(らんこう・荒木あらき、富永芳春4男)1717-67*51* 大阪の儒者;幼時に懐徳堂入、富永仲基の弟、
摂津池田の荒木適翁の養子、懐徳堂で儒詩:三宅石庵・中井甃庵門/のち田中桐江門、
自ら詩社如蘭社を設立;後進を指導、梁田蛻巌ぜいがん・山県周南と交流、笛を嗜む、
1741「樵漁余適」編、1742「蘭陵先生遺稿」編/序、
詩集「鶏肋集」(1777息子李谿りけい・梅間編刊)、妻;以松(勝/68歳没)、
[蘭皐(;号)の名/字/通称/別号]名;鉄/定堅、字;子剛、通称;吉右衛門、別号;鉄斎/如竹居
法号;直誉雲外如竹居士、

C4800 **蘭皐**(らんこう・緒方おがた)1717?-1760?(*44歳没*) 岩代桑折の医者/儒者;護園けんえん派、
「太平聖恵方纂要」編/「蘭園薬断」「蘭園余稿」著、
[蘭皐(;号)の名/字/別号]名;修、字;叔明、別号;文靖/好古庵

C4801 **蘭香**(らんこう・吉田よしだ、名;兼貞/別号;東牛斎)1725-99*75* 備後福山藩士;江戸詰、
狩野派絵師:狩野栄川門、阿部正倫に出仕;1783(天明3)御用絵師、絵師吉田家初世、
1780川柳「川傍柳かわぞいやなぎ」画、83南畝狂歌「めでた百首夷歌えびすうた」画、
1783「絵本綺麗扇」画、法号;盛雲院

4803 **蘭更**(らんこう・高桑たかくわ、名;正保/忠保)1726-98*73* 加賀金沢商家釣瓶屋の生、俳人:暮柳舎希因門、
金沢に李桃亭・狐狸窟営む、浅野川畔に二夜庵を結庵、家職を捨て誹諧師、画;池大雅門、
妻;得終尼、東国・北陸・江戸を行脚/蕉風復古運動;1783上京;東山双林寺に南無庵結庵;
芭蕉堂と称し花供養、京俳壇の中心的存在、1793二条家の花の本宗匠の号を受、
1763「花の故事ふるごと」69「有の儘」75「蓬莱嶋よもぎじま」85「誹諧世説」編、1786-98「花供養」編、
1787「半化坊発句集」94「もの光」94「冬の日解」97「月の会」編、「によぽり集」外多数、
追善集;「おしてる月」1周忌「三日の光」7周忌「もものやどり」外、蒼虬・梅室・何丸らの師、
[正月や三日過れば人古し](半化坊発句集/新鮮さは三日まで;四日目からは元通り)、
[荵しのぶ釣る軒に寄り添ふ女かな](半化坊発句集)、
[蘭更(;号)の通称/別号]通称;釣瓶屋長治郎、
別号;蘭皐(初号)・李桃亭・狐狸窟・二夜庵・半化はんげ坊[房]・南無庵・芭蕉堂

C4802 **嵐甲**(らんこう) ? - ? 俳人;几董門、1773几董「明烏」6句入(内5句は歌仙)、
1774美角「ゑぼし桶」3句/76「続明烏」4句入、
[異国ことくにの僧もおはして蓮見哉](あけ烏;115/夏早朝の詠)

C4803 **蘭江**(らんこう・小沢おざわ)1755- 1787*33* 江中期和算家:大場南湖門/のち山路徳風門、
1781(天明元)常陸水戸彰考館史生、1777「算法指南」86「宋元嘉暦見行草」著、
「算籌百好術」「蘭江随筆」著、
[蘭江(;号)の名/字/通称]名;政敏、字;叔道/叔通よしみち、通称;多門

C4804 **藍江**(らんこう・中井なかい、名;直)1766-1830*65* 大阪の絵師;蔀関月門/大坂伏見町心斎橋東に住、
門弟指導、詩文;中井竹山門/茶道も嗜む、1804石田「播磨名所巡覧図会」画、
1808「かはころもの記」10「遊女五十人一首人」12「東のつと」画、
[藍江(;号)の字/通称/別号]字;伯養/子養、通称;養蔵/養三、別号;師古

C4805 **鑾江**(らんこう・斎藤さいとう、名;象、藤右衛門永昌男)1785-1848*64* 阿波徳島の商家の生、
儒者:那波網川門/のち江戸の昌平黌修学;古賀精里・侗庵門、兄没のため帰郷家業を復す、
家業を兄の遺児に還し大坂住;講説/著述に専念、「帰鋏録」「五経志疑」「荘子文評」、
「唐詩発揮」「唐宋八大家文法」「明清六家文法」「四書叙旨」「国語評」「鑾江文集」著、
[鑾江(;号)の字/通称]字;世教、通称;五郎

C4806 **蘭香**(らんこう・大田おおた、名;晋/字;景昭、大田錦城女)1798-1856*59* 幼少より家学(儒)を修学/詩人、
書画にも長ず、古筆了伴と結婚;のち離別し尼となる、父の金沢移住に随う、「蘭香詩輯」著

C4807 **藍香**(らんこう・尾高おだか、名;惇忠、保高男)1830-1901*72* 母;渋沢宗助女、武州榛沢郡八基村の生、
榛沢郡の里正(名主);1861(文久元)父を継嗣、水戸学に心酔;攘夷論を主唱;勤王家、

1864岡部藩に下獄/1865赦免後;彰義隊入隊/振武軍を起こす;敗戦後帰郷、
のち静岡藩勧業属吏・民部省官業大属・富岡製糸場長を歴任、致仕後に秋蚕製法を広める、
又従弟の渋沢栄一と共に銀行・製藍・植林など実業に従事、
1858「巡信紀詩」、「藍作指要」外著多数、
[藍香(;号)の字/通称/別号/変名/法号]字;子行、通称;新五郎、別号;藍叟、
変名;榛沢六郎、法号;藍香院

藍江(らんこう・山田) → *常典*(つねのり・山田/平井、国学/歌人) D２９２０
藍向(らんこう・長井) → *雅楽*(うた・長井ながい、藩士/開国論) D１２００
嵐香(らんこう・布能) → *文谷*(ぶんこく・布能ふの、酒造業/俳人) F３８２４
蘭皐(らんこう;号) → *蝦芸*(かげい・含山軒、性徳、真宗僧/俳) K１５７６
蘭皐(らんこう・吉田) → *清純*(きよすみ・吉田よしだ、藩士/地誌) P１６７１
蘭皐(らんこう・水野) → *丹解*(たんげ・水野みずの、藩士/軍学者) T２６３１
蘭皐(らんこう・前田) → *慶寧*(よしやす・前田まえだ/藤原、藩主/歌) H４７８５
蘭皐(らんこう・松平) → *頼起*(よりおき・松平らっだいら、藩主/和学) P４７１８
蘭皐(らんこう・井出) → *道貞*(みちさだ・井出いで、神職/史家) L４１１６
蘭皐(らんこう・本木) → *良永*(りょうえい・本木もとき/西、通詞/翻訳) G４９４７
蘭皐(らんこう・大川) → *鷺彦*(さぎひこ・大川おおかわ、歌人) O２０１１
蘭皐(らんこう・木村) → *世粲*(つぐあき・木村きむら、医者/国学) F２９５９
蘭皐(らんこう・杉本) → *良承*(よしつぐ・杉本すぎもと、藩士/国学) N４７４７
蘭考(らんこう・長谷川) → *貞信*(初世さだのぶ・長谷川はせがわ、絵師) F２０４３
嵐行斎(らんこうさい) → *兼説*(けんせつ・猪苗代、連歌師) C１８４７
蘭香亭(らんこうてい) → *録山*(ろくざん・松田/源、銅版画師) ５２８６
蘭皐堂(らんこうどう) → *図南*(となん・端山はやま、書家) O３１６０

C4808 **蘭谷**(らんこく・松崎まつざき、名;祐之、正俊男)1674-1735*62* 父は山城伏見の眼科医法橋、
儒者;伊藤仁斎門、1692丹波篠山藩主松平信庸の招聘され篠山藩士;侍史兼侍講、
藩主信庸が京都所司代就任;歴代皇陵調査の幕命を受け蘭谷が文献調査・実地踏査活動、
1714信庸が老中に就任;江戸に随従し政務・学問を補佐、能書家で古篆に精通/文章に長ず、
新井白石らと興福寺宝蔵を調査;朱印を解読し韓使来聘時の応答文章を作成、本草を修学、
伊藤東涯・稲生若水と親交、「蘭谷集」「篠山志」「鎔冶漫筆」「鏡袋」「刀袋」「唐詩河海」、
「山陰雑筆」「琵湖雅集」/1722「五教大意諺解」27「五倫大意諺解」28「太平開承録」外著多数、
[蘭谷(;号)の字/通称/別号]字;士慶、通称;多助、別号;甘白/梅処

C4809 **蘭谷**(らんこく・三田村みたむら/本姓;藤原、栗所男)1787-1855*69* 越前の儒者/詩文、
「巣雲詩稿」「巣雲文稿」著、
[蘭谷(;号)の名/字/通称/別号]名;吉明/璠、字;伯璵はくよ、通称;長門大掾、
別号;巣雲/一水、法号;易往院

蘭谷(らんこく・阿部) → *正方*(まさかた・阿部あべ、賢明な藩主) C４００２
蘭谷(らんこく・井伊) → *直容*(なおなり・井伊いい/藤原、国学) K３２９７
蘭谷(らんこく・黒谷) → *時敏*(ときとし・黒谷くろたに、藩士/国学) V３１１１
藍谷(らんこく・竹鼻) → *正修*(まさなが・竹鼻たけはな、藩家老/歌人) P４０４９

C4810 **嵐蓑**(らんさ) ?- ? 尾張の俳人;1689「あら野」1句入、
[うたたねに火燵こたつ消えたる別れ哉](あら野;巻七/恋の夢も寒さで目覚める、
小野小町;うたたねに恋しき人を見てしより夢てふものは頼みそめてき)

4808 **懶斎**(蘭斎らんさい・藤井ふじい、讃岐高松真行寺住職了現男)1617-1705*88歳*(一説1709没*93歳*)、
医;岡本玄冶門、儒:山崎闇斎門、筑後久留米藩に招聘;藩医(眞名部仲庵名)、
傍ら儒・国学・歌を講ず、1674致仕/医を止め京鳴滝に隠棲、中村惕斎・米川操軒と交流、
1684「本朝孝子伝」/87「仮名本朝孝子伝」「国朝諫諍録」/88「徒然草摘議」著、
「蔵笥百首」「竹馬歌」「常磐木」「女漫宝操鑑」「婦人養草」「睡余録」「東武再往日記」著、
「大和為善録」「和漢太平広記」外著多数、
[懶斎(;号)の初通称/名/字/別号]初通称(医者);眞名部仲庵(真辺/真鍋、忠庵)、
名;臧おさむ/玄逸、字;季廉、別号;伊蒿子いこうし/よもぎが杣人

C4811 **懶斎**(らんさい・満田みつだ、名;古文)?-?1681頃没　江前期;大和郡山藩士/儒者:林羅山門、
1718「儒林詩草」(:4冊)編、
[懶斎(;名)の字/通称]　字;意林、通称;亀蔵

C4812 **蘭斎**(らんさい・清水/赤県あかがた)?- ?　江前期俳人;
1692斉藤如泉にょせん編「摺火打すりひうち」の凡例を書く(実際の編纂者か?);
俳席便覧用に利用され版を重ねる

C4813 **蘭斎**(らんさい・金こん/きん、名;徳隣/玄固、藩医金こん三室男)1654-1731*78* 秋田の医者/1670上京;
伊勢梅軒・西山季斎門、儒/古義学:伊藤仁斎門、一時帰郷し医業/のち老荘学者;京で講説、
詩歌、「老荘経国字解」「老子俚解」「異学篇」「退隠草」「教訓春日和」、逸話が「近世畸人伝」入、
[蘭斎の字/通称/別号]字;江長/三允、通称;忠佑、別号;臥雲叟/洛山逸民

C4814 **蘭斎**(らんさい・岡本おかもと、良安、一楽?)1678-1762*85* 浄瑠璃作者:近松弟為竹の養子、
「竹豊故事」著?
浪速散人一楽と同一か? →　一楽(いちらく、浪速散人、浄瑠璃研究)Ｂ１１２７

C4815 **蘭斎**(らんさい・田中たなか、名:信義)1714-1875*62*　出羽庄内藩士/書家;独自の書風を確立、
長坂泰治と共に庄内唐様書道の祖、「筆のすさみ抄」「武芸総論」「珪徳公御入部」外著多数、
[蘭斎(;号)の字/通称/別号]字;懶修らんしゅう、通称;古助/新兵衛、
別号;慎斎/孟永/竜甫/逍遥庵

C4816 **蘭斎**(らんさい・伊藤いとう、道政男)1728-76*49*　上州厩橋の儒者;厩橋藩主酒井家の家臣;父継嗣、
1749(寛延2)酒井忠恭の播磨姫路転封に随い姫路住/藩校好古堂の教授/1773侍講、詩人、
「韓館筆話」「周易伝義国字解」/1767「蘭斎先生一日百首詩稿」著、
「蘭斎先生遺稿」(没後;姫路藩士鳥山時驕ときなが1777刊)、
[蘭斎(;号)の幼名/名/字/通称]幼名;亀之助、名;仲導、字;環夫、通称;庄助

C4817 **蘭斎**(らんさい・森もり、名;文祥)1731-1801*71*　越後新井の医者/大阪に住/のち江戸に住、
画:肥前長崎で熊斐[繍江]門:沈南蘋の画風を修学/絵師となる;花鳥画に長ず、
江戸で加賀金沢藩江戸藩邸お抱え絵師となる;禄2百石、
1782「蘭斎画譜」1801「蘭斎画譜後篇」、「竜虎の図」「三国武人の図」画、
[蘭斎(;号)の字/別号]字;九江/子禎、別号;鳴鶴

C4818 **蘭斎**(らんさい・江馬えま、彫師鷲見すみ荘蔵の長男)1747-1838長寿*92* 書;美濃大垣藩医江馬元澄門;、
その縁で江馬元澄(初世春齢)の養嗣子/医を修学;大垣藩医となる、
のち江戸で杉田玄白・前野良沢門;蘭医方を修学、帰郷後;医開業・蘭学の好蘭堂を開塾、
西本願寺法王の治療に功績;以後患者・門人が急増、1806「医事或問答話」著/「五液診法」訳、
「泰西医典」「水腫全書」「本草千種」「本草問答録」「医事茶話」「好蘭斎漫筆」著、外訳著多数、
[蘭斎(;号)の幼名/名/通称/別号]幼名;庄次郎、名;元恭(;初名)/春琢、通称;春齢2世、
別号;好蘭斎、　養嗣子;松斎(春齢3世)、
長女細香は詩人 →　*細香*(さいこう・江馬鳳たお、湘夢)　２０７５

C4819 **蘭斎**(らんさい・山崎やまざき、名;長卿/通称;右門)?-? 1772存　江中期明和1664-72頃大阪の儒者、
大坂薩摩堀の広教寺長屋の住民、1770(明和7)「古文錦詞」「孝経児訓」「大成五経字引」著、
1770「博物筌」著、72「唐土名妓伝」訳、「板橋雑記」訳
1772余懐「板橋ばんきょう雑記」訳;洒落本の源流

C4820 **蘭斎**(らんさい・賀川かがわ/本姓;源、有斎男)1771?-1833*63?* 京の医者/御産医師、1815典薬寮医師、
1816女医博士/摂津介/1833(天保4)正六下;没、「産科紀聞」「産科議要」「産科口授」、
「産科秘要」「産科外術秘要」「産科外伝」「生生堂叢書」「賀川家許可秘要」外著多数、
元悦の孫、蘭台の父、
[蘭斎(;号)の名/字]名;満定、字;子清

C4821 **蘭斎**(らんさい・熊坂くまさか、伝右衛門男)1799-1875*77*　岩代伊達郡保原の医者;諸国遊歴し医を修学、
長崎で眼科・蘭学を修学、1852蝦夷松前藩に出仕、画;花鳥山水画に長ず、適山(絵師)の弟、
「英吉利文話書」「マートシカッペイ語法書」著/1854「竹石帖」「珠礫画譜」画、
1854「山水四君子花鳥名画類聚」/58「山水唐画指南」著、
[蘭斎(;号)の名/通称]名;建/健/助嘉、通称;主計かずえ

C4822 **蘭斎**(らんさい・宇野うの、名;広生/通称;儀平)?-?　江後期;文政1818-30頃京の蘭医:小森桃塢門、

1825「アンゲリヤ経験方」「西医知要」訳

C4823 **蘭斎**(らんさい・立花たちばな、藩主立花鑑寿あきひさの長男)1801-3131 筑後柳川藩儒者;江戸藩邸で育つ、
出生以前に鑑賢が養嗣子となっていたので家督相続はなし、儒;黒川雪堂門/書;関克明門、
西原一甫(藩留守居役)の影響で考証学的研究/1821柳川に帰国;安東節庵・牧園茅山門、
武藤陳亮と交流、「雅俗雑集」「太平談話」「永夜物語」「蘭斎閑娯」「蘭斎自集」著、
鑑寛あきとも(柳川藩主)の父、
[蘭斎(;号)の幼名/名/通称/別号]幼名;淳次郎、名;寿淑/寿俶、通称;右京、
別号;鶴舞堂/洗心庵/居業楼主人、法号;智得院

C4824 **蘭斎**(らんさい・吉木よしき、藩医吉木陶伯男)1818-5942 石見津和野藩の医者/父門;漢方医学を修学、
江戸に遊学/坪井信道門;蘭学・西洋医学を修学、下総佐倉の手塚律蔵門;洋学を修学、
長門萩の青木周弼門;蘭医学修学/のち肥前長崎のシーボルト鳴滝塾に蘭医学修学、
1849(嘉永2)津和野藩校養老館の蘭医館創設に当り教授に就任、
オランダ人医師モーニッケによる牛痘接種の成功を知り長崎に赴き施術を修得、
1856(安政3)養老館で実施、家塾を開設;蘭学を教授、
「牛痘論」「西学入門」「和蘭脈論」著

C4825 **藍斎**(らんさい・宮杜みやもり、名;文暢/暢)?-? 江後期陸中盛岡の医者/儒・詩に長ず、
「詠詩二十四韵」著、
[藍斎(;号)の通称/別号]通称;寿庵、別号;貴山

嵐斎(らんさい:号)	→	*江心*(こうしん;道号・承董:法諱、臨済僧/聯句)	Ｊ１９８９
藍斎(らんさい・清水)	→	*赤城*(せきじょう・清水しみず、兵学者/随筆)	Ｄ２４５７
懶斎(らんさい:号)	→	*鉄山*(てつざん;道号・宗鈍;法諱、臨済僧)	Ｃ３０３４
瀾哉(らんさい・梁田)	→	*象水*(しょうすい・梁田やなだ、藩儒/詩人)	Ｔ２２６６
蘭斎(らんさい・葛飾)	→	*北嵩*(ほくすう・葛飾かつしか/島、絵師)	Ｄ３９５１
蘭斎(らんさい・毛利)	→	*斉熙*(なりひろ・毛利、藩主/俗謡作)	Ｉ３２０７
蘭斎(らんさい・毛利)	→	*元義*(もとよし・毛利/大江、藩主/詩人)	Ｅ４４７３
蘭斎(らんさい・山名)	→	*政胤*(まさたね・山名やまな、国学者)	Ｔ４０５１
蘭斎(らんさい・岸)	→	*岸駒*(がんく;通称、絵師)	Ｇ１５２３
蘭斎(らんさい・小石)	→	*元瑞*(げんずい・小石こいし、医者/詩文)	Ｅ１８２２
蘭斎(らんさい・松平)	→	*康保*(やすもち・松平まつだいら、幕臣/歌人)	Ｄ４５２３
蘭斎(らんさい・大須賀)	→	*皎斎*(こうさい・大須賀おおすが、商家/絵師)	Ｉ１９９６
蘭斎(らんさい・大槻)	→	*俊斎*(しゅんさい・大槻おおつき、蘭方医)	Ｋ２１７１
蘭斎(らんさい・座光寺)	→	*為巳*(ためみ・座光寺ざこうじ/石尾、領主/歌人)	Ｘ２６２６
蘭斎(らんさい・青木)	→	*峯行*(みねゆき・青木あおき、藩医/国学)	Ｈ４１９９
蘭斎(らんさい・長沼)	→	*安定*(やすさだ・長沼ながぬま、和算家)	Ｂ４５５０
鸞斎(らんさい・佐竹)	→	*義茂*(よししげ・佐竹さたけ、藩士/詩文)	Ｄ４７６３
蘭斎堂(らんさいどう)	→	*蘭室*(らんしつ・神保じんぼ、藩士・漢学者)	Ｃ４８４５

C4826 **蘭山**(らんざん:道号・道昶どうちょう:法諱、号;界天)?-1756 京の曹洞僧:呉雲法曇門;法嗣、
江戸下向;徳川光圀に出仕、のち心越興儔門;嗣法、1700(元禄13)水戸天徳寺(祇園寺)3世、
光圀の命で「洪式聚分韻」を撰、常陸天聖寺の開山、「東皐呉雲禅師語録」編、
1707「和三籟集」21「大智偈頌和韻」著、「和江湖集」「具戒尺名」著

C4827 **嵐山**(蘭山らんざん、別号;竹護/竹護窓)?-1773 江戸の俳人、1702松葉軒「あかゑぼし」巻末入、
1772上洛;雅因の宛在楼に寄寓/病臥;蕪村・樗良ら見舞い四吟歌仙(「此ほとり」蕪村序)、
1772几董「其の雪影」15句入(四吟歌仙入)、1773几董「あけ烏」2句入、
没後;追善3周忌「猿利口さるぢえ」草連編刊、1776几董「続明烏」3句/83維駒「五車反古」5句入、
[春の夜や杖曳ひき足たらぬ賀茂の町](あけ烏;167/
夏の賀茂祭とは異なる春夜の風情/杖曳は散策)

C4828 **蘭山**(らんざん・加藤かとう、名;惟寅、重長男)1701-8282 加賀藩士;1705(宝永2)父継嗣;禄4百石、
前田綱紀以下7代藩主に出仕、儒・詩文:大地おおち昌言(東川とうせん)門、
1756「奚疑(東川)遺稿」編/「蘭山私記」「蘭山手録」著、
[蘭山(;号)の通称] 荘介/宇右衛門

C4829 **蘭山**(らんざん:道号・正隆しょうりゅう:法諱)1713-9280 羽前の臨済僧:幼時に羽前勝因寺入;剃髪、
月船善慧・大道文可・古月禅材に参禅、豊前の開善寺住持、1770豊前静泰院に退隠、
諸寺で教化;天明の飢饉では銭・粥の施行/1792(寛政4)竜安寺で教化中に没、
「妙応禅師語録」著、
[蘭山正隆の号/諡号]号;積翠、諡号;円機妙応禅師

C4830 **蘭山**(らんざん・小野おの、職茂男)1729-181082 京の医者・本草家;松岡恕庵門、
京の家塾衆芳軒経営;門弟多数、1799多紀元簡の推挙で幕府の医官:医学館で本草学講義、
全国に採薬旅行、門人;飯沼慾斎・山本亡羊・小原桃洞・多紀元堅・岩崎灌園・木村蒹葭堂ら、
1765「花彙」82「秘伝花鏡記聞」1791「本草記聞」1801「富士採薬記」04「伊勢採薬記」著、
「伊駿豆相採薬記」「小野蘭山抄録集」「雅言抄」「救荒本草記」「本草綱目啓蒙」外著多数、
[蘭山(;号)の名/字/通称/別号]名;職博もとひろ、字;以文、通称;喜内、
別号;朽匏子きゅうほうし/衆芳子、法号;救法院、安部有義の父/蕙畝の祖父

C4831 **闌山**(らんざん) ? - ? 俳人;1777江涯「仮日記」1句入、
[うかうかと華に暮れゆく命哉](仮日記;101/悠々自適の今の生活)

C4832 **鸞山**(らんざん:法諱・白蓮社霽誉せいよ:法名)?-1791 浄土僧:下総東漸寺の鸞宿門;宗学を修学、
1780江戸本所霊山寺16世、/89浅草誓願寺住持、画;桜井雪館門、画僧として有名、
後年は明人の遺墨を修学、「口訣類聚」「要文集録」「円光大師行状編年略賛」外著多数、

C4833 **嵐山**(らんざん・馬淵まぶち/修姓;馬)1753-183684 京の儒医、儒;斎静斎門、初め中立売室町東住、
のち寺町阿弥陀寺境池に住;医業、「学庸微言」「学話」「詩話」「徳話」「礼話」「韓文約訣」、
「論語微言」「論語文訣」「老子贅話」「荘子文訣」「芸陽紀行」「嵐山文集」「嵐山雑集」外著多、
[嵐山(;号)の名/字/通称/別号]名;会通、字;仲観、通称;舎人/小助、別号;唐棣園とうていえん

C4834 **蘭山**(らんざん・佐藤さとう、円仲男)1759-180042 尾張名古屋の生、家業の医者を嫌い京に住、
儒学を修学、秦滄浪・中野竜田と交流、「雙竹園稿」著、
[蘭山(;号)の名/字/別号]名;公忠、字;伯敬、別号;雙竹園そうちくえん、諡号;仁庵了義居士

4804 **蘭山**(らんざん・高井たかい、名;伴寛、伴昌男)1762-183877 江戸芝伊皿子組屋敷の与力、戯作者;
漢籍・往来物・女教訓書・字書など童蒙向け俗解書を多数著述、読本作者、歌・俳人、
1791「七十二候童蒙辨」93「消息往来」94「矢口詣」99「音訓国字格」1803「和漢朗詠国字抄」著、
1803-05読本「絵本三国妖婦伝」著、05-28曲亭馬琴の跡受け「新編水滸画伝」二-九編翻訳、
1808「孝子嫩物語」「那智の白糸」/09-27「星月夜顕晦録」13「奇譚青葉笛」14「復讐手引糸」著
1816季吟「増続山の井」増訂、1820-22「はつすすり」編/1824-25「絵本重編応仁記」著、
1827「山路栞」/1829・49「平家物語図会」32-36「唐詩選画本」五-七編/43「鎌倉年代記」著、
「千字文俚諺抄」「江嶋詣」「蝦夷国私説」「琉球国私記」「女消息往来」「暦説随筆」著、外著多、
[蘭山(;号)の字/通称/別号]字;思明/子明、通称;文左衛門、別号;三遷/哂我しんが/宝雪庵
法号;恭敬院

C4835 **蘭山**(らんざん・影田かげた)1791- 1852 62 陸中磐井の儒者;志村五城・大槻平泉門、
仙台藩儒に登用;世子侍読/養賢堂指南役/順造館督学、歌人、
1816「詠虫十二首」40「百将新詠」41「昔物語」、「蘭山文稿」著、
[蘭山(;号)の名/字/通称]名;隆徳/悳、字;可久、通称;良作

C4836 **纜山**(らんざん・竹鼻たけはな、名;則)?-? 江後期大阪の詩人/書、1850「山高水長一夜百詠」、
竹鼻正修まさなが(1744-1805/伊予小松藩老/字;士効)の一族?、
[纜山(;号)の字/通称]字;士効、通称;小左衛門

藍山(らんざん・鍋島) → *直与*(なおとも・鍋島、藩主/洋学/歌) Ｂ３２８７
藍山(らんざん・伊達) → *宗城*(むねなり・伊達南洲、藩主/藩政改革)Ｃ４２０５
藍山(らんざん・平井) → *元輿*(もとおき・平井ひらい、藩儒/歌人) Ｌ４４１３
藍山(らんざん・古市) → *献*(けん・古市ふるいち/千葉、絵師) Ｎ１８９４
蘭山(らんざん・直江) → *金石*(きんせき・荻原おぎわら/直江、俳人) Ｒ１６２９
蘭山(らんざん・箕作みつくり)→ *省吾*(しょうご・箕作/佐々木、洋学/地理)Ｊ２２７２
瀾山(らんざん・原田) → *保孝*(やすたか・原田はらだ、和算家) Ｂ４５８８
嵐山(らんざん・横山) → *信平*(しんぺい・横山/中尾、絵師/養蚕)Ｐ２２７７
覧山(鑾山らんざん・岩瀬)→ *京山*(きょうざん・山東さんとう、戯作者) １６３３

楽山楼(らくざんろう)　→　宗経(むねつね・南条なんじょう、藩士/学頭)　Ｂ４２７０
C4837 蘭子(らんし)　？－　？　俳人;1690北枝「卯辰集」2句入、
[顔洗ふ川辺涼しや魚の影](卯辰集;二256)
4874 嵐子(らんし)　？－　？　江前期遠江金谷の俳人;1693不角「二息」入、
[盛殺もりころす医者業病ごうびょうと名をつけて](二息/前句;ぬからぬ面つらをしてゐたりける)、
(調合を間違え毒薬を飲ませても難病でしたと抜け目なく平気な顔でいるのが医者商売)
C4838 嵐枝(らんし・上坂うえさか)1676－ 1751*76*　越前福井藩士;藩付家老府中本多家の家臣、
俳人:美濃派府中連の初祖、蓮二坊・帰的と芭蕉翁古池の色紙を河濯堂傍に埋め色紙塚建碑、
1726(享保11)「文月往来」編、
[嵐枝(;号)の通称/別号]通称;平左衛門、別号;百花堂/百華台/丁々庵/幽山/阪嵐
蘭子(らんし→らんこ)　→　蘭(らん・羽山はやま、歌人/私撰集編)　Ｂ４８５３
蘭芝(蘭之らんし・二畳庵)→　*樗堂*(ちょどう・栗田、酒造業/俳人)　Ｋ２８４３
C4840 蘭二(らんじ・野原のはら、巳千2男)1755-1804*50*　信濃飯田の俳人:闌更門、
1793(寛政5)芭蕉句碑を飯田羽場の阿弥陀寺に建立/94剃髪、
京の五芳・飯田の蕉雨・壺伯と交流、1792「都紀行」著/93「さゝふね」編、
[蘭二(;号)の名/通称/別号]名;政寛、通称;甚左衛門、別号;馬渤斎、法号;至暁院
C4841 嵐児(らんじ・五十嵐いがらし)？－ 1814　羽後秋田の俳人:五明門、画を嗜む、
1798(寛政10)「はらつゞみ」著、「秋田俳人俳画百人集」編、
[嵐児(;号)の名/別号]名;栄助/善助、別号;周皐/如泉斎
C4842 蘭室(らんしつ:道号・玄森げんしん:法諱)?-?　江前期臨済僧:京天竜寺200世補仲等修門;法嗣、
1671(寛文11)天竜寺204世/1674退隠、「蘭室和尚語録」著
C4843 蘭室(らんしつ・藤村ふじむら、名;正員まさかず/正隠、藤村庸軒2男)1650-1733*84* 京の茶人/茶道:父庸軒門、
1665大阪の茶商関東屋の養子、実父の作法を継承;庸軒流を興す、兄恕軒男の芳隆を養子、
「蘭室詩艸」「蘭室艸」「茶道旧聞録」「旧聞集」「御殿御茶式」著、
[蘭室(;号)の通称/別号]通称;清兵衛、別号;風外軒/松杉堂/誠翁、屋号;関東屋
C4845 蘭室(らんしつ・神保じんぼ、忠昭男)1743-1826*84*　羽前米沢藩士/儒;藁科松柏門、一刀流武術;父門、
1761世子上杉治憲(鷹山)の学友、細井平洲嚶鳴館修学/南宮大湫・渋井太室・滝鶴台と交流、
1776儒職を下命さる;藩校興譲館の学制制定/提学となる、藩主鷹山の改革に平洲と助力、
1782家督継嗣/91町奉行次席/96興譲館督学、鷹山の命で1809平洲「嚶鳴館遺稿」共編、
1811「載時要覧」著、経世実用学を主唱、青苧一件に連座;1816致仕、隠居、
家塾宜雨堂で講説、1822「宜雨堂詩集」著、「後凋斎詩集」「信羽唱和集」「提学先生芳作」著
[蘭室(;号)の幼名/名/字/通称/別号]幼名;善弥、名;綱忠/行簡、字;子廉、
通称;容助、別号;蘭斎堂
C4846 蘭室(らんしつ・赤松あかまつ、名;勲、滄洲の長男)1743-97*55* 儒者;父門/詩文に長ず、
1761(宝暦11)父の跡を継嗣;播磨赤穂藩儒/藩校博文館に出仕/督学祭酒となる、
藪孤山・河野恕斎と共に海内三才子と称される、1772「静思亭集正編」編/77「赤城風雅」著、
「義士逸話」「王柏書疑」「赤城霞標」「赤城文献志」「敞箒筆記」「睦月の東下り」「寓東続集」著、
「湯常山先生伝略」「蘭室先生詩文集」「赤松国鸞大業遺稿」著、孟賁の父、
[蘭室(;号)の字/通称]字;大業、通称;太郎兵衛
C4847 蘭室(らんしつ・辻つじ/本姓;中原、医者村田玄隆3男)1756-1835*80* 医者辻章典の養子、養家を継嗣;
久我家諸大夫で医業、1792村田元朔の紹介で大槻玄沢に書簡による門人、
1795久我信通没で主家より譴責、蘭語を独習;蘭日辞典「蘭語八箋」著、製薬で一家を成す、
天文・地理・暦数・語学・博物の研究、儒は朱子学から古学に転ず、信濃守/出羽守/正四下、
[蘭室(;号)の幼名/名/字/別号]幼名;幾弥、名;章従/瑛、字;為槻/文克、別号;孜軒しけん、
法号;蘭室宗秀居士
4810 蘭室(らんしつ・脇わき、名;長之、脇屋則郷男)1764-1814*51* 代々豊後速見郡小浦の里長の家、
父没後に叔父脇屋則弥に養育/のち分家し脇家を名乗る、儒:藪孤山門/詩;伊形霊雨門、
三浦梅園門/大阪の中井竹山門、1789頃小浦に帰郷;私塾開設、熊本藩校訓導に招聘;
1年で辞任、豊後鶴崎定詰の教導方として藩士子弟の教育/著作に専念、朱子学に精通、
帆足万里・角田九華の師、1806「見し世の人の記」07「滝のやどり」「蘭室集略」/12「桂華」、

1813「治教合一図解」「陽春献言」/14「安支波芸」、「蘭室集略続編」「籬草」「学校私説」、
「家説考」「淳風会講旨」「芒の箸」「わらべ歌」「歳蘭漫語」「菡海漁談」「愚山遺訓」外著多数、
[蘭室(;号)の字/通称/別号]字;子善、通称;儀一郎、別号;愚山/菊園/菡海かんかい子/無獲子、
法号;信珠院、諡号;文教先生

C4848 **蘭室**(らんしつ・南合なんごう、名;義之よしゆき)?-1825　岩代白河藩士/儒者;井上金峨門;折衷学を修学、
のち程朱学、1793使番・学頭、98大普請奉行/郡代/1818藩校立教館教授、
1823藩主松平(久松)定永の伊勢桑名移封に随い桑名藩校教授、武芸;新陰流の奥義を究む、
歌を嗜む、「小窓筆記」「滝の音」「信夫伊達両郡巡郷記」著、家集「蘭室先生遺草」、
岩崎些斎ささいの兄、
[蘭室(;号)の字/通称/別号]字;希韓、通称;彦左衛門、別号;東郭

懶室(らんしつ;道号・仲方)→　*円位*(えんい;法諱・仲方、臨済僧)　１３８７
蘭室(らんしつ・矢口)　→　*養達*(ようたつ・斎藤さいとう/矢口、藩医)　Ｂ４７４５
蘭室(らんしつ・三田)　→　*義勝*(よしかつ・三田さんだ、藩儒/詩文)　Ｃ４７８６
蘭室(らんしつ・関)　→　*鉄之介*(てつのすけ・関、藩士/桜田門外変)Ｃ３０５９
蘭室(らんしつ・荒川)　→　*天散*(てんさん・荒川、儒者;学政参画)　Ｄ３０５２
蘭室(らんしつ・松平)　→　*治郷*(はるさと・松平、藩主/茶道)　Ｇ３６３８
蘭日堂(らんじつどう)　→　*百丸*(ひゃくまる・森本、俳人)　３７１２

C4849 **嵐写**(らんしゃ)　?-　?　俳人;1768秀億「葛藤かつらふじ」入
蘭渚(らんしゃ;法諱)　→　*安然*(あんねん;道号・蘭渚らんしゃ、曹洞僧)Ｃ１０１０
蘭麝亭(らんじゃてい)　→　*薫*(かおる・蘭奢亭、狂歌/戯作)　Ｂ１５１６
蘭奢亭薫(らんじゃていかおる)→　*薫*(かおる・蘭奢亭、狂歌/戯作)　Ｂ１５１６

C4850 **蘭洲**(らんしゅう:道号・良芳りょうほう:法諱、俗姓;橘)1305-84*80*　若狭の僧:幼時に若狭の天台寺院入、
1319(15歳)上洛;臨済宗南禅寺大雲院の無相良真門/のち夢窓疎石の侍者、
1361楠木正儀ら南朝の京乱入に幼い足利義満を建仁寺大竜院に匿う;のち幕府より厚遇、
1378建仁寺54世、80南禅寺41世、「弘宗定智禅師語録」著、
[蘭洲良芳の諡号] 弘宗定智禅師

C4851 **蘭洲**(らんしゅう:道号・道秀どうしゅう:法諱)?-?　江前期黄檗僧:木庵性瑫門;1676法嗣、
「蘭洲和尚録語録」著

C4852 **蘭秀**(らんしゅう・吉田よしだ、名;横船よこふね、俳人吉田友次男)1653-96*44*　名古屋俳人:父門/季吟門、
歌/書;水野金兵衛門、名古屋久屋町/古渡住、1674「後撰犬筑波集」編、「続阿波手集」編、
1679「両吟名所花」桃牛と共編、1691江水「元禄百人一句」入、冬央とうおうの師、
[長閑のどかさやねむらぬまでも目の細き](百人一句;48/春の陽気)、
[蘭秀(;号)の別号]　横船おうせん/(名;よこぶね)、古渡堂/秋陽堂/蘭秀軒

C4853 **蘭舟**(らんしゅう)　?-　?　江中期伊丹の俳人;一昌門、
1687一昌「丁卯ていぼう集」入、1712長父「鉢扣はちたたき」/14月尋「伊丹発句合」参加、
[帷子かたびらや蝉の小川の水浅黄](伊丹発句合;11番)
[空蝉よ小春の虫に啼きかへれ](丁卯集/四生;化)

C4854 **嵐舟**(らんしゅう)　?-　?　播磨姫路の俳人;1692才麿「椎の葉」1句入;
[鐘の音ねやきくたよりなき秋の暮](椎の葉;139)

C4855 **藍洲**(らんしゅう・土屋つちや、中津藩医土屋道竹男)1686-1761*76*　豊前小倉の医者;渋江松軒門、
儒:江戸の荻生徂徠門、帰国;豊前中津藩主小笠原長邕に出仕/日向延岡藩主牧野家出仕、
のち小倉藩主小笠原忠基の儒医・侍読/子弟を教育、養嗣子;元卿、「括秘録」著、
[藍洲(;号)の名/字/法号]名;昌英、字;伯曄はくよう、法号;友賢元斎居士

4805 **蘭洲**(らんしゅう・五井ごい、名;**純禎**としさだ、持軒2男)1697-1762*66*　大阪の儒者;父より朱子学を受ける、
貧窮のため尼崎・信州を流浪、1712(正徳2)帰阪/中井甃庵と親交;懐徳堂の助教となる、
1727江戸に下向、31陸奥津軽藩に招聘;儒官となる;39致仕;懐徳堂教授に復す、
国学にも通ず、中井竹山・履軒の師、「非物編」「瑣語」「古今通」「冽庵日纂」「喩叢」「茗和」、
「赤穂四十六士論駁論」「鉤深録」/1752「勢語通」「万葉集詁」/57「承聖篇」外著多数、
[蘭洲(;号)の字/通称/別号]字;子祥、通称;藤九郎、別号;冽庵/梅塢ばいう

C4856 **蘭州**(らんしゅう)　?-　?　大阪俳人:雑俳、1758撰集「夜の花」瓢水と共編

C4857 **蘭州**(らんしゅう・久田ひさだ)1731-1802*72*　　伊勢山田の儒者:上京;谷口立直門、
師の立直の女を妻とす、「白賁堂文集」著、
[蘭州(;号)の名/字/通称/諡号]名;升、字;子恒、通称;舎人、諡号;彰信先生

C4858 **蘭洲**(蘭州らんしゅう・山崎やまざき、道有の長男)1733-99*67* 陸奥弘前の医者(家学)修学;1751江戸遊学、
1756(宝暦6)家督継嗣;弘前藩医/奥医師・文学を兼務、1757上京;医術を修学、59教授、
1768(明和5)江戸の天文方山路主住・之徽の父子門;星暦術を修得/長崎にも遊学、
1784(天明4)藩主の要請で広く飢饉の歴史「凶荒史」を編纂、1794藩校稽古館創設に参画、
1796開校に当り大目付次順待遇で稽古館司業に就任、詩文・書に長ず、
「万国地理図説」「新暦撰考」著、「蘭洲先生遺稿」、唐牛東洲・葛西清陵・伴建尹の師、
[蘭州(;号)の名/字/通称]名;明/道冲、字;仲漠/敬夫、通称;丈助/図書ずしょ

C4859 **蘭洲**(らんしゅう・吉村よしむら、名;彝徳/字;子乗)1739-1816*78* 京の西本願寺の絵師:石田幽汀門、
円山応挙と同門、医者橘南谿・小石元俊を助けて人体解剖図「解体図」画、
1798(寛政10)「施薬院解男体臓図」画、

C4860 **蘭洲**(らんしゅう・伊東/伊藤いとう、修姓東、字;兆熊)?-?　江後期1804-20頃江戸漢学者:井上金峨門、
読本/洒落本作者(筆名金太楼主人)/京伝の師、馬琴・南畝・浅草市人らと交友、
1805地誌「墨水消夏録」06「綾繰戯」07「一文塊」12「金屋金五郎全伝」27「復讐棗物語」著、
「滑稽発句類題集」「茶譚鶏肋」著、
[蘭洲(;号)の通称/別号]通称;周輔しゅうすけ、別号;秋飄しゅうひょう/文海/西湖外史/金太楼主人

C4861 **鸞洲**(らんしゅう;法諱)　1772 - 1843*72*　　浄土僧:筑前博多妙円寺の演誉門、
のち江戸小石川伝通院の賢洲門、紀伊の徳本行者の許で苦修練行;
徳本の江戸での教化活動を支援、幕命で蝦夷有珠の善光寺2世;アイヌに布教活動、
1810(文化7)「後世の枝折」著、
[鸞洲の別法諱/法名]別法諱;本洲、法名;翔蓮社鳳誉

C4862 **蘭洲**(らんしゅう・山内やまうち、源三郎厚徳[子載]4男)1793-1833*41* 父は因幡鳥取藩士(米子組)、
兄芝室は伯耆米子組頭役、一時国田家の養子;のち復姓、医者;鳥取藩医田代恒親門、
京阪に遊学;中川修亭[壺山]門、帰郷後米子に医を開業、1826(文政9)「一毒二途論」著、
[蘭洲(;号)の名/字/通称]名;休美、字;士則、通称;修平

C4863 **嵐秋**(らんしゅう・秋間あきま、名;小市こいち)?-?　　江後期天保1830-44頃上州佐波郡赤堀村の俳人:
佐々木冥々門;楓二・一魚らと修学、卓池・鵑村と交流、「休広集」著

C4864 **蘭洲**(らんしゅう・川島かわしま、名;達、以敬男)1820-77*58* 上州板鼻の農業、学問;秦嶺禅師・島方松陰門、
江戸で書:巻菱湖門、一旦帰郷し再び江戸住;書家、経史;佐藤一斎門、1860罹病し帰郷、
詩「遊戯帖」/1849「諫院題名記」著、
[蘭洲(;号)の字/通称]字;景欧/君立、通称;達五郎

蘭州(らんしゅう・横山)　→　*政和*(まさかず・横山よこやま、藩家老/文筆)Ｂ４０８１
蘭州(らんしゅう、河東節太夫)→ *庄次郎*(しょうじろう・蔓蔦屋/妓楼経営)Ｔ２２５５
蘭洲(らんしゅう・楊井)　→　*盛之*(もりゆき・楊井やない、藩士/歌人)　Ｋ４４１１
蘭洲(らんしゅう・秦)　→　*致*(いたす・秦はた、商家/国学)　Ｋ１１５６
懶修(らんしゅう・田中)　→　*蘭斎*(らんさい・田中たなか、藩士/書家)　Ｃ４８１５
蘭秀軒(らんしゅうけん)　→　*蘭秀*(らんしゅう・吉田横船よこふね、俳人)　Ｃ４８５２
蘭秀軒(らんしゅうけん)　→　*畔李*(はんり・南部、藩主/俳人)　Ｉ３６６０
蘭舟軒(らんしゅうけん)　→　*兎城*(とじょう・篠崎しのざき、俳人)　Ｏ３１１６
蘭秀斎(らんしゅうさい)　→　*重徳*(じゅうとく・寺田、書肆/俳人)　Ｉ２１１７
蘭秀子(らんしゅうし)　→　*重徳*(じゅうとく・寺田、書肆/俳人)　Ｉ２１１７
蘭秀舎(らんしゅうしゃ)　→　*其国*(きこく・蘭秀舎、俳人)　Ｂ１６１３
蘭秀堂(らんしゅうどう)　→　*稲穂*(いなほ、笹屋嘉右衛門、書肆/噺本)Ｉ１１１０

C4865 **鸞宿**(らんしゅく;法諱・法名;台蓮社霊誉洞阿光音)1682-1750*69* 伊勢山田の浄土僧:
江戸芝増上寺の学寮に修学/霊玄門、下総小金の東漸寺住持/常陸瓜連の常福寺住持、
1745(延享2)幕命で知恩院50世/46大僧正、「藏経縁起」「台宗提要」「往生十因拙講」著、
「阿弥陀経諸解総目」「無量寿経諸解総目」「三巻秘籍」「歴観随録」著、外編著多数

C4866 **蘭叔**(らんしゅく:道号・玄秀げんしゅう:法諱)?-?　1576存　岐阜臨済宗乙津寺住持、「酒茶論」「蘭叔録」著

蘭渚(らんしょ・内田)　→　*宣経*(のりつね・内田うちだ/駒屋、国学者)　Ｆ３５１４
蘭渚(らんしょ→らんしゃ)　→　*安然*(あんねん;道号・蘭渚らんしゃ、曹洞僧)Ｃ１０１０
蘭渚(らんしょ・中山)　→　*玄亨*(げんこう・中山、医者/日記)　Ｉ１８８１
蘭所(らんしょ・榊原)　→　*守典*(もりのり・榊原さかきばら/上田、儒者)　Ｇ４４２５
C4867 **乱絮**(らんじょ)　？－　？　俳人;1716宗瑞「江戸筏」地巻に歌仙入
[むく音の近きを瓜の手柄かな](江戸筏;地巻第三歌仙発句)
C4868 **嵐松**(らんしょう)　？－　？　江戸俳人;1676蝶々子「誹諧当世男」入
蘭衝(らんしょう)　→　*凌海*(りょうかい・司馬しば/島倉、蘭医/語学)Ｇ４９８２
巒樵(らんしょう・片桐)　→　*源一*(げんいち・片桐かたぎり、歌人)　Ｈ１８７０
瀾城(らんじょう・池田/谷)→　*素外*(そがい・谷たに/池田、商家/俳人)　Ｄ２５４０
鑾城(らんじょう・鈴木)　→　*主税*(ちから・鈴木、藩政刷新/歌)　Ｃ２８３０
鸞嘯閣主人(らんしょうかくしゅしん)→　*順斎*(じゅんさい・木下/藤原、医者)　Ｋ２１７４
C4869 **懶所先生**(らんしょせんせい・姓不詳)?-?　儒者;1815鴻濛陳人「忠臣庫ちゅうしんぐら」訓点
C4870 **嵐水**(らんすい)　？－　？　俳人;1688不卜「続の原」1句入:
[踏み越て又立戻る清水かな](続の原;48/引き返すほどの魅力的清水)
C4871 **嵐推**(らんすい)　？－　？　俳人;1691「猿蓑」1句入:
[里人の臍落したる田螺かな](猿蓑;巻四)
D4845 **乱水**(らんすい)　？－　？　江戸俳人;1691不角「二葉之松」入
D4846 **嵐翠**(らんすい)　？－　？　京俳人;淡々門、1728柳岡「万国燕」9句入
C4872 **藍水**(らんすい・田村たむら/本姓;坂上、大谷出雲2男)1718-76*59*　父は幕府小普請方棟梁、
母;作事方棟梁甲良豊前女、江戸の生/医者;1817道三流医術を修学、本草学;阿部照任門、
幕府より朝鮮人参の種子を受け栽培研究、田村宗宣の婿養子;宗宣女の栄と結婚、
1763幕府医官小普請方支配御医師並に登用される;国産薬用人参栽培・生薬製造を担当、
採薬・物産調査のため各地を廻る;熊本藩主細川重賢・薩摩藩主島津重豪の恩顧を受、
1751(宝暦7)江戸湯島で薬品会開催;本草・物産学の啓蒙に貢献、曾占春・平賀源内の師、
1737「人参譜」47「人参耕作記」51「救荒本草記聞」54「朝鮮人参図」55「人参類集」、
1756「醴泉祥瑞説」70「琉球産物志」、「甘蔗製造伝」「薬肆人参類集」「藍水物品考」外著多数、
[藍水(;号)の名/字/通称]名;登、字;玄台、通称;元雄、西湖・栗本丹洲の父
C4873 **藍水**(らんすい・横谷よこや/よこたに/修姓:谷、宗璵[友貞]3男)1720-78*59*　彫物師横谷宗珉の孫、
江戸の人;6歳で痘で失明、1727(8歳)医術;多紀玉池門/鍼医を業とす、
1736(17歳)服部南郭の「唐詩選」講説を聞き詩の道を志す;高野蘭亭門、
「藍水詩草」「蘐園けんえん詩客詩稿」著、
[藍水(;号)の名/字/通称]名;友信、字;文卿、通称;玄圃
D4821 **藍水**(らんすい)　？－　？　備後尾道俳人;1763凉岱「古今俳諧明題集」入
C4874 **蘭翠**(らんすい・渡辺わたなべ、譲庵5男)1763-1810*48*　陸中紫波郡郡山医者;兄芳庵と京の儒医申斎門、
帰郷後は盛岡で医業/俳諧を嗜む、平野梅園と交流、「蘭翠遺稿」、
[蘭翠(;号)の名/字/通称/別号]名;元義、字;為礼、通称;貞庵、別号;温古斎
C4875 **藍水**(らんすい・神谷かみや)　？－ 1811　幕臣;普請役、和算家:藤田貞資門、
師の代行で会田安明と論争、1782「五円整数術」84「変商」89「一題数品術」90「解惑辨誤」、
「神氏一百解」「五円無不尽術」「点竄雑解」「連籌変態術」「雑題四十八問」外著多数、
[藍水(;号)の名/字/通称/別号]名;定治/知由/定令/定春、字;元卿、通称;幸吉、
別号;有隣斎　、門弟;堀池敬久/関輝萼/水野政和ら
C4876 **藍水**(らんすい・神沢かんざわ、別号;一葉庵)?-?　江後期京の俳人、神沢杜口(随筆作者)の孫、
1803(享和3)「花の日かす」/44(天保15)「ひとつ葉」編
C4877 **嵐翠**(らんすい・柳下亭りゅうかてい)1767-? 1807存　尾張名古屋広小路柳薬師別当正伝寺に住、
のち新福寺に住、瓦礫舎朴巌の弟、茶道家/通称;宗一、中国戯曲の翻訳、奇石の蒐集、
1802煎茶「自辨茶略」/02「煎茶早指南」著/02「売茶翁煎茗書」編、04「任価仏発沽」著、
1804-18頃「艶詞月下琴」(西廂記訳)/05翻訳「胡蝶の夢」訳/07「王氏録」著、
藍水(らんすい・梶原)　→　*景紹*(かげつぐ・梶原かじわら、郷土史家)　Ｅ１５２２
藍水(らんすい・池田)　→　*寛親*(ひろちか・池田いけだ、藩家老/歌文)Ｇ３７３６

藍水(らんすい・下里)　→　*千穎*(ちかい・下里しもさと/藤原/中臣/鎌田、神道)Ｍ２８６９
C4878 **蘭瑞**(らんずい;法諱)　1772 － 1830*59*　筑後浮羽郡森部の真宗大谷派安超寺の住職、
擬寮司となる、「往生浄土亀鑑」著
藍水狂客(らんすいきょうきゃく)→ *竹田*(ちくでん・田能村、儒/絵師/詩人)　Ｄ２８５４
欖翠軒(らんすいけん)　→　*馬耳*(ばに・佐藤さとう、本陣役人/俳人)Ｅ３６３６
嵐翠子(らんすいし)　→　*嵐翠*(らんすい・柳下亭、翻訳家)　Ｃ４８７７
藍水堂(らんすいどう)　→ *貞幹*(さだもと・有沢ありさわ、藩士/軍学者)Ｊ２０９１
C4879 **嵐青**(らんせい・集鶏堂)　？－　？　越中井波の酒造業、和久の兄、俳人;浪化門、
和久と共に浪化を中心とする越中の俳諧集団の1人、
1695浪化「有磯海・となみ山」七吟歌仙入/99「浪化日記」百韻入
D4861 **嵐夕**(らんせき・八塩やしお)　？－　？　江前期;上方の歌人/盲人、
1670下河辺長流[林葉累塵集]5首入、
[吹くほどは中中空にただよひてよわる嵐に花ぞちりくる](林葉累塵;春200)、
[我とわが身をいさめてもかひぞなきとすればあだに明けくれの空](同集;雑1247)、
[かばかりのことは世にふるならひぞと心にゆるすとがぞはかなき](同集;雑1248)
C4880 **蘭石**(らんせき・中邑なかむら)　？－　？　1750-55頃雑俳点者、雲峰「千代見句作ちよみぐさ」梅竹堂板入
蘭石(らんせき・中山)　→　*久章*(ひさあき・中山なかやま、歌人)　Ｋ３７３９
4806 **嵐雪**(らんせつ・服部はっとり、名;治助はるすけ、常陸麻生藩士服部高治男)1654-1707*54*　江戸湯島生、
麻生藩・窪田藩・笠間藩で武家奉公/越後高田藩士、俳;芭蕉門、1688致仕;武士を廃/俳諧宗匠、
1688「歳旦発句諜」90「其俤そのふくろ」編;雪門を誇示/江戸蕉門と軋轢、師没後剃髪;済雲和尚門、
黄檗山参禅;江戸俳壇から退去、1688「若水」90「其俤」94「或時集」95「若菜集」編、
1701「杜撰集」05「その浜ゆふ」、07「俳諧つるいちご」(作法書)、「玄峰集」(旨原編)、「胡塞記」
「装遊稿」「丁未青陽」「嵐雪句集」「嵐雪文集」外多数、1696芳山「枕屏風」等に入、
[梅一輪一輪ほどのあたたかさ](玄峰集;冬)/[ふとん着て寝たる姿や東山](枕屏風入)、
[嵐雪の幼名/通称/別号]幼名;久米(久馬)之介、通称;孫之丞/彦兵衛/新左衛門/喜兵衛、
別号;嵐亭治助・雪中庵・寒蓼堂・黄落庵・不白軒・石中堂・玄峯堂・良香(画号)、
法号;不白玄峯居士
C4881 **蘭雪**(らんせつ・井口いぐち、名;文炳、長泰[道順]男)1719-71*53* 紀伊和歌山の儒者:上野海門門、
のち伊藤蘭嵎門、和歌山藩に出仕、「蘭雪集」「考工記国字解」「諸史辨断」「経学文衡補遺」著、
1753「考工記管籥」補訂/66「経史考」著、定さだ(伊藤東所の妻)の父
[蘭雪(;号)の字/通称]字;仲虎、通称;喜太夫
乱雪(らんせつ)　→　*吏登*(りとう・桜井、嵐雪門俳人)　４９０４
蘭雪(らんせつ)　→　*耐軒*(たいけん・曾我・伊藤/春田、儒/詩)Ｂ２６３１
蘭雪(らんせつ)　→　*香国*(こうこく・村田むらた、絵師/詩/書)　Ｉ１９７９
C4882 **嵐雪妻**(らんせつのつま・服部はっとり、号;烈女)?-1703 江戸の遊女/嵐雪に嫁す:俳人、猫好き、
嵐雪とともに剃髪、1691江水「元禄百人一句」目録入
法号;雪山浄白せつざんじょうはく
C4883 **藍泉**(らんせん・役えき/本姓;島田、赤城男)1753-1809*57* 周防徳山の修験宗教学院の住職;父を継嗣、
漢学;国富鳳山・滝鶴台門/1785徳山藩校鳴鳳館創設により学政を司る/のち教授、
詩人;幽蘭社を結成、亀井南冥・頼春水・皆川淇園と交流、
「藍泉詩集」「藍泉文集」「藍泉漫筆」「藍泉新語」著、「藍泉集」(没後1816刊)、
[藍泉(;号)の名/字/通称/別号]名;浄観、字;道甫、通称;右京/役観、別号;興山
C4884 **藍川**(らんせん・南宮なんぐう、大湫たいしゅう男)1765-91早世*27*　伊勢津の儒者;細井平洲(父と同門)門;
家学修学、尾張藩の藩儒;藩校教授/藩主侍講、27歳で早世、
[藍川(;号)の名/字/別号]幼名;寿、名;齢、字;大年、通称;大助、別号;竜湫
藍川(らんせん・大村)　→　*重矩*(しげのり・大村おおむら、医者/歌)　Ｓ２１１０
藍川(らんせん・藤沢)　→　*雪斎*(せっさい・藤沢ふじさわ/藤、医者)　Ｋ２４９２
藍川(らんせん・津村)　→　*淙庵*(そうあん・津村/円、商家/随筆/歌)２５４７
藍川(らんせん・高橋)　→　*由一*(ゆいち・高橋たかはし、藩士/絵師)　４６４３
藍泉(らんせん・藍川)　→　*慎*(脊しん・藍川あいかわ、医者)　Ｎ２２２０

藍泉(らんせん・佐竹)　→　*蓬平*(ほうへい・佐竹さたけ/野口、絵師)　Ｃ３９４９
蘭泉(らんせん・永田)　→　*知章*(ともあき・永田/林、藩士/郷土史/詩)Ｐ３１０９
蘭泉(らんせん・亀田)　→　*鶴山*(かくざん・亀田かめだ、商家/詩人)　Ｊ１５９２

C4885 **懶禅**(らんぜん;道号・舜融しゅんゆう;法諱)1613-72*60*　薩摩の曹洞僧;1620(8歳)多福山護国寺入;出家、
関東の諸師に参禅/美濃の万安英種門;嗣法、師英種後任として丹後瑞巌寺住持、
1654山城宇治の興聖寺6世住持、55山城不言寺に退隠;同地に没、
「万安種禅師伝」「日域曹洞列祖行業記」著

藍川社(らんせんしゃ)　→　芹舎(きんしゃ・八木やぎ、俳人)　Ｅ１６１３

C4886 **嵐窓**(らんそう・三岡みつおか)　?-　?　江戸の俳人:芭蕉門、
1680「桃青門弟独吟廿歌仙」入、91「猿蓑」1句詞書に入、
[見ぬかたの花や匂ひを案内者](猿蓑;嵐蘭[夢さつて又一匂ひとにほひ宵の梅]の詞書)

C4887 **嵐窓**(らんそう・円城寺えんじょうじ、直清[甲州流軍学師範/俳号;竹友]の男)1777-1838*62*　兵法家;父門、
甲州流・小幡流・越後流兵法修学/相模小田原藩士;軍学師範;藩主大久保忠真の兵法教授、
俳人;官鼠・沙羅・駝岳・木僊門、文化文政天保初1804-35頃小田原俳壇の中心的俳人、
1814「余綾集」編/18「蛍雪集」著、20「相模風流」編、23「楳仏集」、「紙魚はらひ」著、
[嵐窓(;号)の名/通称/別号]名;直徳、通称;喜左衛門/助作、
別号;常盤窓竹和/文化斎/暮雲堂/六花苑/乙蒐斎おっしゅうさい/乙兎斎/菟斎/老婆居士/空斎、
法号;六花苑空誉嵐窓自仏居士

嵐窓(らんそう・阿部)　→　*定珍*(さだかね・さだよし・阿部あべ、庄屋/詩歌)Ｎ２０６８
懶叟(らんそう・東海)　→　*忠兵衛*(ちゅうべえ・伊勢屋,書肆)　Ｇ２８８４
蘭窓(らんそう)　→　*湖関*(こかん・蘭窓、俳人)　Ｃ１９２９
藍叟(らんそう・青々処)　→　*卓池*(たくち・鶴田、俳人)　Ｅ２６２８
藍叟(らんそう)　→　*元美*(げんび・林はやし、棋士)　Ｍ１８１７
藍叟(らんそう・尾高)　→　*藍香*(らんこう・尾高おだか、里正/勤王家)　Ｃ４８０７
嵐蔵(らんぞう・泉)　→　*清旭*(きよあき・中村、藩士/尊王派)　Ｎ１６０４
蘭叢斎(らんそうさい)　→　*兼庭*(けんてい・猪苗代、連歌師)　Ｃ１８７４
蘭村(らんそん・青木)　→　*青城*(せいじょう・青木あおき、儒者)　Ｃ２４２７

C4888 **蘭黛**(らんたい・瀬川せがわ、通称;夏助)?-?　江中期大阪の俳人;雑俳点者;才麿の門流か?、
1765(明和2)「五文字井井いろは分」編

C4889 **鸞太**(らんたい・中村なかむら)　?-　?　江後期京の松原丹波屋町の俳人、
寛政1789-1801頃から月次発句会の点者、
1799「あけほの集」/1801・06「発句平安集」1823「発句新葉集」編、「発句山海集」編、
[鸞太(;号)の別号]九博堂/名蕪/佳菊庵/蛙屋かわづや/松骨/如意老にょいろう

C4890 **蘭台**(らんだい・大村おおむら、名;純庸すみつね、藩主大村純長4男)1670-1738*69*　兄純尹の養嗣子、
1712(正徳2)肥前大村藩主襲封/従五下伊勢守、藩財政危機打開のため藩政改革を断行;
全家臣の俸禄制を採用、1715異国船渡来に備え領内面高に台場を構築、1727致仕、
俳人;江戸座宗匠・俳人を度々招待、1706「神の留守」「新樹」著/1711「岩城」「誰袖」編、
1712「瑠璃」「鶉之尾」「蚤」著、1716(享保元)沾徳点「豆腐百韻」催、
1720「うり」「男郎花」「躍の声」「於呂根」「出熨斗」著、23「相傘」25「としの市」26「夜桜」編、
1729「赤木」編、「瓜の花」「やり梅」著、外編著多数、
[蘭台(;号)の幼名/別号]幼名;伊織/幾之助、別号;蘭台館、法号;元通院

C4891 **蘭台**(らんだい・井上いのうえ、通翁3男)1705-61*57*　父は徳川家宣の侍医、儒者;1725天野曾原門、
1727林鳳岡門/29林家員長、1740備前岡山藩儒;岡山へは一度赴いたのみ;江戸藩邸侍講、
生涯江戸住、折衷学の基礎を築く、漢文戯作を著、井上金峨など門弟多数、
「詩経古註」「図南詩文集」「図南亭集」「井上蘭台文集」著/「牛窓録」編、1747「山陽行録」著、
1757「明七子詩解」/59戯作「唐詩笑」著、69「太申桜記」著、「蘭台先生遺稿」、外著多数、
1728(享保13)宝山企画の[諏訪浄光寺八景]序(漢文)執筆、
[蘭台(;号)の幼名/名/字/通称/別号]幼名;鍋助、名;通熙みちひろ、字;叔/子叔、
通称;嘉膳、別号;璠庵はんあん/図南/(戯号:)玩世教主

C4892 **蘭台**(らんだい、桃化男)1746 - 1793*48歳*　真宗本願寺派僧;越中井波の瑞泉寺14世、

俳人;樗良と親交、樗良の無為庵で蕪村・月渓らと歌仙、
1773几董「続明烏」1句/76樗良「誹諧月の夜」2句入、
[雲散りて月の動きのなき夜哉](月の夜;1/無為庵月見歌仙発句;15句目以下略)
[蘭台(;俳号)の幼名/僧名/別号]幼名;政丸、僧名;誠心院従祐しょうゆう、別号;郁々堂/託静軒
C4893 **蘭台**(らんだい・飯田融) ? - ? 江戸期美濃医:大阪住、「解剖新書」「薬性論」
藍台(らんだい・武内) → *確斎*(かくさい・武内、詩/読本作者) Ｅ１５６８
蘭台(らんだい・江田) → *世恭*(せいきょう/ながやす・江田、商家/国学/香)Ｈ２４９０
蘭台(らんだい・鈴木) → *楳林*(ばいりん・鈴木すずき、儒者) Ｃ３６２８
蘭台館(らんだいかん) → *蘭台*(らんだい・大村おおむら、藩主/俳人) Ｃ４８９０
C4894 **蘭沢**(らんたく・井上いのうえ、逸斎男)1718-81*64* 越前大野の儒者;太宰春台門/師没;稲垣白嵓門、
加賀大聖寺藩士/儒で出仕、1771-「大聖寺藩系譜」編(没後1790刊)
[蘭沢(;号)の名/字/通称]名;逸、字;休夫、通称;新右衛門
C4895 **蘭沢**(らんたく・森/杜もり/初姓;谷田貝やたがい)1722-77*56* 江戸の儒者;太宰春台門;経義を修学、
天文・算術・兵法・音楽に通ず、武蔵川越藩秋元家に出仕していた父・兄に随い川越住、
安藝広島藩儒森義文の養子、広島藩に出仕;1776(安永5)藩主の娘と世子の近侍、
1761「史歴解」著/69「続辨名」編、「尚書通義」「頒行暦釈」「天文成象図」「二辨標考」外著多数、
[蘭沢(;号)の名/字]名;効、字;君則
C4896 **蘭沢**(らんたく・堀ほり/修姓;屈)?- ? 江中期京綾小路室町西入町の儒者、
1782(天明2)「翠江山園詩」、「独知篇」著、「漢書夏侯嬰伝」訳、
[蘭沢(;号)の名/通称]名;正亮、通称;正大夫/貞輔/禎輔
蘭沢(らんたく・大菅) → *南坡*(なんば・大菅/岩泉、漢学者/藩儒)Ｊ３２３６
蘭沢(らんたく・片桐) → *為清*(ためきよ・片桐かたぎり、家老/歌人) Ｗ２６４８
C4897 **嵐竹**(らんちく・松倉、嵐蘭の弟)?- ? 板倉家家臣/江戸の俳人:芭蕉門、
1680「桃青門弟独吟廿歌仙」入/1683其角「虚栗」/86仙化「蛙合」1句/88嵐雪「若水」入、
1693洒堂「俳諧深川」2句/96史邦「芭蕉庵小文庫」入、1739宗阿「桃桜」入、
[朝草あさぐさや馬につけたる蛙かはず哉](蛙合;十七番右/刈取り馬背に乗せた草に蛙も乗る)
[暮かゝる日に城かゆる雁かり](深川;歌仙脇句146/城は代;餌をあさる田を替え飛去る、
発句;刈りかぶや水田みづたの上の秋の雲;洒堂)
蘭竹草堂(らんちくそうどう) → *水竹*(すいちく・中村なかむら、篆刻家) Ｅ２３８５
蘭疇(らんちゅう・松本) → *良順*(りょうじゅん・松本まつもと/佐藤、蘭医)Ｉ４９０２
C4898 **讕鳥**(らんちょう) ? - ? 絵師;1781-9南都賀山人「大通だいつう手引草」洒落本挿画
C4899 **蘭蝶**(らんちょう・横山よこやま、加賀金沢藩士津田政本女)1795-1815早世*21*、
加賀金沢藩士横山政孝(1789-1836)の妻、1808結婚、夫と共に詩を作る、琴・書を嗜む、
1815(21歳)死産し没、「断香集」、1815刊「海棠園合集」著、政孝の後妻は蘭畹らんえん、
[蘭蝶(;号)の名/字/法号]名;桂、字;依之、法号;心証院
嬾徴(らんちょう;法諱) → *兀庵*(ごったん;道号・嬾徴;法諱、臨済僧/盤珪研究)Ｎ１９０９
D4800 **覧陳**(らんちん、別号;河后山)?- ? 江中期備前岡山の俳人:近江彦根の孟遠門、
師の岡山来訪時に入門、1729孟遠は岡山滞在中に没;1741師の13回忌追善「獏の華」共編、
「誹諧横の花」「誹諧雪の袋」著
4809 **蘭亭**(らんてい・高野たかの/修姓:高、勝春[俳人;百里]男)1704-57*54* 江戸商家;幕府御用達魚問屋、
儒者/詩;徂徠門、17歳失明、南郭と親交、書・俳、門人多数/晩年は鎌倉円覚寺に松濤館設;住、
1713「鶴楼遺編」編、「分類詩題苑」「蘭亭詩鈔」、「蘭亭先生詩集」「蘭亭遺稿」、
[蘭亭(;号)の名/字/通称/別号]名;惟馨/維馨いけい/勝明、字;子式、
通称;文之助/香之進、別号;東里、
D4801 **蘭庭**(らんてい・後素軒こうそけん、通称;奈良屋茂作)?-? 大阪錦袋町の噺本作者、咄会を開く、
1776「立春噺大集りっしゅんはなしおおよせ」常笋亭君竹と共編
D4802 **鸞亭**(らんてい・柳江庵) ? - ? 江後期文化文政1804-30頃尾張名古屋の雑俳点者、
1805「俳諧花神楽」評/07「俳諧雲の峯」評/20(文政3)「柳江庵撰冠句集」編
鸞亭柳江庵雁紗(冠句確立の伊勢俳人)との関係は? → Ｇ１５２７
D4803 **蘭汀**(らんてい・秦はた、名;郁/字;士芳/別号;半月斎)?-? 江後期江戸の儒者、

「西郵記」「春宵酔話」「江上漁吟」「含芳堂日録」「慶扑録」「東游壮感録」「山樵狂吟」著
嵐亭(らんてい・潤)　→　*富屋*(ふおく・潤うるつ、俳人)　Ｂ３８２５
嵐亭(2世らんてい・奚疑)　→　*奚疑*(けいぎ、新月菴2世/富屋門俳人)　１８４３
嵐亭(らんてい・森本)　→　*沙鷗*(さおう・森本/平、酒造業/俳人)　Ｂ２０２３
嵐貞(らんてい・五十嵐)　→　*光春*(みつはる・五十嵐いがらし/武田、藩士/儒者)Ｌ４１１３
蘭亭(らんてい・加藤)　→　*歩簫*(ほしょう・加藤かとう、国学者/俳人)　Ｅ３９２７
蘭亭(らんてい・加藤)　→　*李充*(りじゅう・加藤、歩簫男/国学/俳人)Ｂ４９２２
蘭亭(らんてい・有秀斎)　→　*有秀斎蘭亭*(ゆうしゅうさいらんてい、絵師)　Ｃ４６３２
蘭亭(らんてい・司馬)　→　*江漢*(こうかん・司馬しば/安藤、絵師/蘭学)１９９１
蘭汀(らんてい・奥田)　→　*三角*(さんかく、奥田おくだ、藩士/儒者)　Ｅ２０１９
蘭汀(らんてい・本木)　→　*正栄*(しょうえい・本木、通事/対訳辞書)　Ｈ２２１６
蘭庭(らんてい・鈴木)　→　*正長*(まさなが・鈴木すずき、藩家老/農政)　Ｆ４０３２
蘭庭(らんてい)　→　*巣居*(そうきょ、僧/俳人)　Ｂ２５０６
瀾亭(らんてい・桜井)　→　*浦人*(ほじん・桜井、俳人)　Ｅ３９３１
鸞亭(らんてい)　→　*雁紗*(がんさ・柳江庵、雑俳/笠付;冠句)Ｇ１５２７
藍亭(らんてい・藍庭)　→　*玉粒*(ぎょくりゅう・晋米斎、合巻/狂歌)　Ｄ１６１２
嵐亭治助(らんていはるすけ)　→　*嵐雪*(らんせつ・服部治助はるすけ、俳人)　４８０６

D4804 **藍田**(らんでん・伊東いとう/修姓;東、幕臣菱田房明男)1734-1809*76* 江戸儒者;荻生金谷・大内熊耳門、
さらに中根君美門/蘐園学風を伝える/詩文に長ず;講説を業とす、伊東に改姓、
明和1764-72頃豊後日出藩主木下俊胤に出仕;儒学を講ず、1761「滄溟文諸家刊録」著、
1780「游房筆語」81「徂徠先生学則并附録標註」著/92「徂徠先生墓碣及誌」編、
「蒙求添註」「西遊紀行」「歴代通紀」、1794「藍田先生文集」(息子鼇岳ごうがく編)、外著多数、
[藍田(;号)の名/字/通称/別号]名;亀年、字;亀季、通称;金蔵/善右衛門、別号;天遊館、
法号;天遊斎箪翁良伝居士館

D4805 **藍田**(らんでん・大江おおえ、玄圃男)1757-88*32*　京の儒者;父門;家学を継承/詩に長ず、
仕官を求め江戸に向かう道中罹病;江戸到着2日後に没、
「在津筆記」「清詩礎」/1778「日本詩故事選」著、荊山[1763-1811]・維寧の兄弟、
[藍田(;号)の名/字/通称/別号]名;維翰、字;伯祺/文挙、通称;久川玄蕃、別号;東陽
法号;玉室藍田

D4806 **藍田**(らんでん・古山ふるやま・こやま、名;豹)1780-1835*56* 阿波の医者/京新町三条南で医業;古医法、
「医学正穀」「古今医籍之評」「藍田医話」著、
[藍田(;号)の字/通称/別号]字;文叔、通称;斎宮、別号;槹亭こうてい、

D4807 **藍田**(らんでん・谷口たにぐち、陶渓男)1822-1902*81*　母;清水竜門の姉、肥前有田の儒者;
文武;外叔の清水竜門門/儒;広瀬淡窓門;咸宜園塾長、のち江戸で羽倉簡堂に会う、
頼鴨厓(三樹三郎)と簡堂の著述を支援、古賀侗庵・佐藤一斎・佐久間象山と交流、
1847佐賀藩校弘道館で研究を重ねる;有田の開塾;子弟教育、幕末には国事に尽力、
維新後1869肥前鹿島藩藩校弘文館教授兼大参事、のち長崎・鹿島・東京に藍田書院開設、
1845「咬雪遊稿」60「五島紀行」、「図南録」「韓氏日値暦」「読書劄記」「藍田日記」著、
[藍田(;号)の幼名/名/字/通称/別号]幼名;秋之助、名;中秋、字;大明、
通称;韓中秋、別号;介石、渭陽・王香・琴廬・鹿洞の父

藍田(らんでん・熊谷くまがい)→　*竹堂*(ちくどう・熊谷、儒/詩人)　Ｄ２８５７

D4808 **鸞動**(らんどう・古沢ふるさわ/橋川、橋川はしかわ広吉3男)1665-86早世*22*　摂津伊丹の俳人;宗旦門、
鉄卵と共に伊丹青年俳人の双璧、閑雅で花鳥を愛する;1686(22歳)没
一周忌追善「野梅やばい集」宗旦編、鬼貫「大悟物狂」に辞世句百韻入、
[根は常盤ときはしばし紅葉もみぢぬ松のつた](百韻の発句/辞世;野梅集・大悟物狂入)
[鸞動(;号)の別号]獅子吼/形役庵けいえきあん、法号;無関知常信士

D4810 **蘭道**(らんどう;号)　?-　?　江前期俳人、大阪住のち諸国巡遊:諸所滞在、
来山・諷竹と交流、1701(元禄14)「婦多津物ふたつもの」編

D4809 **蘭奴**(らんど/らんぬ)　?-　?　狂歌;1780白縁斎梅好「大津みやげ」入

D4811 **蘭堂**(らんどう・太田おおた、文角男)?-1862　筑後久留米の俳人、父7回忌追善句集「霜円坐」編、

肥前長崎に没、
［蘭堂(;号)の通称］　平之進/映平
嵐堂(らんどう・沢)　→　*有節*(ゆうせつ・滝沢たきざわ/沢、俳人)　Ｄ４６１３
蘭堂(らんどう・花房)　→　*端連*(まさつら・花房はなぶさ/徳田、藩士/歌)Ｒ４０８２
蘭道(らんどう・桜井)　→　*要親*(としちか・桜井さくらい、代官/歌人)　Ｔ３１３６
藍堂(らんどう・久田)　→　*祐利*(すけとし・久田ひさだ、紺屋/歌人)　Ｊ２３０４
嬾道人(らんどうじん)　→　*秀石*(しゅうせき・渡辺/岩川、絵師/唐絵目利)Ｈ２１８８
D4812 **蘭徳斎**(らんとくさい、初世勝川春童/画姓;勝)?-?　江中期江戸の絵師;勝川春章(初世)門or春水門、
役者絵・武者絵・絵暦・黄表紙噺本の挿画など製作、1777「管巻」/77卯雲「譚嚢たんのう」噺本画、
1784「大平気」画、89長根「二口〆勘略縁起ふたくちしめてかんりゃくえんぎ」黄表紙挿画、
1793花丸「言葉の玉」挿画、「朝比奈一代記」「大江山大通山入」「徳本養老滝」外画多数、
［蘭徳斎(;号)の別号］　初世勝川春童/春道/祥用
蘭之助(蘭之輔らんのすけ・武居)　→　*節庵*(せつあん・武居/吉田、藩士/詩人)　Ｋ２４６９
蘭の舎(らんのや)　→　*紀孝*(のりたか・島村しまむら、商家/国学)　Ｉ３５７０
蘭坡(らんぱ;道号・景莅)→　*景莅*(けいし;法諱・蘭坡らんぱ、臨済僧)　１８６４
蘭発園(らんぱつえん、蘭発堂)→　*逸斎*(いっさい・高倉、藩士/考証)　Ｈ１１１５
D4813 **蘭阪**(らんばん・三浦みうら/旧姓;松田)1765-1843*79*　河内生/河内交野郡坂村の医者三浦懐仙の女婿、
医者;佐渡法眼門、本草学;鈴木蘭園門/小野蘭山門、京住;金石文精通、
「近古医史」「治痘新書」、1806「川内摭古小識」31「名物摭古小識せきこしょうしき」34「蘭阪随筆」著、
1836「斑鳩日記」、「或人物語」外著多数、
［蘭阪(;号)の名/字/通称/別号］名;義徳、字;季行/子行、通称;玄純、
別号;出雲行者/南行存庵/川内古雲行/恬嚢館てんのうかん/酔古堂
乱苗(らんびょう・横田)　→　*莠*(はぐさ・横田よこた、藩士/儒者/教育)　Ｋ３６９５
D4814 **蘭夫**(らんぷ)　?-?　越中魚津の俳人;1776樗良「誹諧月の夜」入
［涼しさやことに今宵の松の月］(月の夜;93)
蘭夫(らんぷ・岸)　→　*栗里*(ぞくり・岸きし、阿波の儒者)　Ｊ２５５５
蘭夫(らんぷ・中村)　→　*義芳*(よしふさ・中村なかむら、国学者)　Ｏ４７２３
D4815 **蘭風**(らんぷう・藤井ふじい、別号;水仙堂、萱野重実男)?-?　摂津箕面萱野かやのの俳人:西吟門、
甥;赤穂藩士萱野重実[涓泉けんせん]、子葉(大高源吾)と交流、
1708(宝永5)「萱野艸」「椎柴集」編、
爛斧樵夫(らんふしょうふ)　→　*莞爾*(かんじ・丸岡まるおか/吉村、藩士/国学)Ｖ１５８０
蘭平(らんぺい・佐々木)　→　*政二*(まさじ・佐々木ささき、藩士/俳人)　Ｃ４０６４
D4816 **蘭圃**(らんぽ)　?-?　江中期肥前長崎の俳人:枕山門、
1788(天明8)「俳諧落穂集」編
D4817 **嵐歩**(らんぽ・柳雫園りゅうだえん)?-?　江後期豊前小倉の俳人:藩士須田孫兵衛黙雷門、
1825(文政8)師黙雷の追善集「俳諧遺筆誌」編
蘭圃(らんぽ・藤岡)　→　*有貞*(ありさだ・藤岡ふじおか、算学/測量)　Ｆ１０３４
蘭圃(らんぽ・廬)　→　*驥*(き・廬ろ/栗崎くりさき、通事/詩文)　Ｊ１６４７
蘭圃(蘭畝らんぽ・安部)　→　*竜平*(りゅうへい・安部/安倍あべ/安、藩士/蘭学)Ｆ４９５２
藍浦(らんぽ・稲生/内山)→　*覚順*(かくじゅん・内山、藩士/本草家)　Ｋ１５０２
鑾峰(らんぽう・植木)　→　*玉厓*(ぎょくがい・植木うえき、幕臣/詩/狂詩)Ｃ１６９８
鸞鳳軒(らんぽうけん)　→　*薗八*(2世そのはち・松宮古路,宮薗節)　Ｅ２５１９
蘭丸(らんまる・清水)　→　*佩香園蘭丸*(はいこうえんらんまる、狂歌)　Ｂ３６２１
乱苗(らんみょう・横田)　→　*莠*(はぐさ・横田よこた、藩士/儒者/教育)　Ｋ３６９５
D4818 **藍明**(らんめい・木室きむろ、白鯉館卯雲男)?-?　狂歌作者;1776卯雲狂歌集「今日歌集」編
D4819 **蘭融**(らんゆう;道号・存芝ぞんし;法諱)?-1694　伯耆米子の曹洞僧;伯耆安国寺存慶門;出家、
伯耆倉吉の定光寺16世梅心英董門;法嗣、のち伯耆安国寺住持/1656倉吉定光寺17世、
伯耆東白寺住持、晩年は出雲広瀬の洞光寺辺の草庵住、「定光寺略縁起」著
鸞友(らんゆう・山田/岩波)→　*其残*(きざん・山田/岩波、俳人/画)　Ｋ１６６８
鸞雝(らんよう・内藤)　→　*忠世*(ただよ・内藤、藩家老/俳人)　Ｒ２６２２

4807 嵐蘭(らんらん・松倉まつくら、名;盛教)1647-9347　肥前島原藩主松倉家の支族、
板倉家の家臣(3百石)、嵐竹の兄、俳人:1675頃弟嵐竹と芭蕉に入門、芭蕉の信頼を得る、
1680「桃青門弟独吟廿歌仙」入、1685風瀑「一楼賦」入/1689あら野・91猿蓑14句入、
1690-91頃致仕;江戸浅草住、1692(元禄5)「罌粟合けしあわせ」編、
1693俳諧深川26句入/94炭俵・98続猿蓑2句入、
[百舌鳥のゐる野中の杭くひよ十月かんなづき](猿蓑;巻一)
[嵐蘭(;号)の通称/法号]通称;甚兵衛/又五郎/甚左衛門/文右衛門、法号;団雪宗鉄居士
D4820 嵐々(らんらん・大坪おおつぼ、別号;雁字庵)?-?　江中後期寛政1789-1801頃京の俳人:淡々門、
1790(寛政2)「俳諧国尽」著、「歌僊」編
蘭籬(らんり・篠田)　→　*梅竜*(ばいりゅう・武田/篠田、儒者)　Ｃ３６２０
蘭籬(らんり・南部)　→　*畔李*(はんり・南部、藩主/俳人)　Ｉ３６６０
D4822 嵐笠(らんりゅう)　?-　?　俳人;宋屋門
D4823 蘭陵(らんりょう・田中たなか/修姓;田)1699-1734*36* 幼時に孤児;叔父田中桐江に寄食/養育される、
江戸の儒者:荻生徂徠門/護園けんえんの少年四傑(岡井嶺州・山田麟嶼・板倉璜渓と)、
1711駒込白山住;白山塾を開塾講説、「謀野集刪」編、「樵漁余適」「修辞考」著、
「滄溟尺牘指事記」著、「蘭陵先生遺稿」蘭皐編、
[蘭陵(;号)の名/字/通称]名;良暢、字;子舒、通称;武助/武介
D4824 蘭亮(らんりょう)　?-　?　俳人;1736「船はし」著;許六野坡の往復書簡所収
D4828 蘭陵(らんりょう;道号・越宗おっしゅう;法諱、夜雨;号)?-1778 曹洞僧;無隠道費門;法嗣、
筑前朝倉郡円清寺に住、詩酒三昧の生活、晩年は出雲松江藩主松平家に招聘される、
1749「金竜尺牘集」編/70「蘭陵禅師草庵稿」73「少林一心戒普説」77「老之述懐」著、
「蘭陵禅師書牘」著
D4825 蘭陵(らんりょう・池辺いけべ、鶴林男)1726-82*57*　肥後熊本藩士/儒;玉山門、1748父没;家督継嗣、
禄百石/藩校時習館訓導/助教、詩文・書に長ず、「君道」/1767「寛永平寨禄」著、
藪孤山「楽泮集」附録1巻選(主君の再命により孤山の詩26首選)、「蘭陵遺稿」、
[蘭陵(;号)の名/字/通称]名;匡卿、字;匡卿(名に同じ)、通称;平太郎
D4826 蘭陵(らんりょう・宝田たからだ)?-　?(1804-18頃没;*42歳*) 越後村上藩士宝田修蔵の弟、
越後の儒者;17歳で江戸の古屋昔陽門/帰郷後村上藩に出仕;1803藩主内藤信敦の侍読、
多くの子弟を教育、村上藩に古学を導入、詩文に長ず、「蘭陵詩集」著、
[蘭陵(;号)の名/字/通称]名;忠行、字;士仲、通称;百助
D4827 藍梁(らんりょう・関せき、名;研、八右衛門宗順男)1805-63*59* 近江高島郡万木村の里正の家、
儒者;1822昌平黌に修学;林述斎門、1831(天保2)近江膳所藩儒;江戸藩邸儒員として教育、
1854米艦来航時幕命で林復斎に随い応接役を勤める、ペリー随行員羅森との詩の応酬、
藩主に国産奨励説得;園山茶園を開設、1830-35「惜陰楼詩稿」、「甲申帰省余記」著、
1832「駢題詩裒べんだいしほう」共編(;都沢徹とおると)、35「執鞭録」43-46「延藍楼乱稿」著、
[藍梁(;号)の字/通称/別号]字;克精、通称;研次、別号;湖西/惜陰楼
D4839 蘭陵(らんりょう・伊予屋吉左衛門/長門屋助九郎)1805-68*64* 安藝広島俳人/芸藩紙幣署名者の１?、
1826南亭「はつたより」入;[凩をのいて見て居るからすかな](「はつたより」)
藍陵(らんりょう・周布すふ)　→*五郎左衛門*(ごろうざえもん・周布兼親、藩士)Ｐ１９０７
蘭陵(らんりょう・本田)　→　*東陵*(とうりょう・本田ほんだ、儒者)　Ｉ３１２９
藍蓼庵(らんりょうあん)　→　*鳳朗*(ほうろう・田川/永井、俳人)　３９５８
D4829 蘭林(らんりん・中村なかむら/本姓;藤原、名;明遠、玄悦男)1687-1761*75* 江戸の幕医;1728家督嗣;
小普請/1745奥医/47奥儒者に転ず、儒:室鳩巣門、将軍徳川家重に近侍、1757致仕、
儒は考証を重視、柴野栗山の師、遺命で蔵書49部を足利学校に寄付、
1748「講習余筆」50「学山録」、「学山後録」「盈進斎筆録」「間窓漫録」「霊怪録」「群書総論」、
「衆説彙編」「証治指南」「通書解翼義」「辨詩伝膏肓」「蘭林翁手抄遊記」著/外編著多数、
[蘭林(;号)の字/通称/別号]字;子晦、通称;深蔵/玄春、別号;盈進斎、法号;蘭林院
D4830 蘭林(らんりん・大村おおむら)1724-1789*66*　肥後熊本藩に出仕、のち上京;儒者;西依成斎門、
1764(明和元)美作津山藩に招聘;儒官/藩校で教授/世子を補佐/のち郡代/刑法方を歴任、
「肥後経済録」「講習文武儀」「細川侯政事」著、

[蘭林(;号)の名/字/通称]名貞陸/貞達、字;子漸、通称;庄助/荘助

D4831 **蘭林**(らんりん・伊藤いとう、方斎男)1815-95*81*　土佐佐川の儒者;父門/広井遊冥門、家塾で教授、
経史のほか天文・詩文・書に通ず、維新後佐川の名教館の教官、
「蘭林詩抄」「東遊草」「秘本国尽」著、
[蘭林(;号)の名/字/別号]名;徳裕、字;益卿、別号;山陰

蘭林(らんりん・高橋)　→　*復斎*(ふくさい・高橋/山崎、藩儒/詩文)　Ｂ３８５３
蘭林(らんりん・久須美)　→　*祐雋*(すけとし・久須美/藤原、幕臣/文筆)Ｇ２３６５
蘭林斎(らんりんさい)　→　*常政*(つねまさ・須賀、絵師)　Ｄ２９７９
蘭露子(らんろし)　→　*皆遵*(かいじゅん:法諱、真宗本願寺派僧)Ｉ１５７４